科目名:OG42S6009　教育課程論	担当者:柴田 康正	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。
学校教育の根幹ともいうべき教育課程の問題を次の5つの視点から学び、編成方法を習得する。
①「だれが学校の教育課程を編成するか」という編成主体のあり方。
②「何を教育内容として選択し、構成するか」という内容選定の基準と原理の問題。
③学校の教育活動を全体としてどう構成するかという教育課程の全体構造の問題。
④学校の教育課程をどのように評価・改善するのかという問題。
⑤学校教育におけるカリキュラム・マネジメントの今日的意義と重要性。
講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。双方向型の授業を重視し、ディスカッションも多く取り入れていきたい。

授業の到達目標
① 学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解できる。（DP）
② 今日の教育動向や各学校の実情を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解できる。（DP）
③ 教育課程を支える基本的な考え方と仕組みを理解し、教育課程編成のための基礎的な能力の獲得をめざす。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
文献の購読や事前課題を30時間、グループワークの振り返り、復習、期末テスト対策等でおおよそ30時間の学習を要します。
課題意識を持って、意欲的に授業に臨んでほしい。教育問題に対して常に関心を持ち、参考文献なども読み進めておくことが求められます。

評価方法
①毎授業ごと小レポートを提出する。これらは評価の対象となる。
②課題の提出期限を厳守すること。
③授業の妨げとなるため、やむを得ない事情のない限り、遅刻は認めない。
④評価に関する主な観点は以下のとおりである。
・授業の議論の内容、及び参加状況　10%、課題（小レポート等）20%、定期試験　70%

教科書	参考図書
特に使用しない	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・連絡手段　月曜昼休み講師控室

01	今日の教育課題と教育課程
02	学習指導要領と教育課程
03	教育課程編成の基本問題①　―編成主体と編成原理
04	教育課程編成の基本問題②　―子どもの発達と教育課程
05	教育課程編成の基本問題③　―教育課程の構造
06	近代日本の教育課程
07	学習指導要領の変遷（第Ⅰ期）と社会的背景
08	学習指導要領の変遷（第Ⅱ期）と社会的背景
09	学習指導要領の変遷（第Ⅲ期）と社会的背景
10	教育課程編成の争点
11	今日的課題に挑戦する教育課程
12	教育実践における教育課程の諸問題
13	カリキュラム・マネジメントの意義
14	カリキュラム開発と評価方法
15	まとめ　諸外国の教育課程
16	

2024年度シラバス

科目名:OG41S8005　Seminar Ⅲ	担当者:井川 恵理	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to 'ability to use critical analysis based on the acquired knowledge and to offer logical messages to the globalized societies' mentioned in SLADE diploma policy.
Course Description: This seminar covers the preparation for Graduation Thesis/Seminar Portfolio as well as British Studies through designated materials, a book of Harry Potter series, and the U.K. current issues.
General Approach: Students will read the above book and discuss the related topic, prepare several drafts for graduation research and make a presentation. Class members are required to discuss other member's research content after the presentation. [EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to
A. Understand how the questions and hypotheses are important in the academic paper. [DP}
B. Understand how quotations and notes with sources are important in the academic paper. [DP}
C. Develop their English writing skills. [DP}
D. Professionally present their research both orally and in writing (in English and Japanese).[DP}

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1) For the Graduation Thesis, students are expected to finalize the theme and prepare the draft during the spring holiday after Seminar II. Each student is required to prepare for the handout before the presentation. 2) Book reading continues from Seminar II. 3) 2 hours of activity outside the class is required as well as 60 minutes of self-study in the ESC. 4) Research the U.K. culture in Japan and compare it to the Japanese one in the seminar trip.

評価方法
1. Active Participation in Class Discussion & Research Preparation and Presentation (60%)
2. SLADE Holistic Reflection Preparation (35%),
3. 2-hour self-study including 60 minutes work in the ESC per week (5%)
4. Feedback is given as a comment to the submitted document.

教科書	参考図書
Guide Book for Seminar and Graduation Research, J.K. Rowling, _Harry Potter and the Chamber of Secrets_ (Bloomsbury 1998), G	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Eri Ikawa's office is 7310. Contact e-mail address will be given in class.

01	Introduction, Explanation of the course schedule, Registraion, Holistic Reflection draft submission, _Harry Potter and the Prisoner of Azkaban_Ch. 14-15
02	My Plan and Registration Check, _Harry Potter and the Philosopher's Stone_Ch. 16-18,
03	Understanding the graduation thesis/ portfolio, _Harry Potter and the Philosopher's Stone_Ch. 19-20
04	_Harry Potter and the Philosopher's Stone_Ch. 20-21, SLADE holistic reflection revision,
05	SLADE holistic reflection due, Brainstorming for the Research Paper
06	Itemize the Topics for the Research Paper
07	Research Presentation and Discussion (1) Important Words and Phrases,
08	Research Presentation and Discussion (2) Evidence
09	Research Presentation and Discussion (3) Notes and References
10	Research (Thesis) 1st draft due,
11	Thesis Revision (1) Arranging the Pages
12	Thesis Revision (2) Subjective view and Objective Description
13	Thesis Preparation, Midway Discussion Preparation
14	Midway Discussion with Other Seminar Groups
15	Midway Discussion Reflection, Plan for Summer
16	None

2024年度シラバス

科目名:OG41S8005　Seminar Ⅲ	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to ability to use critical analysis based on the acquired knowledge and to offer logical messages to the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. This seminar covers the various field of Language Learning, Teaching, and Positive Psychology. Students will research on an area of Language Learning, Teaching, or Positive Psychology that interests them. Students will also be required to write a Holistic Reflection of the 4 years in SLADE.「EN」

授業の到達目標
1. Develop English writing skills (DP).
2. Apply the skills of Language Learning, Teaching, Positive Psychology in their lives(DP).
3. Conduct their own independent research(DP).
4. Present their research in a professional manner both orally and in writing

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1) Collect data, read books / articles (2 hours).
2) Apply the skills in their daily lives and write papers. (1 hour or more).
3) Rewrite papers (1 hour).
4) Study mainly TOEIC in ESC (1 hour).

評価方法
1. Active Participation in class (assignment, discussion, being on time to class) (15%)
2. Research Paper (50%) 3. Oral report on the thesis (30%) 4. TOEIC study at ESC (5%)
Feedback: students receive written comments via email or on the Moodle.

教科書	参考図書
They will be provided by the instructor.	To be introduced in class.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office hours and e-mail will be announced in the first class.

01	Course Overview, My plan
02	My Plan & Registration Check, Understanding the format of graduation thesis
03	Itemize the content of SLADE holistic reflection, introduction of research topics
04	SLADE holistic reflection revision
05	SLADE holistic reflection due, Research Paper brainstorming
06	Itemize the topics for Research Paper
07	Research Presentation & Discussion (1)　outline
08	Research Presentation & Discussion (2) searching for references
09	Research Presentation & Discussion (3) sharing thesis topics
10	Thesis 1st draft due
11	Thesis revision (1)　outline
12	Thesis revision (2)　grammar
13	Thesis preparation, Midway Discussion Preparation
14	Midway Discussion
15	Midway Discussion Review, Plan for Summer
16	None

2024年度シラバス

科目名:OG41S8005　Seminar Ⅲ	担当者:笹生 友広	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本ゼミでは学芸学部ディプロマポリシーにある「批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」の習得が望まれる。3年次に学習した内容に基づいて卒業研究テーマを確定し、現地調査及び文献の研究を行い、後半からは卒業論文の作成を始める。また、豊明市フィールドワーク参加、観光まちづくりアワードへの応募など実務的な活動も実施する。[AL]

授業の到達目標
卒業論文のテーマを確定し、各自の考え方を提案できるように、まずは十分な現地調査を行う。現地調査は授業内では不可能なため、各自が計画的に課外活動を実施し、卒業論文作成に向けての準備を行う。同時に種々の文献を研究し、自分なりの提案をまとめる。これまでに学んだものを基に学術論文を完成させる。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
卒業論文のテーマに沿って各自で学外での研究調査及び卒業論文の作成を行う。観光に関する研究は文献を参照するだけでは不充分で必ず現地調査に基づいた研究内容とする。前期で3～4回の調査が必要。
また、継続した英語学習を目的としてESCの活用を推進する。週1回、60分以上とし必ず担当教員の署名を貰い、最終的にはゼミ教員に提出する。
事前学修、事後学修で週に4時間以上が望まれる。

評価方法
授業の参加態度（30%）、卒業論文の調査・研究（35%）、卒業論文の作成（30%）、ESCでの学修（5%）

各レポート等の発表については、発表時の質疑応答を含め評価コメントを行う。提出の成果物については、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた内容等のフィードバックコメントを添えて評価を示す。

教科書 特になし	参考図書 観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『週間トラベルジャーナル』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301室

01	4/11 授業概要・授業計画、MY planの作成と確認
02	4/18 卒業論文の研究課題の確定①
03	4/25 卒業論文の研究課題の確定②　【SLP作成】
04	5/09 卒業論文の研究課題の確定③　【SLP作成】
05	5/16 卒業論文の研究課題の確定④　【SLP発表】
06	5/23 卒業論文の研究課題の確定⑤
07	5/30 卒業論文に関する調査・研究①
08	6/06 卒業論文に関する調査・研究②
09	6/13 卒業論文に関する調査・研究③
10	6/20 卒業論文に関する調査・研究④
11	6/27 卒業論文の作成及び推考①
12	7/04 卒業論文の作成及び推考②
13	7/11 卒業論文の作成及び推考③
14	7/18 卒業論文の作成及び推考④
15	7/25 卒業論文の作成及び推考⑤
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG41S8005　Seminar Ⅲ	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を涵養するための授業です（AL）。
（１）卒業論文のトピックについて深く調べていきます。
（２）参考文献・論文を読んで自分の視点を確立していきます。
（３）日本との関係、日本との比較を意識しながら自分の視点で「韓国」を分析します。
（４）調べた情報について他社と共有しディスカッションします。
（５）情報収集のために現地調査を実施することがあります。
（６）社会的な意識を高めるための活動を取り入れることがあります。

授業の到達目標
韓国・韓国人を多角的に理解します（DP)。
批判的思考および国際社会で通用する物事の考え方や表現方法を身につけて、課題発表やレポート・卒業研究における独自性・創造性を涵養します（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
○準備学修：参考文献や論文を読んでください。必要時間：約2時間
○事後学修：論文テーマに関する疑問点をさらに調べてまとめてください。必要時間：約２時間

評価方法
①TOEIC受験　5%
②授業参加態度　10%
③参考文献（教員が選んだ文献）のまとめ　20%
④マイ文献（自ら選んだ文献）のまとめ　20%
⑤発表・ディスカッション　15%
⑥Midway Discussionの準備　10%
⑦コメントシートの作成　10%
⑧CR　10%
○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。
○「授業参加態度」は、授業の参加姿勢や課題などの提出期限を守るかなどを考慮する。

教科書	参考図書
オリジナル資料	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①自分の視点を持って取り組みましょう。
②この授業は毎週の課題の取り組みと自分の視点を意識することが重要です。
オフィスアワー：水曜日2限　金曜2限
連絡方法は、Moodleと大学のメールでお願いします。

01	ガイダンス、履修計画の確認
02	卒業論文執筆の概要、卒業論文の書き方①
03	卒業論文の書き方②
04	卒業論文執筆の計画を立てる
05	マイ文献を探そう、選書ツアー
06	参考文献を読む①
07	参考文献を読む②
08	参考文献を読む③
09	マイ文献の発表①
10	マイ文献の発表②
11	マイ文献の発表③
12	マイ文献の発表④
13	Midway Discussion（卒論中間ディスカッション）の準備
14	Midway Discussion（卒論中間ディスカッション）
15	まとめと振り返り（Course Reflection）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG41S8005　Seminar Ⅲ	担当者:Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the ability to use critical analysis based on the acquired knowledge mentioned in the SLADE diploma policy. This seminar covers the broad field of women's domestic and global issues. The course focuses on deepening knowledge of chosen topics and working on their seminar portfolio, seminar project and writing skills. Students will decide the women's issue that will be used for the "Phone Booth Project" and then, work on completing the steps of the project. Students will read and view artifacts about women's domestic and global issues and/or NPO's/NGO's and respond to them in discussion and writing in order to build their seminar portfolio and complete steps in the "Phone Booth Project" [AL, EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to…. a. Identify and explain their ideas for a researched opinion essay. [DP] b. Conduct their own independent research [DP] c. Develop their English writing skills d. Develop their skills in critical thinking [DP] e. Use writing and bibliographic conventions appropriate to an academic context. f. Cooperate to complete steps of a project.

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Be organized - prepare and complete tasks early. Bring your materials to class each week. Set your goals and make a plan to complete them. Be responsible for your own time management and achieving your goals. For the purpose of continuing English study, studying mainly TOEIC in the ESC is recommended. Once a week, 60 minutes or more study with teacher's signatures is required. Students are asked to study 2 hours per week outside of class.

評価方法
1. Active Participation - 30% 2. Homework/project - 50% 3. Rewrite Researched Opinion Essay - 15% 4. ESC Study 5% Feedback: Students receive edit suggestions after each section of essay is rewritten. Students receive edit suggestions after each section of essay is rewritten. On each class day students receive suggestions about completing project steps

教科書	参考図書
Course materials will be provided by the teacher.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Mac computer required. Access to SLADE Moodle site required. There are no prerequisites for this course. Shannon Kiyokawa's office is 7325; her office hours will be announced. Her e-mail is kiyokawa@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Course Overview; My Plan
02	My Plan finalized; Registration check
03	Essay Rewrite (Body) / Phone Booth Project (decide topic, make timeline)
04	Essay Rewrite (Citations) / Phone Booth Project (phone booth design)
05	Essay Rewrite (Citations) / Phone Booth Project (research topic)
06	Essay Rewrite (Introduction) / Phone Booth Project (research topic)
07	Essay Rewrite (Conclusion)/ Phone Booth Project (topic discussion)
08	Essay Rewrite (Conclusion)/ Phone Booth Project (topic discussion)
09	Essay Rewrite (References)/ Phone Booth Project (decide poster topics)
10	Midway Discussion Presentation/Phone Booth Project (supplies check, shopping list)
11	Final rewritten essay due /Phone Booth Project (Shopping)
12	Phone Booth Project (painting and/or poster work)
13	Midway Discussion Preparation /Phone Booth Project (painting and/or poster work)
14	Midway Discussion/Phone Booth Project (painting and/or poster work)
15	Phone Booth Project (painting and/or poster work)
16	None

2024年度シラバス

科目名:OG42S8006　Seminar Ⅳ	担当者:井川 恵理	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to 'ability to use critical analysis based on the acquired knowledge and to offer logical messages to the globalized societies' mentioned in the SLADE diploma policy.
Course Description: This seminar covers the preparation for Graduation Thesis/Seminar Portfolio as well as British Studies.
General Approach: Students will prepare several drafts for graduation research and make a presentation. Class members are required to discuss other member's research content after the presentation. [AL, EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to
A. Understand how the questions and hypotheses are important in the academic paper. [DP]
B. Understand how quotations and notes with sources are important in the academic paper.
C. Develop their English writing skills. [DP]
D. Professionally present their research both orally and in writing (in English and Japanese). [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1) For the Graduation Thesis, each student is required to finalize the Holistic Reflection and prepare the draft of the graduation thesis.
2) Be ready to explain the research content orally for the presentation.
3) 2 hours of activity outside the class is required as well as 60 minutes of self-study in the ESC.
4) Edit Ikawa Seminar Graduation Research Booklet.

評価方法
1. Active Participation in Class (being on time to class, actively listening to others, discussing the issue (30%)
2. GR Preparation, Presentation, and Revision (40%)
3. Revision of SLADE Holistic Reflection (15%)
4. Revision of Introduction (5%)
5. 60 minutes work per week in the ESC (5%)
6. TOEIC L&R IP (5%)
7. Feedback is given to each submitted document as a comment note.

教科書	参考図書
Guide Book for Seminar and Graduation Research 2021-2022, J.K. Rowling, _Harry Potter and the Chamber of Secrets_ (Bloomsbury, 1998)	To be introduced in class.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Eri Ikawa's office is 7310. Contact e-mail address will be given in class.

01	Introduction, explanation of the course schedule, My Plan
02	My Plan and Registration Check, Confirmation of the format of Graduation Research
03	SLADE Holistic Reflection Revision
04	Thesis Research Presentation and Discussion (1) Members 1, 2
05	Thesis Research Presentation and Discussion (2) Member 3, 4
06	Thesis Research Presentation and Discussion (2) Member 5, 6
07	Thesis Research Presentation and Discussion (2) Member 7, Preparation for the Introduction Section
08	Revision of the Thesis Content (Notes and References), Final draft submission
09	Final draft revision
10	Final Submission of GP due□ Final Submission of GP due
11	Graduation Special Lecture
12	Final Submission handed back
13	Thesis revision
14	Revised Submission and digital versions of GP due
15	Preparation for Oral Presentation□ Preparation for Oral Presentation
16	Oral Presentations, TOEIC LR IP

2024年度シラバス

科目名:OG42S8006　Seminar Ⅳ	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to ability to use critical analysis based on the acquired knowledge and to offer logical messages to the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. This seminar covers the various field of Language Learning, Teaching, and Positive Psychology. Students will research on an area of Language Learning, Teaching, or Positive Psychology that interests them. Students will also be required to write a Holistic Reflection of the 4 years in SLADE.「EN」

授業の到達目標
1. Develop English writing skills (DP).
2. Apply the skills of Language Learning, Teaching, Positive Psychology in their lives(DP).
3. Conduct their own independent research(DP).
4. Present their research in a professional manner both orally and in writing

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1) Collect data, read books / articles (2 hours).
2) Apply the skills in their daily lives and write papers. (1 hour or more).
3) Rewrite papers (1 hour).

評価方法
1. Active Participation in class (assignment, discussion, being on time to class) (10%)
2. Research Paper (50%) 3. Oral report on the thesis (30%) 4. Taking TOEIC (5%) 5. ESC use (5%)
Feedback: students receive written comments via email or on the Moodle.

教科書	参考図書
They will be provided by the instructor.	To be introduced in class.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office hours and e-mail will be announced in the first class.

01	Introduction, explanation of the course schedule, My Plan
02	My Plan and Registration Check, Confirmation of the format of graduation thesis
03	Learn from the SLADE Graduates' Works
04	SLADE holistic reflection revision, preparation for the Introduction
05	Thesis Research Presentation & Discussion (1) Body
06	Thesis Research Presentation & Discussion (2) Introduction & Conclusion
07	Thesis Revision of the Content (Format)
08	Revision of the Thesis Content (Notes & References), Final draft submission
09	Final draft revision
10	Final Submission of Graduatin Thesis due
11	Graduation Special Lecture
12	Final Submission handed back
13	Graduation Thesis Revision
14	Graduation Thesis (Revised Submission) and digital versions due
15	Preparation for Oral Presentation
16	Oral Presentation

2024年度シラバス

科目名:OG42S8006　Seminar Ⅳ	担当者:笹生 友広	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本ゼミでは学芸学部ディプロマポリシーにある「批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」の習得が望まれる。卒業研究においては前期の現地調査及び文献等の研究に基づいて卒業論文を完成させる。まずは夏季休暇中に全体の概要を作成して学期当初に提出し、内容を確認した上で研究内容を深化させる。[AL]

授業の到達目標
卒業研究の完成が最大の課題であり、各自の現地及び文献等調査に基づいた卒業論文作成において、各自の独創的な考え方を見いだして学術的な論法が出来るようになる。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
卒業論文完成に向けて充分な思考を積み重ねる。
事前学修、事後学修で週に4時間以上の学修が望まれる。
なお、授業外の活動の予習復習には、1単位に対して2時間があればよい。

評価方法
授業への参加態度（10%）、卒業論文制作取り組み（10%）、卒業論文内容（70%）、ESCでの学修（5%）、TOEIC受験（5%）

各レポート等の発表については、発表時の質疑応答を含め評価コメントを行う。提出の成果物については、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた内容等のフィードバックコメントを添えて評価を示す。

教科書	参考図書
特になし	観光関連専門雑誌　㈱トラベルジャーナル発行』『トラベルジャーナル』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室

01	10/03 授業概要・履修計画、My planの作成と確認
02	10/10 卒業論文の第1次案提出
03	10/17 卒業論文の作成と推考①
04	10/24 卒業研究の作成と推考②
05	11/07 卒業論文の作成と推考③
06	11/14 卒業論文の作成と推考④
07	11/21 卒業論文の作成と推考⑤
08	11/28 卒業論文の作成と推考⑥
09	12/05 卒業論文の作成と推考⑦
10	12/12 卒業論文提出
11	12/19 卒業記念講演
12	12/26 卒業論文推考
13	01/09 卒業論文原稿返却
14	01/16 卒業論文及びデジタルデータ最終提出及び発表準備
15	01/23 卒業論文及びデジタルデータ最終提出及び発表準備
16	01/30 卒業研究発表

科目名:OG42S8006　Seminar Ⅳ	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を涵養するための授業です（AL）。
（１）蓄積したデータ、培ってきた見解を生かして卒業論文を執筆します。
（２）情報収集のために現地調査を実施することがあります。
（３）社会的な意識を高めるための活動を取り入れることがあります。

授業の到達目標
韓国・韓国人を多角的に理解します（DP)。
批判的思考および国際社会で通用する物事の考え方や表現方法を身につけて、課題発表やレポート・卒業研究における独自性・創造性を涵養します（DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
○準備学修：参考文献や論文を読んでください。必要時間：約2時間
○事後学修：論文テーマに関する疑問点をさらに調べてまとめてください。必要時間：約２時間

評価方法
①TOEIC受験　5%
②授業参加態度　10%
③卒業論文の作成と推敲　60%
④発表の準備　15%
⑤CR　10%
○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。
○「授業参加態度」は、授業の参加姿勢や課題などの提出期限を守るかなどを考慮する。

教科書	参考図書
オリジナル資料	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①自分の視点を持って取り組みましょう。
②この授業は毎週の課題の取り組みと自分の視点を意識することが重要です。
オフィスアワー：水曜日2限　金曜2限
連絡方法は、Moodleと大学のメールでお願いします。

01	ガイダンス、履修計画の確認
02	卒業論文下書きの提出
03	卒業論文作成と推敲①
04	卒業論文作成と推敲②
05	卒業論文作成と推敲③
06	卒業論文作成と推敲④
07	卒業論文下書きの提出
08	卒業論文作成と推敲⑤
09	卒業論文作成と推敲⑥
10	卒業論文の提出（Final Submission of GT)
11	卒業記念講演会
12	卒業論文の推敲
13	卒業論文の返却
14	卒業論文修正版の提出(Revised Submission & digital versions of GT)
15	口頭発表の準備、Course Reflection
16	卒業論文のポスター・プレゼンテーション

2024年度シラバス

科目名:OG42S8006　Seminar Ⅳ	担当者:Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the ability to use critical analysis based on the acquired knowledge mentioned in the SLADE diploma policy. It is a continuation of Seminar III. This seminar covers the broad field of women's domestic and global issues. The course focuses on deepening knowledge of chosen topics and working on seminar portfolio and writing skills. Students will continue to complete all the steps of the "Phone Booth Project". Students will read and view artifacts about women's domestic and global issues and/or NPO's/NGO's and respond to them in discussion and writing in order to build their seminar portfolio and complete steps in the "Phone Booth Project" [AL, EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to….a. Conduct their own independent research [DP] b. Develop their English writing skills c. Develop their skills in critical thinking [DP]d. Work together to complete a project.

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Be organized - prepare and complete tasks early. Bring your materials to class each week. Set your goals and make a plan to complete them. Be responsible for your own time management and achieving your goals. For the purpose of continuing English study, studying mainly TOEIC in the ESC is recommended. Once a week, 60 minutes or more study with teacher's signatures is required. Students are asked to study 2 hours per week outside of class. Students are required to take the TOEIC test in Jan./ Feb. when SLADE offers it. Not taking the TOEIC at that time is 5% off (-5%) your grade

評価方法
1. Active Participation - (20%) 2. "Phone Booth" Project (30%) 3. "Phone Booth" Project Report (30%) 4. Holistic Reflection (20%) 5. ESC study = 5%. 6. Failing to take the TOEIC in Jan. -5% Feedback: Students receive edit suggestions after each draft of Holistic Reflection is written. On each class day students receive suggestions about completing project steps.

教科書	参考図書
Course materials will be provided by the teacher.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Mac computer required. Access to SLADE site required. Shannon Kiyokawa's office is 7325; her office hours will be announced. Her e-mail is kiyokawa@ohkagakuen-u.ac.jp Any questions or concerns about the course should be discussed with Shannon.

01	Course Overview/ My Plan
02	My Plan finalized; Registration check/Holistic Reflection
03	Holistic Reflection/"Phone Booth Project" (update timeline, posters check)
04	Holistic Reflection /"Phone Booth Project" (laminate posters)
05	Holistic Reflection 1st draft due /"Phone Booth Project"(complete phone booth, post posters)
06	"Phone Booth Project" report 1st draft due
07	Holistic Reflection Edit back; seminar portfolio TOC, references
08	"Phone Booth Project" report final draft due
09	Seminar Portfolio Check
10	Final Submission of GP due
11	Graduation Guest Lecture Event
12	Final Submission handed back
13	GP revision
14	Revised Submission and digital versions of GP due
15	Preparation for oral presentation
16	Oral Presentation of Graduates

科目名:OG42S8107　Graduation Research	担当者:井川 恵理、柳田 綾、笹生 友広、都 恩珍、Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to ability to use critical analysis based on the acquired knowledge and to offer logical messages to the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. The aim of this course is to involve the student in processing all the knowledge and skills they have gained, in order to explore a specific in-depth topic in the field of Liberal Arts and their Seminar classes. Students will research areas of inquiry for human development. Through either a researched opinion essay and projects or thesis research, students will present their results in a scholarly and professional format. The graduation document will include a holistic reflection of their four years of study in liberal arts in both the language of their seminar and English. Students will communicate this knowledge in both spoken and written modes. The process of developing their graduation document is cyclical and conducted with the student's seminar teacher. [AL EN for some seminars]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to….
a. Research a topic of their interest independently [DP]
b. Evaluate ideas and opinions and bring learning together [DP]
c. Complete research projects independently and within their seminar group
d. Write, revise, edit and proofread either a researched opinion essay or research paper, other required documents and a 4-year SLADE holistic reflection [DP]
e. Understand and use basic conventions of formal academic writing
f. Present and talk in detail about the content of their graduation document(s). [DP]

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students are required to prepare for the graduation research based on the following schedule
1. Midway Discussion Week 14 of Spring Semester
2. Completed 1st draft of Graduation Documents due - Week 7 of Fall Semester (to Seminar teacher)
3. Final Submission of Graduation Documents due - Week 10 of Fall (to office)
4. Graduation Special Lecture - Week 11 of Fall
5. Return of Final Submission - Week 13 of Fall
6. Revised Submission of Graduation Documents due - Week 14 of Fall (to office)
7. Oral Presentation based on Graduation Documents - Week 16 of Fall
The graduation document must be 6000 English words (or 15,000 Japanese moji) in length and word count may not include Title page, Contents page, References or Appendices (except those made by the student in research). It must be written in a formal, academic style, with APA or MLA formatting and conventions. The document should be typed, with 450 words per A4 page approximately, in Times New Roman 12 pt. font and double line spacing. Headings and data such as tables and graphs should be displayed as appropriate.

評価方法
1. Final Graduation Document = 75% (includes 4-year SLADE holistic reflection in both English and Japanese 20%)
2. Oral Presentation = 25%
　The Graduation Document will be evaluated on the following
Content = 20%
Viewpoint = 20%
Structure = 15%
Mechanics = 10%
References/Style = 10%
　The Oral Examination will be evaluated on the following
5-minute oral presentation on thesis or portfolio = 25% (Rubric will be given)
Feedback will be provided to individuals on next class days, final course day to group & at other times depending on seminar teacher choices. Oral Presentations feedback to be given on rubrics after completion.

教科書	参考図書
Please refer to the guidebook for seminars and graduation research.	Students should consult with their seminar teacher and independently find information and resources.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Contact: Your seminar teacher will provide his/her contact information.
Students should be prepared to revise and refine their learning and research process and edit their graduation documents several times in accordance with guidance from their seminar teachers. Students should also be well organized and hand documents in on time. See the Graduation Guidebook for more details.

01	Course Explanation
02	Topic finalized
03	Thesis statement finalized
04	Independent research and writing (1)
05	Independent research and writing (2)
06	Independent research and writing (3)
07	Completed 1st draft of Graduation Documents due
08	Editing
09	Editing
10	Final Submission of Graduation Documents due
11	Graduation Special Lecture

12	Explanation of Graduation Oral Interview
13	Return of Final Submission
14	Revised Submission of Graduation Documents due
15	Draft of 5-min oral presentation due
16	Oral Interviews

科目名:OG41Z9008　教育実習指導	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
（概要）本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を教育分野で発揮することを大きな目標として運用されるものである。　教育実習を実施するにあたり、これまでに学んだ「英語科教育法」「道徳の指導法」など教育実習生として求められる知識や技術を実際の教育現場において使うことができるように再確認していく。また、実習生に求められる姿勢や具体的な実習記録簿の書き方・教育実習中の心得/規則等についても過去の事例から必要なことをピックアップして説明していく。

授業の到達目標
a. 教育実習の意義、目的を理解することができる。 b. 教育実習に出かける姿勢を再確認することができる。 c. 実習の３要素（観察／参加／実習）の持つ意味を理解することができる。 d. 各種講義で学んだ知識をどのように実践にいかすべきか？考えることができる。 e. 教育現場における、必要な生徒指導の方法を理解することができる。 f. 教職課程における介護等体験の意義を理解することができる。g. 言語・異文化を理解する能力を教壇で示すことができる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各実習校の教育目標や教育実践方法を自ら確認し、事前指導にも積極的な姿勢で参加する必要がある。実習後は各学校の行事等にも参加し、学習者とのコミュケーションを継続しながら、学習者を多面的な観点で見つめられる姿勢を保つことが要求される。また、教育に関係するボランティアやインターンシップ、フィールドワークにも機会があれば積極的に取り組むこと。

評価方法
①　CRP　　１０％②　実習日誌内容　　４０％③　学期末レポート　　５０％

教科書	参考図書
教育実習の手引き（桜花学園大学学芸学部版）	文部科学省　中学校／高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業には次の受講要件が適用される。３年次終了までに、学科で指示した免許取得に必要な全ての授業を履修し、単位取得していることが原則である。また学科が指定する各種教育実習実施許可要件を満たしていることも必須である。これらの他、学科教職課程委員会、及び教育実習委員会の判断が履修条件に加わることがある。教育実習は、教師を目指す者にとって、大変重要な位置づけのものである。教壇に立つ者としてのきちんとした姿勢を最後まで崩さず、実習前後に限らず、常に教職の勉強に取り組むことが重要である。

01	教育実習の課題と実施計画
02	中学校における観察・参加の実際について
03	中学校における部分実習・指導実習の実際について
04	高等学校における観察・参加の実際について
05	高等学校における部分実習・指導実習の実際について
06	実習目標、課題についての教育現場からの提言【※中間アンケート実施】
07	学習指導案の意義と作成方法確認（中学校／高等学校共通−特別活動）
08	学習指導案の意義と作成方法確認（中学校／高等学校共通−総合的な学習の時間）
09	学習指導案の意義と作成方法確認（中学校−道徳）
10	学習指導案の意義と作成方法確認（中学校−外国語／英語）
11	学習指導案の意義と作成方法確認（高等学校−外国語）
12	実習日誌の記録方法について
13	教育実習についての諸注意
14	介護等体験の持つ意味、および教育実習との関係
15	教育実習・介護等体験の総括
16	なし

科目名:OG43Z9009　教育実習Ⅰ	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	実習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期・後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本実習は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を教育分野で実際に発揮することを大きな目標として運用されるものである。具体的な実習概要と方法は以下の通りである。（概要）中学校、または高等学校における３週間の実習である。（方法）各学校の指導による。

授業の到達目標
中学校、または高等学校における３週間の実習で、観察・参加・実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。理解が求められる具体的な内容は次のとおりである。a. 学校の役割や機能についての理解ができる。b. 学校に就学している生徒の実際についての理解ができる。c. （主として）参加・実習を通し、中学校の教育（教科／特別活動／総合的な学習の時間等の指導、生徒指導等）の実際についての理解ができる。d. 各学校における教諭の職務内容についての理解ができる。e. 各学校と家庭、地域との関係についての理解ができる。f.批判的思考で学校教育を見つめ、論理・創造的発信力を教壇でいかす。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実際に教壇に立つ者としての自覚を持ち、教育実践を行うのに必要な知識等を幅広く集めること。常に教育関連のニュースに目を向ける姿勢も必要である。尚、教育に関するボランティア等を実習前に経験しておくことも強く薦められる。

評価方法
A. 評価の方針：実習校からの評価を中心とする。B. リフレクションとフィードバック：教育実習指導（講義科目）において、必要な事前指導を行う。また、実施後も同講義において、各実習の様子について交流・反省をし、教育実習の持つ意義や課題を再確認していく。C. 評価に関する要件：実習校からの評価、実習日誌、実習後に求めるレポートを総合評価する。

教科書	参考図書
学部指定の実習記録、他実習校より指示があったもの。	文部科学省　中学校／高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習実施までに、学科が指定した教職課程に関する授業を履修済みであること。ならびに、学科教育実習委員会が許可した者が、教育実習の登録をすることができるものとする。実習中は、常に担当教員と連絡がとれるようにしておく（緊急時の携帯電話や通常コミュニケーションとしてムードルサイトの利用など）予定である。　研究室　７３１１

01	各実習校の指示に従い、教育実習を実施していく。教育実習にあたっては、各学校の関係教員による講義を受け、観察・参加・実習の３分野を状況に応じて経験／実施していくことになる。各学校においては３週間の実習のうち、学校関係者による講義を１５時間分（週５回）受けるものとし、観察・参加・実習を全て合わせた実習総合は９０時間（週あたり３０時間）以上を実施するものとする。これにより、最終的に評価が可能な場合は４単位を修得するものとする。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OG43Z9010　教育実習Ⅱ	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	実習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期・後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本実習は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を教育分野で実際に発揮することを大きな目標として運用されるものである。具体的な実習概要と方法は以下の通りである。（内容）原則として高等学校における２週間の実習である。（高等学校で３週間実施の場合は、教育実習Iを履修するものとする）（方法）各高等学校の指導による。

授業の到達目標
高等学校における２週間の実習で、観察・参加・実習を通して、教育の実際を体験的に理解する。理解が求められる具体的な内容は次のとおりである。a. 高等学校の役割や機能についての理解ができる。b. 高等学校に就学している生徒の実際についての理解ができる。c. （主として）参加・実習を通し、高等学校の教育（教科／特別活動／総合的な学習の時間等の指導、生徒指導等）の実際についての理解ができる。d. 高等学校教諭の職務内容についての理解ができる。e. 高等学校と家庭、地域との関係についての理解ができる。f.批判的思考で学校教育を見つめ、論理・創造的発信力を教壇でいかす。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
実際に教壇に立つ者としての自覚を持ち、教育実践を行うのに必要な知識等を幅広く集めること。尚、教育に関するボランティア等を実習前に経験しておくことも強く薦められる。

評価方法
A. 評価の方針：実習校からの評価を中心とする。B. リフレクションとフィードバック：教育実習指導（講義科目）において、必要な事前指導を行う。また、実施後も同講義において、各実習の様子について交流・反省をし、教育実習の持つ意義や課題を再確認していく。実週中は、常に担当教員と連絡がとれるようにしておく（緊急時の携帯電話や通常コミュニケーションとしてムードルサイトの利用など）予定である。C. 評価に関する要件：実習校からの評価、実習日誌、実習後に求めるレポートを総合評価する。

教科書	参考図書
学部指定の実習記録、他実習高等学校より指示があったもの。	文部科学省　高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
実習実施までに、学科が指定した教職課程に関する授業を履修済みであること。ならびに、学科教育実習委員会が許可した者が、教育実習の登録をすることができるものとする。実週中は、常に担当教員と連絡がとれるようにしておく（緊急時の携帯電話や通常コミュニケーションとしてムードルサイトの利用など）予定である。　研究室　７３１１

01	各実習校の指示に従い、教育実習を実施していく。教育実習にあたっては、各学校の関係教員による講義を受け、観察・参加・実習の３分野を状況に応じて経験／実施していくことになる。各学校においては２週間の実習のうち、学校関係者による講義を４時間分（週２回）受けるものとし、観察・参加・実習を全て合わせた実習総合は２６時間（週あたり１３時間）以上を実施するものとする。これにより、最終的に評価が可能な場合は２単位を修得するものとする。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OG41Z9011　教職実践演習Ⅰ（中・高）	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭
この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校、特別支援学校での教育実習と介護等体験などから、教育現場が抱える各種問題や課題を明確にして、ディスカッションなど演習形式で解決するための方法を探っていく。

授業の到達目標
a. 教職課程の個々の科目の履修（教育実習、及び介護等体験を含む）により修得した専門的な知識・技能を再確認することができる。b. 教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担任しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力が身についているかどうか再確認することができる。c. 新学習指導要領を分析しながら教育課程における各領域の実践方法を考えることができる。d. 言語・異文化を理解する能力を持ち、批判的思考で学校教育を見つめることができる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教育実習の前後も本授業は設定されている。真剣な教育実習を実施するために、また真剣に教員を目指すものとして、本授業を受けた後に１年次から学んできた全ての教職に関係する授業内容をまとめ、そこでの学びをどのように教育実践にいかすべきか？常に資料を活用しながら考え、教師を志す強い意志を持続させることが必要である。

評価方法
①　CRP 10%②　各調査・研究課題に対するレポートならびに履修カルテの作成 40% ③　学期末のレポート 50%

教科書	参考図書
２０２２年度版　Twin Books完成シリーズ２　教職教養の演習問題（時事通信社）	文部科学省　中学校／高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学科で定める諸条件を満たし、当該年度に教育実習に行くことが許可されている者。教職課程履修に強い意欲と責任感を示す者。状況によっては本授業履修に当たり、学科教職課程委員会、ならびに学科教育実習委員会の判断が必要とされる場合がある。研究室：７３１１（石渡）

01	はじめに　-この授業の目的と前期の進め方（教職実践演習とは何か？）
02	講義①及び演習①-教職ポートフォリオ、教職履修カルテ（SLP版）について
03	ディスカッション①及び講義①-現在の教育問題を考える１-学習指導要領の変遷が意味するもの
04	模擬授業及び解説①-学習指導要領を考える１-　（理想的な中学校英語授業の学習指導案とは？）
05	模擬授業及び解説②- 学習指導要領を考える２-　（理想的な中学校英語授業の教材とは？）
06	模擬授業及び解説③-学習指導要領を考える３-（理想的な高等学校校英語授業の学習指導案とは？）※中間アンケート実施予定
07	模擬授業及び解説④- 学習指導要領を考える４-（理想的な高等学校英語授業の教材とは？）
08	模擬授業及び解説⑤-新学習指導要領を考える５-（理想的な中学校道徳授業の進め方）
09	模擬授業⑥-新学習指導要領を考える-（理想的な中学校道徳授業の教材とは？）
10	英語教育とICT①教材作成とICT
11	英語教育とICT②教授方法とICT
12	ディスカッション②-教育実習を通して見えてきたもの-学校教育と諸問題～教師の視点から～
13	ディスカッション③及び講義②-教育実習分析１-（理想的な中学校・高等学校英語授業分析の視点とは？）
14	英語教育とICT③PowerPointスライド作成とICT
15	英語教育とICT④デジタル教科書（英語）の活用 中学校新学習指導要領では何が求められているのか？
16	まとめ一中学校・高等学校学習指導要領では何が求められているか ※学期末アンケート実施
17	後期講義①及び調査②-望ましい介護等体験のあり方について（特別支援学校調査）＜担当：柳田・（専門家による講話を予定）＞
18	後期発表①-介護等体験では何を学ぶのか？（特別支援学校）＜担当：柳田＞
19	後期講義②及び調査③-望ましい介護等体験の在り方について（老人福祉施設調査）＜担当：柳田＞
20	後期発表②-介護等体験では何を学ぶのか？（老人福祉施設）＜担当：柳田＞
21	後期講義③及びディスカッション①-教育実習を振り返る１-（理想的な高等学校校英語授業とは？）＜担当：柳田＞
22	後期ディスカッション②- 教育実習を振り返る２-（学校教育と諸問題～生徒の視点から～）＜担当：柳田＞
23	後期ディスカッション③- 教育実習を振り返る３-（学校教育と諸問題～保護者の視点から～）＜担当：柳田＞
24	後期ディスカッシション④-教育実習を振り返る４-（生徒指導の意味とは何か？）＜担当：柳田＞
25	後期講義③及びディスカッション⑤-教育現場の問題を考える１-（不登校といじめ）-＜担当：柳田＞
26	後期講義④及びディスカッション⑥-教育現場の問題を考える２-（教師の社会性と対人関係構築能力）＜担当：斎＞
27	後期講義⑤及び調査④-望ましい発音指導のあり方とは＜担当：斎＞
28	後期ロールプレイ①及び発表③-望ましい発音指導の実際＜担当：斎＞

29	後期ロールプレイ④及び調査⑤-英語教師に必要な英語力とは何か？－１＜担当：斎＞
30	後期講義⑥及びディスカッション⑦-総括-英語教師に必要な英語力とは何か？－２＜担当：斎＞
31	なし

2024年度シラバス

科目名:OG42Z9012　教職実践演習Ⅱ（中・高）	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	4
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
この授業科目では、高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校、特別支援学校での教育実習と介護等体験などから、教育現場が抱える各種問題や課題を明確にして、ディスカッションなど演習形式で解決するための方法を探っていく。

授業の到達目標
１．教職課程の個々の科目の履修（教育実習、及び介護等体験を含む）により修得した専門的な知識・技能を再確認することができる(DP)。２．教員としての使命感や責任感、教育的愛情等を持って、学級や教科を担任しつつ、教科指導、生徒指導等の職務を著しい支障が生じることなく実践できる資質・能力が身についているかどうか再確認することができる。３．新学習指導要領を分析しながら教育課程における各領域の実践方法を考えることができる(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
真剣に教員を目指すものとして１年次から学んできた全ての教職に関係する授業内容をまとめ、そこでの学びをどのように教育実践に活かすべきか、常に資料を活用しながら考え、教師を志す強い意志を持続させることが必要である。

評価方法
①　週間レポート　20%　②演習・ディスカッション参加・ミニ模擬授業 40%
③　中間・期末レポート 40%

教科書
柳瀬陽介・組田幸一郎・奥住桂　(2011)　成長する英語教師をめざして―新人教師・学生時代に読んでおきたい教師の語り
成長する英語教師をめざして―新人教師・学生時代に読んでおきたい教師の語り　ひつじ書房.
成長する英語教師をめざして―新人教師・学生
　時代に読んでおきたい教師の語り

参考図書
文部科学省　中学校／高等学校学習指導要領、生徒指導提要

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学科で定める諸条件を満たし、当該年度に教育実習に行くことが許可されている者。教職課程履修に強い意欲と責任感を示す者。状況によっては本授業履修に当たり、学科教職課程委員会、ならびに学科教育実習委員会の判断が必要とされる場合がある。

01	はじめに　−この授業の目的と進め方
02	講義①及びディスカッション①−教育実習とこれまでの学生生活の振り返り
03	講義②及びディスカッション②ー望ましい介護等体験のあり方について（専門家による講話）
04	講義③及びディスカッション③−英語教育の現実と可能性ー
05	講義④及びディスカッション④−小学校英語教育ー
06	講義⑤及びディスカッション⑤−中学校英語教育（１）ー
07	講義⑥及びディスカッション⑥−中学校英語教育（２）ー※中間アンケート実施予定
08	講義⑦及びディスカッション⑦−高等学校英語教育（１）ー
09	講義⑧及びディスカッション⑧−高等学校英語教育（２）ー
10	演習①　英語教育におけるICT活用（１）コーパスの活用
11	演習②　英語教育におけるICT活用（２）タブレットPCと教育支援システムの活用
12	演習③　英語教育におけるICT活用（３）授業における動画作成と活用
13	演習④　英語教育におけるICT活用（４）評価基準作成とICT
14	講義⑨及びディスカッション⑩　理想的な高等学校英語授業とは
15	講義⑩及びディスカッション⑩　望ましい学校教育のあり方とは
16	なし
17	後期講義①及び調査②−望ましい介護等体験のあり方について（特別支援学校調査）＜担当：柳田・（専門家による講話を予定）＞
18	後期発表①−介護等体験では何を学ぶのか？（特別支援学校）＜担当：柳田＞
19	後期講義②及び調査③−望ましい介護等体験の在り方について（老人福祉施設調査）＜担当：柳田＞
20	後期発表②−介護等体験では何を学ぶのか？（老人福祉施設）＜担当：柳田＞
21	後期講義③及びディスカッション①−教育実習を振り返る１−（理想的な高等学校校英語授業とは？）＜担当：柳田＞
22	後期ディスカッション②− 教育実習を振り返る２−（学校教育と諸問題～生徒の視点から～）＜担当：柳田＞
23	後期ディスカッション③− 教育実習を振り返る３−（学校教育と諸問題～保護者の視点から～）＜担当：柳田＞
24	後期ディスカッシション④−教育実習を振り返る４−（生徒指導の意味とは何か？）＜担当：柳田＞
25	後期講義③及びディスカッション⑤−教育現場の問題を考える１−（不登校といじめ）−＜担当：柳田＞

26	後期講義④及びディスカッション⑥-教育現場の問題を考える２-（教師の社会性と対人関係構築能力）＜担当：斎＞
27	後期講義⑤及び調査④-望ましい発音指導のあり方とは＜担当：斎＞
28	後期ロールプレイ①及び発表③-望ましい発音指導の実際＜担当：斎＞
29	後期ロールプレイ④及び調査⑤-英語教師に必要な英語力とは何か？－１＜担当：斎＞
30	後期講義⑥及びディスカッション⑦-総括-英語教師に必要な英語力とは何か？－２＜担当：斎＞
31	なし

2024年度シラバス

科目名:OG31S3007　Communicative English　I	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to acquiring practical ability to communicate in English in globalized society as mentioned in SLADE's diploma policy.
Communicative English I is a required course for all 3rd year students. This course is a communicative course designed to increase students' ability to communicate through reading, writing, listening and speaking fluently and accurately in English about world issues. Students will study a different world issue in three-week cycles. The instructor will introduce students to the topic in the first two weeks. Students will research the topic for homework and will discuss their own research on the topic in pairs or small groups in the last week class. Students will need to read several news articles for these classes. Student will need to work together in pairs for the mid-term and in groups for the final presentations on world issues. Students will write a Class Reflection. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of class: In this course, students can….
a. broaden their understanding of the world,
b. improve communicative skills to read, write, listen and speak and critically think about current world issues. (DP)
c. share their opinions, listen to others' opinions, and give logical reasons for their opinions to improve their learning (DP)
d. build their critical thinking skills

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力
○ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
Come to class and speak freely. This is a great opportunity to speak in English about world topics! Students should study 2-3 hours per week outside of class. Students will do Internet research for class, so students need to have access to the Internet and computer research skills. Doing the internet research homework will take time at first, but students will get better at it over the semester and the time needed to do the homework will become less. Students must be able to discuss with other students in pairs or groups to participate in this class.

評価方法
Evaluation Methods:
Course Requirements (Major Assignments, Quizzes & Exams)
・Automatic 45%: Class participation, Weekly homework and Vocabulary tests
・Summative 45%: Audio stories, Mid-term presentation (pair) and Final presentation (group)
・Class Reflection (CR): 10%
Feedback: will be given individually for assignments, on the Moodle for all students in general and by rubrics for presentations

教科書	参考図書
Textbooks: John Spiri (2015) Global Stories. Global Stories Press, ISBN: 978-4-905426-34-9	Reference Books and Other Course Materials: To be supplied by the instructor

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
There are no prerequisites for this course.
Donovan Clarke's office is 7308, his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
The Moodle site will be used to provide class schedules, collect homework assignments, and provide additional materials

01	Course introduction and syllabus - stating opinions and summarizing
02	Communication skills - summarizing and discussion questions
03	Communication skills - summarizing and discussion questions
04	Topic 1 - Poverty
05	Topic 1 - Poverty
06	Topic 1 - Poverty - Internet research
07	Mid-term presentation
08	Topic 2 - Natural Disasters
09	Topic 2 - Natural Disasters
10	Topic 2 - Natural Disasters - Internet research
11	Topic 3 - Child Labor
12	Topic 3 - Child Labor
13	Topic 3 - Child Labor - Internet research

14	World Issues presentation preparation and Class Reflection Portfolio (CR)
15	World Issues presentation and Class Reflection Portfolio (CR)
16	none

2024年度シラバス

科目名:OG32S3008　Communicative English Ⅱ	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
Overview and Methods：
This course is related to acquiring practical ability to communicate in English in globalized society as mentioned in SLADE's diploma policy.
Communicative English II is a required course for all 3rd year students and a continuation Communicative English I.　This course is a communicative course designed to increase students' ability to communicate through reading, writing, listening and speaking fluently and accurately in English about world issues. Students will study a different world issue in three-week cycles. The instructor will introduce students to the topic in the first two weeks. Students will research the topic for homework and will discuss their own research on the topic in pairs or small groups in the last week class. Students will need to read several news articles for these classes. Student will need to work together in pairs for the mid-term and in groups for the final presentations on world issues. Students will write a Class Reflection. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of class: In this course, students can….
a. broaden their understanding of the world,
b. improve communicative skills to read, write, listen and speak and critically think about current world issues. (DP)
c. share their opinions, listen to others' opinions, and give logical reasons for their opinions to improve their learning (DP)
d. build their critical thinking skills.

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力
○ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
Come to class and speak freely. This is a great opportunity to speak in English about world topics! Students should study 2-3 hours per week outside of class. Students will do Internet research for class, so students need to have access to the Internet and computer research skills. Doing the internet research homework will take time at first, but students will get better at it over the semester and the time needed to do the homework will become less. Students must be able to discuss with other students in pairs or groups to participate in this class.

評価方法
Evaluation Methods:
Course Requirements (Major Assignments, Quizzes & Exams)
·Automatic 45%:　Class participation, Weekly homework and Vocabulary tests
·Summative 45%:　Audio stories, Mid-term presentation (pair) and Final presentation (group)
·Class Reflection (CR): 10%
Feedback: will be given individually for assignments, on the Moodle for all students in general and by rubrics for presentations

教科書	参考図書
Textbooks: John Spiri (2015) Global Stories. Global Stories Press, ISBN: 978-4-905426-34-9	Reference Books and other Course Materials: To be supplied by the instructor

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
There are no prerequisites for this course.
Donovan Clarke's office is 7308, his office hours will be announced.　His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
The Moodle site will be used to provide class schedules, collect homework assignments, and provide additional materials

01	Course introduction and syllabus
02	Topic 4 - Child Soldiers
03	Topic 4 - Child Soldiers
04	Topic 4 - Child Soldiers - Internet research
05	Topic 5 - Refugees
06	Topic 5 - Refugees
07	Topic 5 - Refugees - Internet research
08	Mid-term preparation
09	Mid-term presentation
10	Topic 6 - Population

11	Topic 7 - Population
12	Topic 7 - Population - Internet research
13	Final presentation preparation and Class Reflection Portfolio (CR)
14	Final presentation preparation and Class Reflection Portfolio (CR)
15	World Issue presentations and Class Reflection Portfolio (CR)
16	none

科目名:OG31S3013 Academic Writing Ⅰ	担当者:Melissa Senga、Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to practical ability to communicate in English in the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. The aim of this course is to introduce students to the pre-writing and research process, and APA referencing system. Students will develop knowledge about what is involved in researching and in pre-writing a researched opinion essay. Additionally, they will learn how to narrow their topic, how to summarize, cite and reference sources, paraphrase and use formal academic language, and write an outline for their essay [AL] [EN].

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to:
1. complete the steps of pre-writing and researching in line with having practical English communication skills [DP]
2. use ICT to conduct appropriate academic research on their chosen topics and complete homework assignments [DP]
3. gather and comprehend information from a variety of both English and Japanese academic sources in line with having practical English communication skills [DP]
4. use critical thinking to analyze academic source content in relation to their chosen topic, communicate the source content by summarizing and paraphrasing it using formal academic language in a creative and logical way [DP]
5. communicate acquired knowledge in a way that contributes to a globalised society [DP]

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
This course is taught in English [EN]. Students are required to bring their computers, class book and homework to each class. Since this is a two-credit course, students are expected to do 3.5 to 4 hours of homework each week. Homework assignments are imperative for students to complete in order to review class content on a weekly basis. Penalties apply for late submissions. Students will understand that research is a cycle and that weekly in-depth research as a homework activity is a very important part of the pre-writing aspect of producing a good quality research paper.

評価方法
1. Participation - graded in each of the 15 classes (completing all in-class activities; bringing all the correct materials; paying attention i.e. not sleeping) (10%): Students will be asked at the end of each class what participation scores they should get and must explain why. Teachers may inform the student that their participation grade is different and explain why to them.
2. Homework - weekly submissions (40%): Students will receive individual feedback for homework assignments through one-on-one counselling and in written form on their homework assignments in the class following the submission of their homework assignments. □
3. Important terms and vocabulary quiz - one time (10%): To be taken on Moodle and the results and correct answers will be made available on completion of the quiz. Students will be tested on the important terms and vocabulary needed to understand the content of this course that they have studied.
4. Outline - one submission (15%): Students will receive individual feedback through one-on-one counselling and in written form on their outline in the class following the due date.
5. Course reflection essay - one time (10%): The final draft feedback will be written in an essay rubric.
6. Final quiz - one time (15%): To be taken on Moodle and the results and correct answers will be made available on completion of the quiz. Students will be tested on the entire content studied in this course.

教科書
A course booklet will be provided in the first class.

参考図書
Other Course Materials: Research resources should come from a range of sources, not only online e.g. the library, printed books, encyclopedias and journals.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Be organized, prepare and finish tasks early. Bring ALL your materials in a file each week. Set your goals and make a plan to complete them. Instructor contact information to be advised in class.

01	Course introduction; grading explanation; essay structure review; what is research; what are credible sources; what is a researched opinion essay; rules about using Machine Translation (MT); important terms and vocabulary.
02	Quiz: Important terms and vocabulary (10%); What is an opinion? Opinion versus statements/facts; researching; choosing the topic [DP]
03	What is paraphrasing? Paraphrasing - using synonyms; paraphrasing exercises [DP].
04	What is paraphrasing? Paraphrasing - using antonyms; paraphrasing exercises [DP].
05	What is paraphrasing? Paraphrasing - changing the sentence order; paraphrasing exercises [DP].
06	What is paraphrasing? Paraphrasing - changing the sentence grammar; paraphrasing exercises [DP].
07	Paraphrasing review; narrowing the topic and brainstorming.
08	Write your thesis statement [DP].
09	Thesis statement counselling; researching; what is referencing in APA 7th edition [DP].
10	Referencing review; what is citing [DP].
11	Referencing and citing review [DP]; What is an outline; writing the outline [DP].
12	What is an outline; writing the outline [DP].

13	Work on course reflection first draft [DP]; Completing the outline [DP].
14	Final draft of outline due (15%); work on reflection essay; study for the final quiz [DP].
15	Outline feedback; course reflection final draft due (10%); course review and final quiz (15% - citations & referencing / paraphrasing / essay structure / important terms and vocabulary) [DP].
16	None.

科目名:OG32S3014 Academic Writing Ⅱ	担当者:Melissa Senga、Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to practical ability to communicate in English in the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. The aim of this course is to further develop research writing skills which students have begun in Academic Writing I. Students will continue to improve their English academic writing skills and knowledge. The researched opinion essay students write in this class will form their thesis or part of their portfolio. [AL] [EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to:
1. complete the essay writing process, and write accurate sentences in well-structured paragraphs in line with having practical English communication skills [DP].
2. use ICT to conduct appropriate academic research on their chosen topic, submit homework and write a researched opinion essay [DP].
3. gather and comprehend information from a variety of both English and Japanese academic sources in line with having practical English communication skills [DP].
4. use critical thinking to analyze their completed research and apply it to support their opinions in a creative and logical manner [DP].
5. understand the function and parts of a researched opinion essay including the use of paraphrasing, summarizing and quotations, and correctly citing and referencing sources [DP].
6. communicate acquired knowledge by writing creative and logical essays in a way that demonstrates information literacy in order to contribute to international society [DP].

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
This course is taught in English [EN]. Students must bring their computers to each class and are required to hand in work on time. Penalties apply for late work. Students will understand that research and academic writing is a cycle, and that repeated editing is an important part of producing a good quality research paper. Students are expected to actively check the answers after completing the in-class activities made available to them on Moodle each week. Since this is a two-credit course, students are expected to do 3.5 to 4 hours of homework each week.

評価方法
1. Weekly homework (40%): Students will receive individual feedback for homework assignments through one-on-one counselling and in written form on their homework assignments in the class following the submission of their homework assignments.
2. Research paper (40 %): The final draft feedback will be written in an essay rubric.
3. Course reflection essay (10%): The final draft feedback will be written in an essay rubric.
4. Final review quiz (10%): To be taken on Moodle and the results and correct answers will be made available on completion of the quiz.

教科書	参考図書
A course booklet will be provided in the first class.	Other Course Materials: Research resources should come from a range of sources, not only online e.g. the library, printed books, encyclopedias and journals.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Be organized, prepare and finish tasks early. Bring ALL your materials and computer each week. Set your goals and make a plan to complete them. Contact: To be advised in class.

01	Course introduction, syllabus, rubric and assessment method explanation; AWI review.
02	Paraphrasing review; in-text citations review; opinion essay vs. report - the differences.
03	Essay and paragraph structure review / essay labelling; transitions, good flow and good sentence starts; in-text citations review; writing body paragraph 1 (BP1) [DP].
04	Transitions, good flow and good sentence starts; in-text citations review; writing body paragraph 2 (BP2) [DP].
05	Transitions, good flow and good sentence starts; in-text citations review; BP1 counselling [DP]; writing body paragraph 3 (BP3) [DP].
06	Review; BP2 counselling [DP].
07	Writing an academic title; using quotations; BP3 counselling; writing the conclusion and introduction paragraphs and title [DP].
08	Writing the conclusion paragraph [DP].
09	Writing the introduction paragraph and title [DP]; referencing review.
10	Conclusion paragraph counselling; writing the references [DP]; writing the opinion essay second draft [DP].
11	Introduction paragraph and title counselling; writing the opinion essay second draft [DP].
12	References counselling; work on reflection essay [DP].
13	Opinion essay second draft counselling; writing the opinion essay final draft [DP]; work on course reflection essay [DP].
14	Opinion essay final draft due [DP].
15	Feedback; reflection essay due; course review and final review quiz [DP].
16	None

科目名:OG31S4010　British Studies	担当者:井川 恵理	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to 'the ability to understand other cultures and use critical thinking' mentioned in SLADE diploma policy. It aims to introduce students to the understanding of the present and past of United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland (the U.K.), its culture, society, religions and the characteristics of four nations which form the U.K. The course consists of lecture by the instructor, presentations by the students and discussion. Each student is to choose the topic related to a nation and history of the area. {AL, EN]

授業の到達目標
授業の到達目標
Students will be able to: 1. understand the academic vocabulary associated with the U.K..【DP】 2. explain the difference of 'the United Kingdom', 'Great Britain', 'England' and 'Igirisu'. 【DP】 3. explain the basic characteristics, languages and cultures of the nations in the U.K. 【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1. Keep on being interested in news of the United Kingdom.
2. Prepare for your presentation using PC.
3. Students are expected to study for 4 hours per week out of class.

評価方法
Discussion and Reflection 30%, Presentation 20%, Mid-Term Quiz 20%, Summary Quiz 20% CR 10%
Feedback will be given in a few weeks on Moodle or directly (exam).

教科書	参考図書
Handouts will be given in the class.	Derek Sellen, The British Isles (Black Cat Publishing, London, 2011)教職課程履修者：「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office: 7310.Office hours and contact e-mail address will be informed in class.

01	Introduction: Images of the United Kingdom or 'Igirisu' in Japan
02	Basic knowledge on the U.K.--Four nations and the Current Issues
03	Symbols of the U.K.--Union Jack and the Formation of the United Kingdom
04	Harry Potter and Class Society: Royal Family and Peerages
05	Harry Potter and Class Society: Middle Class, Working Class
06	Mid-Term Quiz, Languages and Cultures of Four Nations (1) England
07	Languages and Cultures of Four Nations (2) Wales
08	Languages and Cultures of Four Nations (3) Scotland
09	Languages and Cultures of Four Nations (4) Northern Ireland
10	Characteristics of the Nations through Sports: Football, the Olympics and a Neighbour Country, the Republic of Ireland
11	BREXIT and the U.K
12	Gender and the U.K.: Victorian Era 'Surplus Women'
13	Gender and the U.K.: to the Present
14	Course Reflection Preparation, Summary Quiz Preparation
15	Review and Summary Quiz
16	None

2024年度シラバス

科目名:OG32S4011　韓国研究	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限: 中級以上の韓国語力を有すること。　PC使用		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、国際学部のディプロマポリシーに基づき、グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信力を身につけるための授業です。韓国についての自身の興味・関心分野の研究課題を設定し、様々な情報を収集し、その情報を整理しながら課題の結論を自分なりに導き出す作業を行う。韓国語を駆使しながらネット情報をはじめ、文献や図書などを調査する。授業では、毎回自身の意見を整理する作業を行い、最終的には毎回のリフレクションを基に期末レポートを作成する。なお、情報を理解するための韓国語力及び韓国語のタイピング基礎力が必要である。整理した情報はグループ活動を通して共有し合う。（AL）

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。
１．韓国の社会、生活、文化理解（DP）
２．論理的創造的な発信力（DP）
３．語学能力の向上（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
事後学習：配布資料の整理、課題に対する準備・調査（2時間）
事後学習：フィードバックの確認と内容の整理（2時間）

評価方法
課題20%、発表30%、期末レポート30%、授業の参加態度20%
フィードバックは授業中、または、Moodleを通して行います。

教科書 授業中に配布する。	参考図書 授業中に示す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
集めた韓国語の情報を理解するためには、韓国語の読解や作文の力が必要です。
時間がかかってもいいので、自分の力でチャレンジしてください。

連絡方法は授業中に提示します。
オフィスアワー：水曜日2限、金曜日2限

01	ガイダンス
02	研究課題の設定
03	情報収集①インターネットを利用する
04	情報収集②データベースを利用する
05	情報収集③図書を利用する
06	情報収集④統計データ、その他コンテンツを利用する
07	韓国語でワード文書の作成
08	情報の整理と分析①　個人作業
09	グループ活動①韓国の社会、生活、文化理解（DP） 情報の整理と分析②　グループ活動
10	情報の整理と分析③　個人作業
11	情報の整理と分析④　グループ活動
12	韓国語で発表資料の作成、発表の準備
13	研究発表①
14	研究発表②
15	まとめ
16	試験なし

科目名:OG31S4014　Speech & Presentation　I	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to the 'practical English communication ability' and 'contribution to the global society' mentioned in SLADE diploma policy. It will give students the opportunity:
1. to enhance their presentation skills through practicing various presentation techniques
2. to be independent learners and to gain a deeper understanding of topics through independent research
3. the chance to gain a deeper knowledge and awareness of English diction and pronunciation [AL][EN]

授業の到達目標
On completion of this course students should be able to:
1. use suitable diction and good pronunciation when giving a presentation
2. give a logical and creative presentation using practical English communication skills [DP]
3. use presentation techniques to enhance the delivery of presentations
4. give a logical and creative presentation using critical thinking and displaying knowledge of the topic using ICT [DP]
5. critically think about and recognise the international importance of the speeches studied in this course from cultural, societal and historical perspectives [DP]

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
The course will be conducted in English and requires students to engage actively and fully in the course activities [AL][EN]. As this is a one credit course, students will be required to complete 1.5 hours of homework each week. Homework will consist of watching videos of speeches and ensuring the content is understood; writing presentation drafts and making visual aids.

評価方法
1. Presentations (30%) 3 times: Feedback will be provided straight after the task completion in class or on Moodle.
2. Pronunciation and diction quizzes (30%) 3 times: Feedback will be provided straight after the task completion in class or on Moodle.
3. Presentation technique practice (10%): Feedback will be provided straight after the task completion in class.
4. Famous speech impersonation (10%): Feedback will be provided straight after the task completion in class or on Moodle.
5. Class participation (10%): The students will be asked what they think their participation grade is each week at the end of class.
6. Course reflection (10%): Feedback will be provided in class.

教科書	参考図書
Materials to be provided on Moodle for students to download or access.	None.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students should come to class prepared. Completing homework and attending classes weekly is imperative to the successful completion of this course. Students should try to practice the pronunciation and diction activities and shadowing outside of class as much as possible. Contact information is available on the Moodle course page.

01	Course introduction, overview and evaluation system / Define the terms used in this course / Watch an instructive video on giving a good speech / Learn the 6 main types of presentation. [DP]
02	Pronunciation practice of l/r sounds / Emma Watson's "Gender" speech shadowing / Presentation technique 1 - organising your presentation / LWatch an instructive video of giving a good presentation / Start work on problem & solution presentation. [DP]
03	Pronunciation practice of b/v sounds / Emma Watson's "Gender" speech shadowing / Presentation technique 2 - visual aids [DP]
04	Pronunciation practice of th/s / Emma Watson's "Gender" speech shadowing / Presentation technique 3 - Oration speed. [DP]
05	Pronunciation & diction quiz 1 / Presentation 1 (Problem & Solution) [DP]
06	Intonation practice / Greta Thunberg's "How dare you" speech shadowing / Presentation technique 4 - stressing words / Start work on opinion/persuasive presentation. [DP]
07	Intonation practice / Greta Thunberg's "How dare you" speech shadowing / Presentation technique 5 - stressing words. [DP]
08	Intonation practice / Greta Thunberg's "How dare you" speech shadowing / Presentation technique 6 - Taking questions. [DP]
09	Intonation practice / Nelson Mandela's sport speech shadowing / Review / Presentation technique 7 - hedging. [DP]
10	Pronunciation & diction quiz 2/ Presentation 2 (Opinion/persuasive presentation) [DP] / Nelson Mandela's sport speech shadowing
11	Word stress practice / Nelson Mandela's sport speech shadowing / Choose a speech from the speech shadowing to impersonate / Speech impersonation practice / Presentation technique 8 - concluding / Start work on compare & contrast presentation. [DP]
12	Word stress practice / Speech impersonation practice / Presentation technique 9 - adding humour. [DP]
13	Word stress practice / Speech impersonation practice / Presentation technique 10 - communicating feelings & emotion. [DP]
14	Pronunciation & diction quiz 3 / Speech impersonation / Presentation preparation / Course Reflection (CR) work. [DP]
15	Presentation 3 (Compare & contrast presentation) and Course reflection (CR). [DP]

16	None.

科目名:OG32S4015　Speech & Presentation Ⅱ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to the 'practical English communication ability' and 'contribution to the global society' mentioned in SLADE diploma policy. It will give students the opportunity:
1. to enhance their presentation skills through practicing various presentation techniques
2. to be independent learners and to gain a deeper understanding of topics through independent research
3. the chance to gain a deeper knowledge and awareness of English diction and pronunciation [AL][EN]

授業の到達目標
On completion of this course students should be able to:
1. use suitable diction and good pronunciation when giving a presentation
2. give a logical and creative presentation using practical English communication skills [DP]
3. use presentation techniques to enhance the delivery of presentations
4. give a logical and creative presentation using critical thinking and displaying knowledge of the topic using ICT [DP]
5. critically think about and recognise the international importance of the speeches studied in this course from cultural, societal and historical perspectives [DP]

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
The course will be conducted in English and requires students to engage actively and fully in the course activities [AL][EN]. As this is a one credit course, students will be required to complete 1.5 hours of homework each week.

評価方法
1. Presentations (30%) 3 times: Feedback will be provided straight after the task completion in class or on Moodle.
2. Pronunciation and diction quizzes (30%) 3 times: Feedback will be provided straight after the task completion in class or on Moodle.
3. Presentation technique practice (10%): Feedback will be provided straight after the task completion in class.
4. Famous speech impersonation (10%): Feedback will be provided straight after the task completion in class or on Moodle.
5. Class participation (10%): The students will be asked what they think their participation grade is each week at the end of class.
6. Course reflection (10%): Feedback will be provided in class.

教科書	参考図書
Materials to be provided on Moodle for students to download or access.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students should come to class prepared. Completing homework and attending classes weekly is imperative to the successful completion of this course. Students should try to practice the pronunciation and diction activities and shadowing outside of class as much as possible. Contact information is available on the Moodle course page.

01	Course overview and evaluation system / Define the terms used in this course / Watch an instructive video on giving a good speech / Learn the 6 main types of presentation [DP]
02	Pronunciation practice of l/r sounds / BTS' s UN speech video shadowing / Watch an instructive video of giving a good presentation / Presentation technique 1 - organising your presentation / Start work on benefits & features presentation [DP]
03	Pronunciation practice of v/b sounds / BTS' s UN speech video shadowing / Presentation technique 2 - using visual aids [DP]
04	Pronunciation practice of th/s sounds / BTS's UN speech video shadowing / Presentation technique 3 - Oration speed [DP]
05	Do Pronunciation & Diction Quiz 1 / Do Presentation 1 (Benefits & Features) / Start work on chronological presentation [DP]
06	Intonation practice / Winston Churchill's speech video shadowing / Presentation technique 4 - Stressing words [DP]
07	Intonation practice / Winston Churchill' s speech video shadowing / Presentation technique 5 - Stressing words [DP]
08	Intonation practice / Winston Churchill' s speech video shadowing / Presentation technique 6 - Taking questions [DP]
09	Intonation practice / Martin Luther King' s "I have a dream" speech video shadowing / Review / Presentation technique 7 - Hedging. [DP]
10	Do Pronunciation & Diction Quiz 2/ Do Presentation 2 (Chronological) / Martin Luther King' s "I have a dream" speech video shadowing / Start work on cause & effect presentation [DP]
11	Word stress practice / Martin Luther King' s "I have a dream" speech video shadowing / Choose a speech from the speech shadowing to impersonate / Presentation technique 8 - Concluding [DP]
12	Word stress practice / Practice speech impersonation / Presentation technique 9 - Adding humor [DP]
13	Word stress practice / Practice speech impersonation / Presentation technique 10 - Communicating emotions and feelings [DP]
14	Do Pronunciation Quiz & Diction 3; Do Speech impersonation; Presentation preparation; Course Reflection (CR) work. [DP]
15	Do Presentation 3 (Cause & Effect) / Work on Course Reflection (CR) [DP]Presentation and Course Reflection
16	None

科目名:OG31S4016　韓国コミュニケーション	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限: 韓国語中級程度の学習をしていること。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、国際学部のディプロマポリシーに基づき、グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信力を身につけるための授業です。韓国のいろいろな生きた文化を素材に、様々な表現を取り入れて会話を豊かにする訓練をします。授業中の活動としては、ペアーワークやグループワーク、スピーチ発表などを通してアウトプットを意識した練習を繰り返します。定期的に韓国の大学生とリモートで会話しながら交流します。（AL）

授業の到達目標
韓国語の豊かな表現を使いこなしながらいろいろな場面でのやりとりができるようになります（DP）。
韓国文化に対する知識や理解を持って相手の意図を汲み取りながら自身の意見や考えを韓国語で伝えることができます（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修：音源を聞いて音読の練習をしください。使いたい文型や語彙を調べてきてください。必要時間：約2時間
事後学修：単語や表現、文型をまとめて覚えてください。自身の発話をチェックして間違いを直してください。必要時間：約２時間

評価方法
確認テスト（3回）30%
スピーチ発表　30%
課題　20%
おしゃべりカフェ（3回）　15%
学習の振り返り　5%

○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。

教科書	参考図書
『ワンステップ韓国語』（河正一）朝日出版社	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
学習した表現のアウトプットを意識しましょう。
連絡方法は授業中に提示します。
オフィスアワー：水曜日2限、金曜日2限

01	ガイダンス、それまでの内容の復習
02	第12課　友達を誘う/未来連体形　等
03	第13課　状況を推測する/前置き表現　等
04	第14課　約束を取り消す/可能・不可能表現　等
05	確認テスト（1）、おしゃべりカフェ①
06	第15課　許可を求める/許可・禁止表現　等
07	第16課　時間の経過を説明する/感嘆、気づき表現　等
08	第17課　自分の希望を伝える/福祉化表現　等
09	確認テスト（2）、おしゃべりカフェ②
10	第18課　病気の症状を説明する/状態の変化表現　等
11	第19課　空港の手続きを行う/決定・計画表現　等
12	第20課　忘れ物を届ける/命令・指示表現　等
13	確認テスト（3）、おしゃべりカフェ③
14	スピーチの準備
15	スピーチ発表、まとめ
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OG31S4017　企業研究　I	担当者:根尾 文彦	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この科目は、学芸学部ディプロマポリシーに掲げる「グローバル化した社会に向けて論理的で創造性に発信できる能力」を育成することを目的としている。この授業では、将来、企業等で働くことを前提として、就職活動に必要な情報収集の仕方を学ぶとともに、自分の職業適性について分析する。また、E/S、インターンシップ計画書の提出が求められる。授業は、担当教員だけでなく、学生課職員、および外部講師を招いて行われる。

授業の到達目標
①就職活動の流れを理解し、自主的に活動する。②自己分析を行い、自分に適した業種、業界を見いだす。（DP）③夏季インターンシップに向けた具体的な活動を行う。④担当者に訴求力のあるエントリーシートを作成する。（DP）
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎批判的思考、論理・創造的発信力
○ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
常に新聞、テレビ、雑誌、インターネット等で情報収集することが求められる。事前準備と事後学修として、毎週、最低4時間以上の授業外学修が必要である。また、夏季休業中には、企業のインターンシップに参加することが求められる（「企業研究Ⅱ」の評価項目となっている）。就職支援会社が開催するインターンシップ展などに積極的に参加することを勧める。

評価方法
授業への参加態度60%、ES作成30%、CRP10%　　課題に対するフィードバックは書面にて渡します。

教科書 使用しない	参考図書 必要な場合は授業中に指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo@ohkagakuen-u.ac.jp　授業外においてはメールにて連絡のこと
研究室　7307号室

01	4/11 授業オリエンテーション、企業研究の必要性（教員・学生課）
02	4/18 女子学生の就職状況と就職活動の流れ（外部講師）
03	4/25 社会人基礎力とガクチカの重要性（外部講師）
04	5/9　夏季インターンシップのESの基本、求人票などの見方（学生課）
05	5/16 夏季インターンシップのES対策（外部講師）
06	5/23 業界研究（業界のビジネスモデルを知る）＊各自作成したES提出（外部講師）
07	5/30 業界・企業の情報収集法（気になる企業の情報を知る）（外部講師）
08	6/6　先輩の就職活動体験発表（社会人及び4年生、教員）
09	6/13　インターンシップ参加の心構え（外部講師）
10	6/20 企業研究の事例紹介（同業他社との比較、企業の戦略など）（外部講師）
11	6/27 企業の求める人材像（外部講師）
12	7/4　企業人事担当者の話（外部講師）
13	711　社会人のマナー講座（リクルートスーツ着用）（外部講師）
14	7/18 対面面接、Web面接対策（外部講師）、インターンシップ計画書提出、CRP作成
15	7/25 筆記試験対策・SPI対策（外部講師）
16	なし

科目名:OG32S4018　企業研究 Ⅱ	担当者:根尾 文彦	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この科目は、学芸学部ディプロマポリシーに掲げる「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的に発信できる能力」を育成することを目的としている。この授業では、前期の「企業研究Ⅰ」で身に付けた企業研究方法や自己分析が、インターンシップ研修によってどのように活かされたのかの検証を行い、学生各自の課題を明確化する。また、外部講師を招いて就職活動の実践的スキル獲得のための訓練と社会人としての責任と義務について学ぶ。

授業の到達目標
①夏季インターンシップにて研修経過が見られる。②担当者に訴求力のあるエントリーシートを作成する。（DP）③普段からの自主学習により、一般常識・SPIの模擬試験テストにおいて十分な得点が取れている。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎批判的思考、論理・創造的発信力
○ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
常に自分で新聞・テレビ・雑誌、インターネット等で情報収集する必要がある。事前準備と事後学修として、毎週、最低4時間以上の授業外学修が必要である。

評価方法
授業への参加態度60%、夏季インターンシップレポート・発表20%、夏休み課題10%、CRP10%　課題に対しては書面にてフィードバックします。

教科書 使用せず	参考図書 授業中に指示

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
研究室7307号室
neo@ohkagakuen-u.ac.jp

01	10/3　授業オリエンテーション、＊夏休み課題、夏季インターンシップレポート提出（教員）
02	10/10 模擬テスト・一般常識（外部講師）
03	10/17 模擬テスト・ＳＰＩ（外部講師）
04	10/24 夏季インターンシップ体験報告会（1人5分）（教員）
05	10/31 ES作成の基本（PC持参）（学生課） 夏季1日インターンシップ体験報告　一人3分程度　（参加報告レポート提出）
06	11/7　ES作成の実践（志望動機、ガクチカ、自己PR、PC持参）（CaCoRo）
07	11/14 SPI受講（外部講師）
08	11/21 メイク講座（リクルートスーツ着用）（外部講師）
09	11/28 進路グループ面談（リクルートスーツ着用）（学生課）
10	12/5　面接対策①（リクルートスーツ着用）（CaCoRo）
11	12/12 面接対策②（リクルートスーツ着用）（CaCoRo）
12	12/19 4年生内定者の話（教員）、CRP作成
13	12/26 雇用されて働くことの責任と義務（外部講師、社会保険労務士）
14	1/9　マナー講座（リクルートスーツ着用）（外部講師）
15	1/16 まとめ（就活の流れの再確認、大学による就職情報の提供）、CRP作成（学生課・教員）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG51S4019　International Relations	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
Overview and Methods:
A. Course Overview: This course is related to the ability to use critical analysis based acquired knowledge and to express themselves logically and creatively in globalized society as mentioned in SLADE's diploma policy.
International Relations is an elective course for 3rd and 4th year students. This is basically a lecture and discussion class. The instructor lectures on a topic (50%) and students will discuss (50%) the topic being presented in the class. International relations is the study of the relationships between countries, The aim of the course is to increase students' knowledge and understanding of the history of international relations, how nations and other organization interact with each other and problems facing a globalized world today. The course will also focus on skills for critical thinking and increasing students' vocabulary in this area. Students will study international relations topics every week. The instructor will lecture on the week's topics and students will be given an opportunity discuss topics in class with other students in pairs, groups and with the teacher. Students will do homework every week and it will be checked in class. There will be quizzes throughout the semester after each general topic which will be checked and returned to the students. Students will do a Class Reflection (CR) at the end of the semester. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of class: In this course, students can….
a. increase their understanding and knowledge of international relations (DP)
b. understand the academic vocabulary used in the course and international relations
c. have skills to critically think about global events from the international relations point of view. (DP)
d. be able to reflect on their own learning.

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的な英語コミュニケーション能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements: Students need to do the weekly homework to pass the class. Students will do Internet research to prepare for class, so students need to have access to the Internet and computer research skills. Students need to be able to discuss with other students in pairs or groups. Students are asked to study for 4 hours a week for this class.

評価方法
Evaluation Methods:
In order to be successful in this course, students will need to complete the following:
・Participate in class well (discussions):25%
・Homework:25%
・Quizzes:40% (10% each quiz)
・Course Reflection (CR)10%
Feedback will be given in class to students individually and on the Moodle for all students in general and quizzes will be checked in class.

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied by the instructor	Reference Books and other Course Materials: To be supplied by the instructor:

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
TOEIC score of 400 is required for this class.
Donovan Clarke's office is 7308, his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
The Moodle site will be used to provide class schedules, collect homework assignments, and provide additional materials.

01	Course introduction and syllabus
02	Introduction to International Relations
03	Introduction to International Relations
04	Quiz 1 - introduction to International Relations
05	History of International Relations
06	History of International Relations
07	History of International Relations
08	Quiz 2 - History of International Relations
09	International Relations theory
10	International Relations theory
11	Quiz 3 - International Relations theory

12	United Nations
13	United Nations
14	United Nations - CR
15	Review and Quiz 4 - United Nations - CR
16	none

科目名:OG51S4020　グローバルエコノミー	担当者:天池 洋介	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　人や物、お金は私たちの思いとは別に、経済法則・メカニズムに従って動いており、私たちの生活を支えています。それらの法則を学ぶのが経済学ですが、身近な事例からはじめ、世界の経済のあり方を学び、目には見えない経済法則を皆さん自身が使いこなせることを目標とします（DP第1条）。
　修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力の習得をめざします（DP第3条）。また本講義はアクティブ・ラーニング型の講義を行います（DP第4条）。【AL】

授業の到達目標
・経済学の考え方を理解できるようになる。
・身近なものを経済学の視点から見ることができ、経済学の知識によって社会現象を理解できるようになる。
・グローバル経済のしくみを理解できるようになる。
・経済現象を経済学によって分析し、説明することができるようになる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回、次回の授業の下準備として、宿題を提示します。主に授業の前提となる知識や、自分の身の周りの実態を調べて、２時間ほどでまとめてきてもらいます。また、授業後には復習を２時間ほど行ってもらいます。

評価方法
・毎回提出してもらう宿題・感想文：４５％
・期末試験：45％
・CRP：10％
毎回発行する「授業通信」でフィードバックを行います。

教科書 なし	参考図書 なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・講義ではテキストやレジュメなどは使いませんので、口頭による解説とスライドで進めます。ノート（ルーズリーフ）と、色ペンを用意してきてください。
・配布資料を保管するために、クリアファイルなどを用意してください。
・高校までの「政治・経済」が苦手だった方でも学べるように、ごく初歩的な内容に絞り、丁寧に解説し、確実に知識を身につけられるように心がけます。
・連絡手段は、メールでの連絡をお願いします（初回に指示します）。

01	経済学ってなんだろう
02	ふつうのモノと商品の違い
03	身近なものの値段について考える１　価格メカニズム
04	身近なものの値段について考える２　例外的な価格決定
05	身近なものの値段について考える３　事例の検討
06	給料の決まり方１　賃金の決定
07	給料の決まり方２　労働条件について
08	お金のしくみ１　貨幣と金融市場
09	お金のしくみ２　金融商品
10	貿易とグローバル経済１　為替
11	貿易とグローバル経済２　貿易と貿易収支
12	貿易とグローバル経済３　グローバル化
13	貿易とグローバル経済４　税とタックスヘイブン
14	経済と私たちの暮らしの関係
15	全体のまとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG52S4021　グローバルビジネス	担当者:天池 洋介	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本講義では経営学、特にマーケティングの基本的な考え方を学ぶことで、私たちの身の周りの商品やサービスがどのように私たちの思いに応え、どのように提供されているのかを分析します（DP第1条）。修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力の習得をめざします（DP第3条）。また本講義はアクティブ・ラーニング型の講義です（DP第4条）。【AL】

授業の到達目標
・経営学の基礎的な知識を身につけ、経営学の視点から物事を見ることができる。
・マーケティングの視点から、商品やサービスの分析ができる。
・グローバル企業の経営戦略や経営手法を分析できる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回、次回の授業の下準備として、宿題を提示します。主に授業の前提となる知識や、自分の身の周りの実態を調べて、２時間ほどでまとめてきてもらいます。また、授業後には復習を２時間ほど行ってもらいます。

評価方法
・毎回提出してもらう宿題・感想文：45%
・定期試験：45%
・CRP：10%
「授業通信」を通じて、フィードバックします。

教科書	参考図書
なし	なし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・経営学についてまったく知識がない人や、社会科が苦手だった人にも分かるように、丁寧な授業を心掛けます。
・身の周りの商品やサービスを、経営学の視点から分析できるようになるとおもしろいです。その楽しさをお伝えします。
・授業はスライドを中心に行いますので、ノートやルーズリーフを持参してください。
・配布資料を保管するために、クリアファイルなどを用意してください。

01	経営学とはどんな学問か
02	マーケティング１：ニーズとターゲット
03	マーケティング２：マーケティング・ミックス
04	マーケティング３：SWOT分析
05	マーケティングの基礎
06	ポジショニング戦略
07	イノベーションとブルーオーシャン戦略
08	プラットフォームビジネスとフリー戦略
09	ソーシャル・マーケティング１
10	ソーシャル・マーケティング２
11	グローバルビジネスの事例分析１
12	グローバルビジネスの事例分析２
13	グローバルビジネスの事例分析３
14	グローバル時代の経営
15	全体のまとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG52S4022　Management	担当者:天池 洋介	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・グローバル化する世界において、英語の情報を探し、理解し、他の人が分かるように説明することが、ますます重要になっています。本講義では、グローバル企業が発信する情報から、マネージメントに関する英語の資料を読解し、その英文を翻訳します（DP第1条）。
・　修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力の習得をめざします（DP第3条）。また本講義はアクティブ・ラーニング型の講義を行います（DP第4条）。【AL】

授業の到達目標
・グローバル企業が発信している情報から、マネージメントの情報を収集できるようになる。
・マネージメントの雰囲気やビジネス英語に親しむ。
・チャンクリーディングによって、英文の概要を把握できるようになる。
・ビジネスの英文の翻訳できるようになる。(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　毎回、次回の授業の下準備として、宿題を提示します。主に授業の前提となる知識や、自分の身の周りの実態を調べて、２時間ほどでまとめてきてもらいます。また、授業後には復習を２時間ほど行ってもらいます。

評価方法
・毎回提出してもらう宿題・課題・感想文：45%
　毎回発行する授業通信でフィードバックをします
・期末試験：45%
・CRP：10%

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・英文の読解は地道な作業ですが、あきらめないでがんばりましょう。
・ご連絡はメールでお願いします。

01	店舗運営　ニューヨークの飲食店１
02	店舗運営　ニューヨークの飲食店２
03	店舗運営　ニューヨークの飲食店３
04	店舗運営　日本の給食センター
05	店舗運営　シカゴの飲食店１
06	店舗運営　シカゴの飲食店２
07	経営戦略・企業理念　ファーストフードチェーン１
08	経営戦略・企業理念　ファーストフードチェーン２
09	経営戦略・企業理念　ショッピングセンター１
10	経営戦略・企業理念　ショッピングセンター２
11	経営戦略・企業理念　ゲームメーカー１
12	経営戦略・企業理念　ゲームメーカー２
13	労務管理・人事　Z世代の働き方１
14	労務管理・人事　Z世代の働き方２
15	全体のまとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG51S4023　Marketing	担当者:天池 洋介	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
・グローバル化する世界において、英語の情報を探し、理解し、他の人が分かるように説明することが、ますます重要になっています。本講義では、マーケティングに関する英語のニュースを視聴し、ニュースの英文を翻訳します（DP第1条）。
・修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力の習得をめざします（DP第3条）。また本講義はアクティブ・ラーニング型の講義を行います（DP第4条）。【AL】

授業の到達目標
・英語のメディア情報から、マーケティングの情報を収集できるようになる。
・マーケティングの雰囲気やビジネス英語に親しむ。
・チャンクリーディングによって、英文の概要を把握できるようになる。
・ビジネスの英文の翻訳できるようになる。(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　毎回、次回の授業の下準備として、宿題を提示します。主に授業の前提となる知識や、自分の身の周りの実態を調べて、２時間ほどでまとめてきてもらいます。また、授業後には復習を２時間ほど行ってもらいます。

評価方法
・毎回提出してもらう宿題・課題・感想文：４５％
　毎回発行する授業通信を通じてフィードバックをします
・期末試験：45％
・CRP：10％

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・英文の読解は地道な作業ですが、あきらめないでがんばりましょう。
・ご連絡はメールでお願いします。

01	飲食業のマーケティング　日本の食品１
02	飲食業のマーケティング　日本の食品２
03	飲食業のマーケティング　観光用の食品
04	小売業のマーケティング　リサイクルサービス
05	小売業のマーケティング　未利用資源の活用１
06	小売業のマーケティング　未利用資源の活用２
07	観光業のマーケティング　名古屋の事例１
08	観光業のマーケティング　名古屋の事例２
09	観光業のマーケティング　名古屋の事例３
10	観光業のマーケティング　大阪の事例１
11	観光業のマーケティング　大阪の事例２
12	観光業のマーケティング　大阪の事例２ 観光業のマーケティング　大阪の事例３
13	グローバル企業のマーケティング　インスタント食品
14	グローバル企業のマーケティング　電気自動車
15	全体のまとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG51S5001 Media English	担当者:Deborah Broadby	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
Overview and Methods

In line with SLADE's educational philosophy of fostering practical communication skills for a globalized world, this course offers an immersive experience in Media English.

A. Course Overview:
This course is designed to introduce students to the diverse facets of media communication. We will explore various media platforms including television, newspapers, magazines, digital media, and the realms of music and film. The curriculum emphasizes critical analysis, encouraging students to scrutinize and interpret media content thoughtfully. Through a combination of theoretical study and practical exercises, students will engage with different media formats to develop their analytical abilities. Key activities include creating a thematic poster for a class session and composing reflective essays on course topics.

B. Teaching Methodology:
Each week's central theme will be introduced through concise lectures. Students will engage in group or pair discussions to deepen their understanding of the weekly topics. To foster active participation and oral skills, we will incorporate interview-style pair exercises. A unique feature of this course is the "Weekly News Report" assignment. Students are expected to dedicate 15-30 minutes daily to consuming news and preparing a brief report for class discussions. This exercise, lasting 5-10 minutes each session, will involve presenting, debating, and dissecting current news items, sourced from at least two or three different articles to ensure a rich diversity of viewpoints. This approach not only keeps students abreast of current affairs but also hones their ability to present and critique news in a collaborative learning environment.

授業の到達目標
Goals/Objective of Course:
Upon successful completion of this course, students will be able to….
1. Apply their critical thinking skills when:
a. reading the newspaper or magazines.
b. watching televised news report.[DP]
c. surfing the Internet
2. Have a general understanding of English used in different news outlets. [DP]
3. Broaden their knowledge of various topics.
4. Analyze and demonstrate their understanding of the media. [DP]

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
Students need to do the weekly news homework; review past lessons and keep a vocabulary journal. Students need to actively express themselves to participate in class. Students should study 2 hours per week outside of class.

評価方法
Evaluation Methods:
Course Requirements (Major Assignments, Quizzes & Exams including Dates)
In order to be successful in this course, students will need to complete the following:
1. all quizzes25%
2. all assignments12%
3. all weekly news reports28%
4. poster presentation25%
5. Class Reflection 10%
Feedback: will be given individually for assignmentn the Moodle for all students in gener,al and by rubrics for presentation.

教科書	参考図書
Textbooks: All materials will be provided by the instructor. Other Course Materials: none	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Course prerequisites, Advice to students, Contact information)

Advice: Although there are no prerequisites for this course students should be aware that enthusiasm, cooperation, and energy are vital to any successful lesson.

Contact information: Deborah (Debbie) Broadby's email: debbiebroadby@gmail.com. She will be on campus on Fridays for periods 1,2 and 3. Please email her to make an appointment.

01	Course Introduction: Syllabus and Quiz.
02	Television I - Commercials and Ads (How culture affect ads and television commercials)
03	Television II - Language and Cultural Comparison (View Japanese Commercials and Foreign Commercials)
04	Quiz - Weekly News Report Expansion
05	Newspaper - Headlines - What is news worthy?
06	Newspaper II - Politics, Business and other difficult subjects (Check your knowledge)
07	Fact or Fiction and Fake News (Sensationalism, celebrity news)
08	Quiz - Weekly News Report Expansion

09	Internet - websites
10	Internet - social networks
11	Internet - Net English Evolution
12	Quiz- Weekly News Report Expansion
13	Music Industry
14	Film Industry and Class Reflection (CR)
15	Poster Presentation and Class Reflection (CR)
16	No test

2024年度シラバス

科目名:OG52S5002 Business English	担当者:Deborah Broadby	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
Overview and Methods

Aligned with SLADE's commitment to fostering practical communication skills in a global context, this course offers a comprehensive introduction to Business English.

A. Course Overview:
This elective course, targeted at third-year students and above, focuses on fundamental aspects of Business English, with a special emphasis on American and International English. The course is designed to acquaint students with the basic language skills necessary for functioning effectively in an international business environment. Key areas of focus include reading, writing, listening, and speaking in a business context. Additionally, the course offers insights into global business cultures, covering topics such as business introductions, company products and services, scheduling meetings, email etiquette, product development, conducting surveys, and presenting business ideas.

B. Teaching Methodology:
The course is structured as a blend of lectures, student-led discussions, and interactive learning activities. Business topics will be explored in detail over two to three-week periods. The teacher will supplement these topics with additional materials and provide guidance on the necessary skills and knowledge for each segment. A significant part of the learning process involves practical application within student groups, using a combination of instructor-provided resources, internet research, and collaborative company project work. Periodically, students will be required to conduct online research and complete a preparatory research sheet before class sessions. This pre-class work will then form the basis for in-depth discussions in pairs, groups, and the whole class, ensuring a dynamic and engaging learning environment. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course: Upon successful completion of this course:
a. Students can use basic business English. Students study business English through various activates both in and outside of the text.
b. Students have some general international business knowledge. Cultural aspects of business around the world are introduced in class. [DP]
c. Students have basic skills they can use in working in an English office environment. Business office skill will be introduced such as business emails and telephone English.
d. Students can have a better knowledge of business. Business information and cultural aspects of business around the world will be studied. [DP]
e. Students can have skills they can use when working in an English speaking or international company. Students will take part in projects as if they were working in an actual company to develop and market products. [DP]

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements: Students need to do the weekly homework; study the unit vocabulary lists and also study the text to pass the section quizzes. This class includes a lot of pair and group work. Students need to actively express themselves to participate in class and write monthly reflections.

評価方法
Evaluation Methods:
Course Requirements (Major Assignments, Quizzes & Exams including Dates)
In order to be successful in this course, students will need to complete the following:
1. Actively participate in class 20%□
2. Skit □ 20%
3. Poster presentation 20%
4. Class Reflection (CR)□0% □
5. Homework□0%
Feedback: will be given individually for assignments, on the Moodle for all students in general and by rubrics for presentation.

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied by the instructor Other Course Materials: To be supplied by the instructor	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
There are no prerequisites for this course. Deborah (Debbie) Broadby's email: debbiebroadby@gmail.com. She will be on campus on Friday for periods 1,2 and 3. Please email her to make an appointment.

01	Course introduction and Syllabus. Unit 1 - Business Introductions
02	Unit 2 - Introducing others, unit 3 - Business cards
03	Unit 4 - In the office
04	Unit 5 - Times, dates and numbers
05	Unit 6 - Work places and locations, unit 7 - Making an appointment
06	Unit 8 - Companies, unit 9 - Products: Goods and services 1
07	Unit 10 - Products: Goods and services 1
08	Unit 11 - Products: Goods and services 2, Unit 11 - Emails

09	Midterm Skit
10	Introduction to business. Unit 13 - Companies
11	Unit 14 - Company profile, Internet research
12	Unit 15 - Introduction to market research surveys
13	Unit 16 - Conduct market research survey
14	Unit 17 - Analyzing data form survey and Class Reflection (CR)
15	Product poster presentation and Class Reflection (CR)
16	No test

2024年度シラバス

科目名:OG52S5003　Interpretation	担当者:笹岡 篤子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
Overview and Methods: This course is related to the 'practical ability to communicate in English in the globalized societies' mentioned in SLADE diploma policy. This is an introductory course in interpretation. Students will learn basic skills in interpretation using various news broadcasts, and other materials. This course includes roleplay practice and presentations. 【AL】

授業の到達目標
Goals/Objective of class: Upon successful completion of this course, students will be able to understand the basic methods of interpreting and the attitude of interpreter. Moreover, they will develop vocabulary, expressions and other skills needed for interpretation in various fields.「(DP)」

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements: Students must review the contents of each lesson and practice interpreting and reproduction so that they will make an assignment presentation in the following lesson. Students are required to study for 4 hours per week outside regular class. Active participation in class is vital.

評価方法
Evaluation: In order to be successful in this course, students will need to complete the following:
1) Assignments(review) 30%　2) Performance in class 30%　3) Presentation 40%(including CR:class reflection portfolio)

Feedback: Students will get individual oral comments on 1) Assignments and 2) Performance in class.　For 3) Final presentation, they will receive the evaluation comment sheets after their performance.

教科書	参考図書
Textbook: CNN Short News for Listening SDGs　Asahi Press Other course materials used will be announced in class.	

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other (Advice to students, Contact information):This course is for advanced level students. Students are required to have TOEIC score of 500 or above. Learning interpretation skills takes time, patience and dedication. It is important to review and practice. Teacher's contact information will be announced in the class.

01	Orientation / Introduction of interpretation lesson
02	News interpretation/ Mindset change (Japanese→English)
03	News interpretation/ Mindset change (Japanese→English)
04	News interpretation / Practical interpretation (Role Play)
05	News interpretation / Practical interpretation (Role Play)
06	Practical interpretation (performance)
07	News interpretation /　Notetaking practice
08	Mid-term presentation /　Practical interpretation (J→E)
09	News interpretation /　Practical interpretation (J→E)
10	Practical interpretation (performance)
11	News interpretation /　Practical interpretation (J⇔E)
12	News interpretation /　Practical interpretation (J⇔E)
13	Practical interpretation (performance)
14	News interpretation / Reproduction practice
15	Final presentation
16	None

2024年度シラバス

科目名:OG51S5004　Translation	担当者:三浦 紀美代	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
Translation is an elective lecture course for 3rd or 4th year students, relating to the 'practical English communication ability' mentioned in SLADE diploma policy. Students will learn basic skills for translation using various materials in this course. Students will be required to do translation assignments every week to discuss the various ways of translation in pairs and groups in the class. 【AL】

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to ....
1. Obtain basic translation skills (DP)
2. Translate into Japanese and English by using basic skills (DP)
3. Use the Internet effectively to search for the right word

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎実践的な英語コミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students need to ....
1..Prepare for the class (1 hour)
2. Do weekly assignments (2 hours)
3. Review the class materials (1hour)

評価方法
1. Weekly assignments 40%
2. Performance and presentation in the class 30%
3. Course reflection 10%
4. Final assignment 20%
Assignments will be returned to students with comments from the instructor.
Outstanding translations of students alongside model translations will be shared in the class.

教科書	参考図書
翻訳スキルハンドブック　駒宮俊友　(アルク)	All necessary materials will be provided by the instructor.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students need to participate in discussion and share their views with other students.
Preparation for each class and active participation are vital.

01	Introduction to Basic Translation Skills
02	Basic Skills: Change of the parts of speech(ex.from noun to verb)
03	Basic Skills: Inanimate subject and passive voice
04	Basic Skills: Relative clauses, and -ing and -ed clauses
05	Basic Skills: Long passage
06	Review of the Basic Skills
07	Practice: Translation of a newspaper article about social or political issues
08	Practice: Translation of a newspaper article about a culture or an economy
09	Practice: Translation of a magazine article or a recipe
10	Practice: Translation of a picture book or a novel
11	Practice: Japanese to English translation
12	Practice: Japanese to English translation
13	Explanation of the Course Reflection and Preparation for a presentation
14	Students' presentations
15	Students' presentations
16	None

科目名:OG51S5005　Extensive Reading I	担当者:佐分 ジュディス スミス	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
Overview and Methods: This course is related to practical ability to communicate in English in the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. The aim of this course is to further develop the students' reading fluency and positive attitudes to reading. Students will browse, select and read a range of graded readers or more advanced readers at a level suitable for their ability and for the purpose of increasing reading confidence. Students will complete short quizzes online to get word count credit. Students will practice reading exercises and reading-aloud techniques such as shadowing and overlapping. There will be various reading competition activities including speed reading. A secondary aim is to promote appreciation of English language literature through discussion and evaluation of reading. Half of each class will be spent reading and half the class in individual and group discussion of reading with specific Literature Circles roles each week. [AL, EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to….
a. develop greater fluency and confidence in reading for meaning a. [DP]
b. develop confidence in responding to reading texts in authentic ways a. [DP]
c. develop skills incl. summarizing, connecting reading themes to own life, and other cultures.
d. improve pronunciation
e. increase general vocabulary and cultural knowledge

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Since this is a two-credit class, students are asked to study for 4 hours per week out of class. Be organized - prepare and complete tasks early. Bring your materials to class each week. Set your reading goals and make a plan to complete them. Be responsible for your own time management and reaching your word count goals, which must be completed regularly throughout the course.

評価方法
Evaluation Methods:
Literature Circles Discussions 20% (5 x 4%)
MReader Reading (35%) Minimum reading requirements to pass = 35,000 words Reading MUST be completed on time or the points are lost and cannot be made up.
MReader Reports 15% (3 x 5%) Reports must be submitted to Moodle on time or all points will be lost.
Class participation 10%
Comprehensions activities 10%
Course Reflection 10%

教科書
No textbook required.

参考図書
A notebook and file folder is required. Other course materials are available in the ESC, the library or provided by the teacher.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Mac computer required. Access to SLADE Moodle and Mreader.org site required. There are no prerequisites for this course.

01	Course Overview
02	Guide to Literature Circle Activities and roles
03	How to Write for Literature Circle Roles 1
04	How to Write for Literature Circle Roles 2
05	Literature Circle Discussion 1 MReader Report #1 due
06	Preparing Literature Circles 2
07	Literature Circle Discussion 2
08	Preparing for Literature Circle Discussion 3
09	Literature Circle Discussion 3
10	MReader Report #2 due
11	Preparing for Literature Circle Discussion 4
12	Literature Circle Discussion 4
13	Preparing for Literature Circle Discussion 5 Work on Course Reflection
14	Literature Circle Discussion 5 Work on Course Reflection
15	CR due; MReader Report #3 due
16	なし

科目名:OG52S5006 Extensive Reading Ⅱ	担当者:佐分 ジュディス スミス	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
TOverview and Methods: This course is related to practical ability to communicate in English in the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. The aim of this course is to build on Extensive Reading I. Students will continue to advance their reading fluency and range. Students will read online news articles, graded readers, and do quizzes to prove their understanding of what they read. Students will practice reading exercises e.g. Comprehension reading assignments in class which will involve, aloud techniques such as shadowing and overlapping. A secondary aim is to promote appreciation of English language literature through discussion and evaluation of reading. Half of each class will be spent reading, doing Breaking News English (BNE) activities, and half the class in individual and group discussion of reading with specific Literature Circles roles each week. [AL, EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to….

a. develop greater fluency and confidence in reading for meaning [DP]
b. develop skills and confidence in responding to reading texts in authentic ways [DP]
c. increase general vocabulary and cultural knowledge
d. increase knowledge of news and current affairs

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Since this is a two-credit class, students are asked to study for 4 hours per week out of class. Be organized - prepare and complete tasks early. Bring your materials to class each week. Set your reading goals and make a plan to complete them. Be responsible for your own time management and reaching your word count goals.

評価方法
Evaluation Methods:
Comprehension assignments 10%
Literature Circle Discussions 20% (5 x 4%)
Breaking News English - BNE (online site) 20% (4x5%)
Class participation 10%
MReading (30%) Minimum reading requirement to pass = 30,000 words (1000 words = 1%
Course Reflection 10%
Feedback: On each class day we will introduce explanations, model answers, and language and correct misunderstandings.

教科書	参考図書
No textbook required	A notebook and file folder is required. Other course materials are available in the ESC, the library or provided by the teacher.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Mac computer required. Access to SLADE Moodle and Mreader.org site required. There are no prerequisites for this course. Teachers’ rooms -

01	Course Overview
02	; Breaking News English (BNE) introduction Speed reading activities
03	; Prepare LC Discussion 1
04	; LC Discussion #1 - BNE 1 due (before start of lesson each time)
05	; LC Discussion #1 Prepare LC Discussion 2; Mreader check 10,000 words consultation
06	LC Discussion #2 Prepare BNE #2
07	; LC Discussion #2 BNE 2 due
08	; Prepare LC Discussion 3
09	LC Discussion #3; Prepare BNE #3
10	; LC Discussion #3 BNE 3 due; Mreader check 20,000 words consultation
11	; Prepare LC Discussion 4
12	LC Discussion #4; Prepare BNE #4
13	; LC Discussion #4 BNE 4 due; Work on Course Reflection
14	; LC Discussion #5; Work on Course Reflection
15	CR due; Mreader check 30,000 words consultation
16	なし

科目名:OG51S5007　American Literature	担当者:小林 愛明	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
アメリカ合衆国の文学史をなるべく網羅する形で重要な作品を取り上げ、それらを社会・歴史背景とともに読み解く。関連する時代思潮、思想潮流についても学び、学芸学部のディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」を身につけることを目的とする。あらかじめ課題を読んだ上で、講義とグループディスカッションを通して文学作品を分析する。

授業の到達目標
①アメリカ文学の基礎的な知識を身につける。（DP）
②アメリカ文学作品を原文で読み、解釈することができる。（DP）
③文学作品を通して、批判的思考能力を身につける。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
１.毎週、予習範囲を指定するので、そこを読んで内容をまとめてくること。２．授業後は1.と同じ用紙に授業のまとめと感想を書いて提出すること。なお、１回の授業に対して４時間程度の予習復習をすること。

評価方法
A. 評価の方針　授業中の議論、文章作成への参加とリフレクションの提出を基本に評価する。B. リフレクションとフィードバック　C. 評価に関する要件　①毎回の小レポートの作成（40%）、②講義や議論への参加意欲（20%）、③期末レポート（30%）、④CR（10%）。フィードバックはMoodleにてコメント・評価する。

教科書	参考図書
Moodle上にてプリントを配布する。	授業中に案内する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料提示はMoodle等を用いて行う。毎回、指示された資料を各自でプリントアウトして持参すること。作品の一部を英語で読むので、毎回辞書を持参すること。なお、辞書はリーダーズ・プラス程度のものが望ましい。レポート作成時には関連図書を図書館で借りる、または自分で買うようにすること。オフィスアワーに関しては講義内で告知する。連絡手段に関してはMoodleとメールを使用する（LINEなどのSNSは用いない）。公共交通機関等で遅延等が発生した場合は、原則的に駅で発行される証明書を持参すること。その他、1回目のオリエンテーションを休んだ場合は、各自2回目の講義にてその内容を確認すること。

01	ナサニエル・ホーソン（アメリカ・ルネッサンスの文学①）（オリエンテーション）
02	ハーマン・メルヴィル（アメリカ・ルネッサンスの文学②）
03	ウィリアム・カーロス・ウィリアムズ（モダニズムの文学①）
04	マリアン・ムーア（モダニズムの文学②）
05	リチャード・ライト（ハーレム・ルネッサンスの文学①）
06	カウンティー・カレン（ハーレム・ルネッサンスの文学②）
07	ジャック・ケルアック（ビート・ジェネレーションの文学①）
08	ゲーリー・スナイダー（ビート・ジェネレーションの文学②）
09	ロバート・ローウェル（告白派の文学）
10	チャールズ・オルソン（ブラック・マウンテン派の文学）
11	ジョン・アシュベリー（ニューヨーク派の文学）
12	ジェームズ・ボールドウィン（公民権運動の文学①）
13	ボブ・ディラン（公民権運動の文学②）
14	アドリエンヌ・リッチ（フェミニズムの文学①）（CR）
15	アリス・ウォーカー（フェミニズムの文学②）（CR）（まとめ）
16	なし

科目名:OG52S5008　British Literature	担当者:井川 恵理	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to 'the ability to understand other cultures and use critical thinking' in SLADE diploma policy. The aim of this course is to read through some typical British pieces of work in the original language. Students are to read major passages aloud and consequently have them become part of themselves. Understanding cultural or historical background of the society and the circumstances of the era is required. 【AL, EN】

授業の到達目標
Students will be able to a. read aloud and recite some of the famous parts of the work.
b. understand the background of the literary work. 【DP】
c. rephrase the scene in other phrases. 【DP】
d. discuss the topics and concepts covered in class. 【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students are required a. to read the designated section aloud after checking the pronunciation of the words. b. to search unknown words, definitions of words, and phrases in English-English dictionaries and prepare written notes. c. to search the historical background of some phrases and scenes. d. to read the content after the class to understand fully. 2 hours of preparation and 2 hours of reflection work are required.

評価方法
1. Preparation & Reflection 40%,　2. Reading aloud and Recitation 20 %　3. Mid-Term Quiz 20%　4. CRP with a short essay 20%
5. Feedback is given to each assignment as a comment.

教科書	参考図書
Handouts will be given in class.	阿部公彦著『英詩のわかり方』（研究社）、Iona and Peter Opie, The Oxford Dictionary of Nursery Rhymes (Oxford University Press),「中学校学習指導要領」「高等学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Read each literary work aloud after checking the meaning and pronunciation. The sounds matter a lot in literature. Office 7310. Office hours and the contact e-mail address will be given in class.

01	Introduction: British Literature and Japan（イントロダクション　イギリス文学と日本）
02	English-Speaking World and 'Igirisu': Characteristics of Four Nations and Their Literature （「イギリス」の多義性と文学）
03	English-Speaking World and Rhymes (1) Nursery Rhymes, strange stories and characters（伝承文学　マザーグース　奇想天外な物語）
04	English-Speaking World and Rhymes (2) Nursery Rhymes, tongue twisters（伝承文学　マザーグース　早口言葉）
05	English-Speaking World and Rhymes (3) Mysteries and Nursery Rhymes（ミステリーと伝承童謡）
06	Rhyme Recitation Contest, Poetry from the U.K.　（暗唱大会、イギリス詩の世界）
07	Midterm Exam, Story & Nature: Peter Rabbit Series (1)（中間テスト、物語と自然：『ピーター・ラビット』の動物たち）
08	Story & Author's Life: _Peter Rabbit_ Series (2) Beatrix Potter（物語と人生：『ピーター・ラビット』作者ビアトリクス・ポター）
09	Story & Author's Life: _Peter Rabbit_ Series (3) Beatrix Potter in Victorian UK（ヴィクトリア朝英国に生きるB. ポッター）
10	Introduction to Shakespeare: British Isles in the 16th-17th Centuries, England and Scotland（シェイクスピア導入：16-17世紀のブリテン島、イングランドとスコットランド）
11	Witch Trial and _Macbeth_（魔女裁判と『マクベス』）
12	Rhythm in Plays: William Shakespeare (1564-1616) _Macbeth_: Incantation of Witches （舞台劇の中の韻: ウィリアム・シェイクスピア (1564-1616)『マクベス』魔女の呪文）
13	Rhythm in Plays: William Shakespeare (1564-1616) _Macbeth_: Macbeth and Lady Macbeth（『マクベス』マクベスとマクベス夫人）
14	Rhythm in Plays: William Shakespeare (1564-1616) _Macbeth_: 'Tomorrow speech' （『マクベス』「明日」スピーチ）
15	Plays, Novels, & Poetry: Recitation Contest and CRP （『マクベス』暗唱大会　まとめ課題の説明）
16	CRP　まとめの課題提出

科目名:OG52S5010　Theory of English Structure	担当者:村木 恭子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to the "Ability to understand languages and other cultures from the global perspective" in SLADE diploma policy. In this course, students will study following area; 1) Linguistics and English Linguistics 2) Language acquisition3) Morphology 4) Phonology 5) Semantics6) Syntax7) Pragmatics.【EN】

授業の到達目標
Students who pass this course will be able to understand basic ideas of; 1) Linguistics and English Linguistics [DP]2) Language acquisition [DP]3) Morphology [DP]4) Phonology 5) Semantics [DP]6) Syntax [DP] 7) Pragmatics[DP].

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
This course is one of the “specialized courses”, self-study and self-research, including a lot of material readings are highly required. Reviewing and preparing for this course will require 4 hours out of class work each week.

評価方法
In order to pass this class, students must complete the following assignments:Weekly reflection journal & Mini-quizzes: Mini-quizzes will be given after each chapter. … 50 %Final report: Details will be explained in class. … 50%(Including 10% course reflection) All the assignment will be commented either during the class, or moodle, or individual comment sheet.

教科書	参考図書
岸本英樹(2009) 『ベーシック生成文法』ひつじ書房	中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領, Other materials will be introduced or provided in class or on the SLADE’s Moodle.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites for taking this course. However, it is highly recommended to take “English Linguistics” class in second year. Instructor’s contact information will be announced in the first class.

01	Orientation, including rules of the classes, how to manage the textbook, homework, What is English Linguistics (The way of thinking language) (chapter 1)
02	What is Language Acquisition (chapter 2)
03	Morphology & Phonology
04	Semantics (basic) (chapter 4)
05	Semantics (advance) (chapter 4)
06	Syntax (Universal Grammar) (chapter 3)
07	Syntax (Syntactic Structure) (chapter 5)
08	Syntax (Syntactic Structure) (chapter 5)
09	Syntax (X-bar theory) (chapter 6, chapter 7)
10	Syntax (X-bar theory) (chapter 6, chapter 7)
11	Syntax (Wh-movement) (chapter 15)
12	Syntax & Semantics (Semantic role of the sentences) (chapter 8)
13	Passive and Active (chapter 9)
14	Subject and Head (chapter 13, chapter 14), explanation about Course Reflection
15	Wrap-up of the course
16	None

科目名:OG52S5011　Sociolinguistics	担当者:寺澤 陽美	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
社会との関わりの中で英語や日本語など言葉がどのように使われているかに注目し、様々な理論や考え方への理解を深めます。
言葉の使われ方の多様性、言葉の地域差、二言語使用・多言語使用、言語変異と言語変化、言語習得と異文化接触、言語と文化、発話行為と丁寧さ、言語政策と言語計画、非言語伝達など、社会言語学で取り扱うテーマを全般的に概観しつつ、近年の言語変化をとらえ、今の社会と言語の使われ方について考察します。
英語や日本語での事例研究をもとにしたリサーチ、ペアやグループでの学習、発表などアクティブ・ラーニングを行います。【AL】

授業の到達目標
(1)社会との関わりの中で、英語や日本語など言葉がどのように使われているか、様々な理論や考え方を理解することができる。
(2)社会言語学で取り扱うテーマを全般的に概観し、近年の言語変化から、今の社会と言語の使われ方について理解し考察することができる。
(3)社会言語学的視点から自分なりのテーマを持ち、研究し、発表することができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
予習を行ったうえで授業に臨み、授業後は復習を行ってください。
授業で学んだことをきっかけとして、授業外で社会と言葉の関係についてさらに研究を深めます。
また、各自の興味に沿ってリサーチを行っていきますので、授業外で調査や発表準備が必要な場合があります。
１回の授業に対して４時間程度の予習復習を行うことが求められます。

評価方法
（評価の配分）授業内活動への取り組み40%・プレゼンテーション30%・期末レポート30%
授業中の学修活動は、主に、授業内活動への参加貢献度、発表のわかりやすさ、丁寧さを評価します。また、発表内容を文章での提出を求め、その文章のわかりやすさ、丁寧さを評価します。
授業外の学修活動は授業準備、各自のリサーチのわかりやすさと丁寧さを評価します。
提出課題などのフィードバックは授業内で行います。

教科書	参考図書
『改訂版 社会言語学−基本からディスコース分析まで』（2022, ひつじ書房） 岩田祐子, 重光由加, 村田泰美	必要に応じ、資料を配布する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
これまで学んできた英語や毎日使う日本語と、その背景にある社会との関係について、興味関心をもって学んでみましょう。

01	コースガイダンス、社会言語学とは
02	言語と地域
03	言語と社会階層
04	言語と民族、言語変異と言語変化
05	言語とジェンダー
06	言語と年齢
07	言語の選択、多言語使用
08	中間発表、ディスカッション
09	社会言語学と異文化コミュニケーション
10	発話行為と丁寧さ
11	言語と思考と文化
12	言語政策、言語計画
13	言語の選択、多言語使用
14	事例研究
15	期末発表、ディスカッションとまとめ
16	なし

科目名:OG51S6006　Applied Linguistics	担当者:村木 恭子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to the ability to use critical analysis based on the acquired knowledge and to offer logical messages to the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. The purpose of this course is to introduce students to some of the areas of interest to English language teaching. Areas include the difference between language and communication, verbal/non-verbal communication, grammar and the brain, how to success in language learning, motivational differences, language acquisition and psycholinguistics. will test their knowledge in quizzes of the areas of knowledge covered. Students will reflect on the topics they learned and identify their own beliefs as a language user and learner. [AL, EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to….
a. understand the key areas in the field of Applied Linguistics
b. understand and express knowledge on the key questions in learning languages [DP]
c. reflect on their own identity and beliefs as a language learner, teacher and educator [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的な英語コミュニケーション能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Since this is a two-credit class, students are asked to study for 4 hours per week out of class. Read and view the class materials before class each week so you can participate in class. Study and do quizzes on time. Identify your attitudes and beliefs as a language user and learner, also prospective language teacher.

評価方法
Absences and lateness will result in losing points.
a. Class activities (15%)
b. Quizzes 45%
c. History of the English Language (30%)
d. Course Reflection (10%)

Feedback: On each class day we will introduce explanations, model answers and language and correct misunderstandings. Correct answers will also be made available on moodle.

教科書	参考図書
No set text	All materials provided on Moodle

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students are required to bring their Macs to class and keep a back-up of their materials. There are no prerequisites for this course. Email and how to contact instructor: To be advised in class.

01	Course Overview and Introduction to Applied Linguistics
02	Humans and Language (Q1)
03	Communication and Language (Q2)
04	Verbal/Non-verbal communication (Q3)
05	Nature (Q4)
06	Nurture (Q5)
07	The Critical/Sensitive Periods
08	Grammar and the Brain (Q6)
09	First Language Acquisition Part 1 - Milestones
10	First Language Acquisition Part 2 - FLA milestones activity
11	Second Language Acquisition - Motivation
12	Psycholinguistics
13	Work on Course Reflection
14	Work on Course Reflection
15	Course Quiz & Course Reflection due
16	None

科目名:OG31S6008　教育相談	担当者:木村 洋太	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
①カウンセリング理論の学習とワークを通して、教育相談における基本的態度について理解・体得を目指す　②現代の児童・生徒の抱える諸問題（虐待、愛着形成、いじめ、不登校など）や、発達障がい、様々なココロの問題についての理解を深め、その対応についても考える力をつける。日本に限らず、どの国、文化、社会においても、他者を受容し、共感的理解を求める相談の知識や技量はコミュニケーションにとって必要不可欠である。この点において、本講義は、学芸学部ディプロマ・ポリシー「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」および「グローバル化した社会に向けての論理的な能力の育成と関係している

授業の到達目標
教育相談では、学業上の問題以上に児童生徒の人格・心身の健康を助言・育成することが求められる。その資質・能力を向上していくため、現代の児童・生徒が抱える諸問題や発達上の問題について、ビデオやエピソードを通してリアリティの高い授業を展開する。また，カウンセリング理論や自己主張についての理解を深めながら、相談活動の基本的な姿勢や対応について、ロールプレイなどを行いながらその体得を目指す。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
ワークシートにある質問や意見に次回授業でフィードバックを行い，他の学生の意見も載せたまとめを配布する。これらをヒントに随時参考文献も示しながら、何を次の学習につなげ、自己学習するのかテーマを課す（２～５題）。個人のワークシートは、コメント入りで毎授業返却するので，授業資料だけでなく自分の考えや取り組みの変遷を振り返り，定期試験，教育実習へのまとめとして利用する。授業のトピックの中から該当する研究論文を配布するので、授業内容を参考にしながら、論文についてまとめた上で意見を述べ、ディスカッションする。

評価方法
　確認テスト（60%），毎回の授業で提出してもらうワークシート等の内容（30%）、CRP(10%)から総合的に評価する。授業参加態度が一定の基準を満たさない場合，原則として確認テストの受験資格は得られない。

教科書	参考図書
教科書は特別指定せず、授業中に自作の資料を配布する。	随時、参考図書を紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業の参加率、積極的な発言等を高く評価します。心理学に正しい回答はないので、自分で考えたことを自由に発言する機会を設けます。連絡先は授業中にお知らせします。

01	オリエンテーション　：教育相談とは何か　−教員にとっての教育相談の必要性−
02	配慮の必要な子どもの理解　−発達障がいの理解と対応（sLD）
03	配慮の必要な子どもの理解　−発達障がいの実際（ASD）
04	配慮の必要な子どもの理解　−発達障がいの理解　理論編（ASD）
05	配慮の必要な子どもの理解　−発達障がいの理解　対応編（ASD）
06	配慮の必要な子どもの理解　−発達障がいの理解と対応編（ADHD）
07	保護者の理解と関係のとり方（保護者支援の観点から）
08	児童期青年期に生じるココロの諸問題の理解
09	カウンセリングの基礎的な考え方と技法　−来談者中心療法と傾聴について
10	傾聴のスキルを身につける（エピソードを通してどのような傾聴を試みるか練習する）
11	教育相談に有用な心理支援（応用行動分析）
12	教育相談に有用な心理支援（行動療法、認知行動療法、開発的カウンセリングなど）
13	実際の相談の流れと支援計画の作り方（どのように子どもを理解し、記述するのか）
14	教育相談のための連携と協働（学内連携の意義と連携する種々の外部機関の役割）
15	こころを支えるための子どもの理解の専門性とは
16	子どもの不適応、心理支援など授業で紹介したトピックの中からその理解をまとめ、これからの教育相談について必要な視点は何か自分の意見を述べる論述試験試験（人数に応じてレポートにする可能性あり）

科目名:OG31S6012　英語科教育法 Ⅲ	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、高等学校における英語の指導方法について具体例を示し、理論と実践を繋げながら学ぶ。また、高等学校での英語教育を実施するための指導案作成・教材作成・評価方法について体験的に学ぶことができるようにする。【AL】

本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」をつけ、それらを将来教育分野において生かすことが意識されている。２年次に学んだ英語科教育法を更に発展させ、主に高等学校における教育課程編成のあり方を学ぶ。続いて英語科各科目の位置付け、目標などについて学び、英語授業を適切に行うための諸理論を学んでいく。使用テキストを概観しながら、学習指導要領と高校教科書を同時に分析していく。そして教科や科目の目標について講義を行う。必要に応じてディスカッションや発表を取り入れる。

授業の到達目標
１．　高等学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。また、教育課程全体の中における英語科各科目教育の位置づけ・目標について理解することができる。　２．　高等学校における英語授業の具体的な指導方法、および「授業分析方法と指導案作成方法」等の英語教育諸理論を理解することができる(DP)。　３．　高等学校外国語科の学習指導案を作成することができる(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的な英語コミュニケーション能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
できるだけ多くの英語教育関連図書を読み、時間を作り、ワークショップや研究会に出席する事を強く薦める。また、受講生自身の英語力をさらに向上させるために、継続して英語を勉強し続けることが望ましい。授業外学修は最低４時間とする。

評価方法
①授業内パフォーマンス課題　40%（英語による指示指導・音読テスト）　②英語教育関連図書購読課題　20%
③中間・期末テスト　30%　④毎回のリフレクションとCR 10%

教科書	参考図書
岡田圭子他. (2018). 基礎から学ぶ英語科教育法. 松伯社.	文部科学省　「中学校／高等学校学習指導要領」「生徒指導提要」。その他授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワーを含め、必要な連絡方法については授業時に指示する。

01	コース紹介、シラバス説明、第１章　英語教育と英語教育学
02	第２章　英語の国際化と日本の英語教育
03	第４章　学習者論
04	第５章　英語教員
05	第７章　英語教授法
06	第８章　第二言語習得と英語教育
07	第３章　学習指導要領（小・中・高等学校の連携）
08	第１０章　リスニング指導
09	第１１章　スピーキング指導
10	第１２章　リーディング指導
11	第１４章　ライティング指導
12	第１８章　文法の学習と指導
13	第１４章　ティーム・ティーチング
14	第１５章　測定と評価
15	第１７章　教科書と教材研究、CR提出
16	なし

科目名:OG32S6013　英語科教育法 Ⅳ	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、高等学校における英語の指導方法について具体例を示し、理論と実践を繋げながら学ぶ。また、高等学校での英語教育を実施するための指導案作成・教材作成・評価方法について、英語科教育法IIIで学んだことを模擬授業で実践して身に付けることができるようにする。

本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」をつけ、それらを将来教育分野において生かすことが意識されている。英語科教育法Ⅳでは、教育実習で実際に英語授業を行うために必要な訓練を行う。前期の同授業Ⅲに続き、より実践に近い形を想定してこの授業を位置付ける。前期に学んだ英語教育諸理論を授業実践の中でどのように生かすかということを考える機会にすることが、本授業の最終的な目標である。

授業の到達目標
１．前期に学んだ英語教育理論を実践に応用することができる。２．　学校文法の正しい知識を、コミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に伝えるような高校の授業を考えることができる(DP)。３．　高校の教科書をもとに、適切な学習指導案を作成することができる(DP)。４．　教師／学習者それぞれの立場で積極的に模擬授業に参加することができる(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的な英語コミュニケーション能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
できるだけ多くの英語教育関連図書を読み、時間を作り、ワークショップや研究会に出席する事を強く薦める。また、受講生自身の英語力をさらに向上させるために、継続して勉強し続けることが望ましい。授業外学修は最低４時間とする。

評価方法
①教科書分析課題（１０％）②模擬授業（50％）　③指導案・CR（20％）　④図書・DVD・研修課題（20％）

教科書	参考図書
岡田圭子他. (2018).　基礎から学ぶ英語科教育法.　松伯社.	文部科学省　「中学校／高等学校学習指導要領」「生徒指導提要」。その他授業時に指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
オフィスアワーを含め、必要な連絡方法については授業時に指示する。

01	オリエンテーション（授業進行説明）、発音・音読の指導
02	コミュニケーション活動のデザインと実施（１）コミュニケーション英語
03	コミュニケーション活動のデザインと実施（２）英語表現（論理・表現）
04	評価とテスト
05	標準的授業構成と授業のモデル
06	指導案検討と模擬授業（１）５文型
07	指導案検討と模擬授業（２）時制
08	指導案検討と模擬授業（３）助動詞
09	指導案検討と模擬授業（４）受動態
10	指導案検討と模擬授業（５）不定詞
11	指導案検討と模擬授業（６）動名詞
12	指導案検討と模擬授業（７）分詞
13	指導案検討と模擬授業（８）関係詞
14	指導案検討と模擬授業（９）比較
15	指導案検討と模擬授業（１０）仮定法、CR提出
16	なし

科目名:OG32S7003　Comparative Cultural Studies	担当者:寺澤 陽美	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
世界各国の文化や生活を扱う英文をきっかけとして、異文化と多様性への理解を深めます。
この科目は学芸学部のディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」と「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を身につけることをめざします。
ペアやグループでの学習、発表などアクティブ・ラーニングを行います。【AL】

授業の到達目標
(1)世界各国の文化や生活を扱うトピックについて、英語で理解することができる。【DP】
(2)自国・他国との違いを認識し、異文化、多様性を理解することができる。【DP】
(3)(1)、(2)を踏まえ、自分なりの意見を英語でわかりやすくかつ丁寧に、口頭や文章で説明できるようになる。【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
予習を行ったうえで授業に臨み、授業後は復習を行ってください。
また、授業で学んだことをきっかけとして、授業外で異文化等に関してさらに研究を深めます。また、それを英語で簡潔にまとめたり、わかりやすい英語で発表する練習をしたりしますので、授業外で発表準備や練習が必要な場合があります。
１回の授業に対して４時間程度の予習復習を行うことが求められます。

評価方法
（評価の配分）授業内活動への取り組み30%、小テスト30%、プレゼンテーション20%、期末レポート20%（CR10%を含む）
授業中の学修活動は、主に、授業内活動への参加貢献度、グループ発表における発表のわかりやすさ、丁寧さを評価します。また、発表内容を文章での提出を求め、その文章のわかりやすさ、丁寧さを評価します。
授業外の学修活動はMoodle等で提出された課題のわかりやすさ、丁寧さを評価します。
提出課題のフィードバックは、Moodleまたは授業内で行います。

教科書
Guess What?! Intercultural Surprises　世界の衝撃アイテムから学ぶ15の国の文化と人々
著者：松井　夏津紀ほか　ISBN：9784523179306

参考図書
必要に応じ、教員より資料配布する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業には必ず辞書を持参してください。資料の提示やレポート等の提出をMoodleで行います。
質問は授業後のオフィスアワー等を活用して下さい。連絡先は授業でお知らせします。
より充実した授業のため、受講人数や状況に応じて本計画は変更になることがあります。

01	授業概要の説明／Unit 1 Canada: Natural Beauty Abounds
02	Unit 2 Thailand: Where Culture and Fragrance Harmonize
03	Unit 3 Germany: Leaders in Protecting Our Environment
04	Unit 4 Turkey: Finish Up Your Coffee
05	Unit 5 Russia: Home to the Coldest Place Inhabited by Humans
06	Unit 6 Israel: A Land of Tradition and Technology, まとめ
07	Unit7 South Africa: The Country with 11 Different Names
08	Unit 8 The United States: A Nation on the Road
09	Unit 9 France: A Place of Little Waste
10	Unit 10 Bangladesh: Where Chaos and Peace Coexist
11	Unit 11 New Zealand: Where Native Culture Thrives, まとめ
12	Unit 12 South Korea: The Crossroads of Food, Culture, and Tradition
13	Unit 13 Niger: Friendly Faces in a Dry Land
14	Unit 14 Brazil: A Paradise for Soccer and Dance Lovers (CR)
15	Unit 15 Sweden: Time for Fika, まとめ (CR)
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG52S7009　観光とサブカルチャー	担当者:根尾 文彦	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】旅行会社勤務　本授業は学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを能力を身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につける」ことを目的とする。現代社会には、我々の生活を彩るサブカルチャーがたくさん存在します。先ずはサブカルチャーとは何かを学び、それらを地域における観光産業にどのように生かすことが出来るのかを各自が考えます。本授業は講義と学生による主体的な研究・発表によって構成されます。

授業の到達目標
①日本のサブカルチャーの歴史、背景などを理解している。（DP）　②サブカルチャーと観光の結びつきを理解できている。（DP）③サブカルチャーを素材とした観光プランを作成する。（DP）④作成した観光プランを効果的にプレゼンテーションする。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語、異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業で学んだことを更に深く調べてレポート提出が求められます。
サブカルチャーに関する情報は日々発信され、新聞やニュース、インターネットなどを通じて、常に把握するようにしましょう。事前事後学修として週に4時間前後の自主学習が求められる。

評価方法
授業への参加態度30%、観光プラン①の内容と発表20%、観光プラン②の内容と発表20%、課題レポート20%、CRP10%を総合的に評価する。なお、課題レポート、発表の評価はその都度、メール又は口頭で行う。

教科書
なし
,
なし、随時プリントを配布します。

参考図書
適宜案内します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
研究室　7307号室
neo@ohkagakuen-u.ac.jp

01	9/30　オリエンテーション（シラバスの説明）、サブカルチャーとは
02	10/7　日本におけるサブカルチャーの変遷
03	10/14 日本のマンガの歴史、アニメの歴史
04	10/21 サブカルチャーと日本の政策、現代の若者と社会
05	10/28 コンテンツツーリズム
06	11/4　日本のアニメ（DVD）の視聴
07	11/18 私たちが考えた聖地巡礼ツアー制作
08	11/25 私たちが考えた聖地巡礼ツアー発表
09	12/2　日本のアイドルの文化史
10	12/9　コスプレツーリズム
11	12/16 地域の賑わいづくりとサブカルチャー
12	12/23 ゲームと観光
13	1/6　ゲームを用いた観光プランの発表①
14	1/20　ゲームを用いた観光プランの発表②
15	1/25（土） CRP作成、まとめ
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG52S7010　観光政策論	担当者:笹生 友広	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】旅行会社勤務
　旅行会社での勤務経験を踏まえて、我が国の行政による観光政策の変遷及び社会的効果等について、具体的事例を参照しながら検討を行う。
　本授業においては学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」の習得が望まれる。
　近年の観光政策における大きな課題である「訪日観光（インバウンド）」、「観光まちづくり」および「日本人の海外旅行」の基本施策を学び、その社会的背景や政策内容を検討し、今後の方向性を模索する。それぞれのテーマ毎にレポートにまとめる。（4回）

授業の到達目標
①訪日観光（インバウンド）の現状を把握し、課題を抽出し､自分なりの解決策を見いだす。（ＤＰ）
②観光まちづくりの現状を把握し、課題を抽出する。自分の出身地について具体的に調査し課題と解決策をまとめる。（ＤＰ）
③日本人海外旅行の現状を把握し、課題を抽出する。（ＤＰ）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○批判的思考、論理・創造的発信力
◎ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各種メディア（新聞、書籍、ＴＶ等）や、観光庁をはじめ各自治体や観光協会、ＮＰＯ法人等のホームページ、SNSから情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。

評価方法
授業への参加態度（30%）、各テーマ毎レポート内容（15×3＝45%）、外部講師レポート内容（15%）、CRP（10%）などを総合して評価する。
各レポートについては、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた答案、論文等の紹介をする。

教科書	参考図書
プリントを配布します。	観光関連専門雑誌（㈱トラベルジャーナル発行）『トラベルジャーナル』など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　 7301教室
毎回の授業内容についての質問はMoodleで随時受け付けます。個別質問はオフィスアワー等を活用してください。

01	10/01 授業オリエンテーション、現在の我が国の観光の状況と社会的背景
02	10/08 これまでの観光政策　(訪日旅行)
03	10/15 訪日旅行の現状と課題　①
04	10/22 訪日旅行の現状と課題　②
05	10/29 グループディスカッション及びレポート提出（訪日旅行）
06	11/05 これまでの観光政策（地域創生） 11/04 これまでの観光政策（地域創生）
07	11/12 地域創生：観光まちづくりの現状と課題　参考事例①
08	11/19 地域創生：観光まちづくりの現状と課題　参考事例②
09	11/26 地域創生：観光まちづくりの現状と課題　参考事例③
10	12/03 グループディスカッション及びレポート提出（地域創生：観光まちづくり）
11	12/10 愛知県の観光政策について（外部講師）①
12	12/17 愛知県の観光政策について（外部講師）② レポート提出　　(CRP作成)
13	12/24 日本人海外旅行の現状と課題　①（これまでの歴史）　　(CRP作成)
14	01/07 日本人海外旅行の現状と課題　②（今後において望まれること）（CRP提出）
15	01/14 グループディスカッション及びレポート提出（日本人の海外旅行）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG51S7011　観光とメディア	担当者:根尾 文彦	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】旅行会社勤務　本授業は学芸学部のディプロマポリシーにある現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけることが望まれる。観光とメディアは密接な関係にあります。前半は新聞、雑誌、書籍、ガイドブックなどの活字メディア、テレビ、ラジオなどの放送メディア、そしてインスタグラム、You Tubeなどのオンラインメディアについて学びます。後半では各自で可能なメディアを使って観光振興、観光プログラムを実際に作成して授業内で発表します。本授業は講義と学生による主体的な研究・発表によって構成されます。

授業の到達目標
①活字メディアと観光の関連性を理解している。②放送メディア、オンラインメディアと観光の関連性を理解している。③行政などが発信する観光情報を理解している。④自分で観光コンテンツを作成することができる。「 (DP) 」
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
〇批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
観光に関する新聞、ニュース、テレビ番組やインターネット情報などを通じて様々な観光情報を収集する。
事前事後学修として週に4時間前後の自主学習が求められる。

評価方法
授業への参加態度30%、観光ポスターの制作と発表20%、各自観光コンテンツの制作と発表40%、CRP10%を総合的に評価する。制作物及び発表への評価はその都度、書面、口頭などでフィードバックする。

教科書	参考図書
なし	適宜案内します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
研究室　7307号室
neo@ohkagakuen-u.ac.jp

01	4/11 オリエンテーション（シラバスの説明）、メディアの役割
02	4/18 観光とメディアの関係性
03	4/25 旅行パンフレット、ガイドブックなどの活字メディア
04	5/9　 業界紙、業界新聞などの活字メディア
05	5/16　観光ポスターの制作（グループワーク）
06	5/23　観光ポスターの制作および発表（グループワーク）
07	5/30　テレビ番組、ラジオ番組などの放送メディア 5/30 インスタグラム、You Tubeなどのオンラインメディア
08	6/6　 インスタグラム、You Tubeなどのオンラインメディア
09	6/13 インターネットと観光産業
10	6/20 観光地が発信する観光情報
11	6/27 自治体などが発信する観光情報
12	7/4　 外国メディアから見たニッポン
13	7/11 観光コンテンツの作り方
14	7/18 各自で観光コンテン制作、 CRP作成
15	7/25 各自で作成した観光コンテンツの発表
16	なし

科目名:OG31S8003　Seminar　I	担当者:井川 恵理	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
授業概要と方法
This course is related to 'the ability to use critical analysis based on the acquired knowledge and to offer logical messages to the globalized societies' mentioned in the SLADE diploma policy.
Course Description: This seminar covers British Studies through designated materials, a book from the Harry Potter series, and the U.K. current issues.
General Approach: Students will 1) read the above book and discuss the related topic, and make a presentation. 2) discuss the member's research content after the presentation. 3) experience local cultural event(s) to understand Japanese culture and/or the U.K.-Japan relationship. 4) prepare for the semester learning portfolio. {AL,EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to….
A. Read English sentences in the novel aloud with correct pronunciation, intonation, and delivery. [DP]
B. Understand the original text of the world of Harry Potter.
C. Acquire the basic information of the United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland. [DP]
D. Professionally present their research both orally and in writing. [DP]
E. Experience event(s) of Japanese traditional culture and/or the U.K.-Japan relationship.
F. Articulate their thoughts critically and discuss. [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1. Students are expected to register for 'British Studies' and learn the basic knowledge of the U.K.
2. 2 hours of work outside the class is required. Read the designated section of the textbook well. Check pronunciation of unknown words, phrases and background information. Read it aloud. Check them in English-English dictionaries.

評価方法
1. Spring assignment: 20%
2. Preparation for the class. Active participation in discussion and reflection (Being on time to class, listening to other members' opinions, preparing for each task, expressing her own opinion in English) 40%
3. Harry Potter presentation 20%
4. Semester Learning Portfolio and Its Presentation 15%
5. ESC study 5%

教科書	参考図書
J. K. Rowling, _Harry Potter and the Philosopher's Stone_ (Bloomsbury 1997)	For the U.K. current issues, some on-line U.K. news (e.g. The Guardian, BBC, The Express, etc.) and Japanese news will be useful.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Harry Potter: Read the designated section aloud and check the ambiguous words and phrases well.Contact: Office 7310. Office hours and contact e-mail address will be given in class.

01	Spring Assignments Submission, Schedule, My Plan, and Explanation of the Course Content
02	My Plan and Registration Check, Harry Potter Series, the U.K. Issues
03	The 1st draft of Semester Learning Portfolio due, Preparation for Harry Potter Presentations
04	CHAPTER ONE: SLP Submission
05	CHAPTER TWO: Final draft of Semester Learning Portfolio due
06	Semester Learning Portfolio Presentation, Poster Preparation Explanation
07	CHAPTER THREE
08	CHAPTER FOUR
09	CHAPTER FIVE
10	Quiz Time: Mid Term Summary, Start planning for the seminar trip (if the situation allows.)
11	CHAPTER SIX
12	CHAPTER SEVEN
13	CHAPTER EIGHT
14	CHAPTER NINE, Course Reflection Preparation
15	Summary and Summer assignment explanation
16	None (Seminar Trip during summer, if the situation allows.)

2024年度シラバス

科目名:OG31S8003　Seminar　I	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to ability to use critical analysis on the acquired knowledge and to offer logical message to the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. In this seminar, students learn general ideas about second language learning & teaching. They are asked to actually “TRY” the skills outside of class and in their daily lives. Each student reads chapters in the textbook and reports the summary in class. They apply the skills outside of class & in their daily lives and report how language learning skills affect their lives.

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to
1. understand the basic ideas of second language learning & teaching.
2. apply the skills in their lives (DP).
3. be able to think with their own minds and articulate their ideas(DP).

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1) Read the designated section of the textbook before class. (1 hour).
2) Apply the skills in their daily lives. (1 hour or more).
3) Write the summary and the report of skill practice (1 hour).
4) ESC study (1 hour)

評価方法
1. Active Participation in class (reading assignment, discussion, being on time to class) (25%)
2. Weekly Report (40%) 3. Course Reflection Portfolio (10%) 4. Semester Learning Portfolio of the previous semester (20%) 5. TOEIC study (5%) Feedback: students receive written comments on the reports or via Moodle.

教科書	参考図書
中田達也・鈴木祐一 (2022)　英語学習の科学　研究社	To be supplied by the instructor.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office hours and e-mail will be announced in class.

01	Course Overview; My Plan
02	Introduction, My Plan finalized; Registration check
03	第１章 SLA研究から考える英語学習の大原則, 1st draft of Semester Portfolio due
04	第２章 単語の学習
05	第３章 文法の学習, Final draft of Semester Learning Portfolio due
06	第４章 発音の学習, Semester Learning Portfolio Presentation due
07	第５章 リスニングの学習
08	第６章 リーディングの学習
09	第７章 スピーキングの学習
10	第８章 ライティングの学習
11	第９章 英語学習と個人差
12	第１０章　動機づけ・学習スタイル・学習ストラテジー
13	第１１章 子どもの英語学習
14	第１２章　留学による英語学習、文献発表、CR作成
15	文献発表、CR提出
16	None

2024年度シラバス

科目名:OG31S8003　Seminar　I	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to the ability to use critical analysis based acquired knowledge and to express themselves logically and creatively in globalized society.
This seminar covers the broad area of international relations, current affairs, and business. Other topics of this seminar include - Current world and national issues and events; business issues, culture and events. Seminar students have a choice in looking at different aspects of international relations, current affairs and business. Students will have in-class discussions in pairs and groups to talk about current affairs, business and other international relations topics introduced by the teacher and students. This seminar is a research and discussion based seminar. In class, all students will actively take part and learn from each other. Students will be required to read or watch world and business news weekly and report on issues in class. Students are required to write final reflections on the videos they watch and turn in a CR. Students' learning portfolio (SLP) from 2nd year fall semester will be checked and graded. Student will give a presentation on their 2nd year fall semester learning portfolio. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course: Upon successful completion of this course, students will be able to….
1. understand how selected current affairs, international relations and global politics affects their lives
2. understand how some current affairs, international relations and global politics affects global society (DP)
3. develop critical thinking skills (DP)
4. present their research in a professional manner orally.

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students need to do the homework and be prepared to discuss it in English in class to pass the course. Students should study 2 hours per week outside of class. Students will do Internet research for class, so students need to have access to the Internet and computer research skills. Students must be able to work with other students in pairs and groups to participate in this class. Students are also required to use the ESC for 60 minutes each week for their study. The details of ESC usage will be explained in the 1st week's class.

評価方法
Evaluation Methods:
Course Requirements (Major Assignments, Quizzes & Exams including Dates)
In order to be successful in this course, students will need to complete the following:
1. Actively Participate in class□　　30%
2. Homework□　　25%
3. Researched Opinion Essay Presentation　10%
4. Semester Learning portfolio　15%
5. Learning portfolio presentation 5%
6. Class reflection 10%
7. ESC usage　5%
Feedback will be given on homework in class. In this seminar, a seminar trips may be held based on agreed on theme/destination

教科書	参考図書
Textbooks: To be supplied by the instructor	Reference Books other Course Materials:　To be supplied by the instructor

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
There are no prerequisites for this course.
Donovan Clarke's office is 7308, his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
The Moodle site will be used to provide class s

01	Course introduction and syllabus
02	Current world issues - Introduction to news - Semester learning portfolio (SLP)
03	Current world issues - Freedom and government - SLP - first draft
04	Current world issues - Freedom and government
05	Current world issues - Freedom and government- SLP- final draft
06	Semester learning portfolio presentation
07	Current world issues - Freedom and government
08	Current world issues - Discrimination and history
09	Current world issues - Discrimination and history
10	Current world issues - Discrimination and history

11	Current world issues - Discrimination and history
12	Current world issues - Student choice
13	Start planning 4th year seminar project - Student choice
14	Planning 4th year seminar project and CR
15	Research presentation and CR
16	none

2024年度シラバス

科目名:OG31S8003　Seminar　I	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を涵養するための授業です（AL）。
（１）韓国社会と文化について理解を深めます。
（２）興味ある韓国ニュースをピックアップして自分の気になるトピックを絞っていきます。
（２）韓国の文学作品を1冊以上読んで、作品を通して「韓国」を理解します。
（３）日本との関係、日本との比較を意識しながら自分の視点を作り上げていきます。
（４）毎回の授業内容と活動内容をセミナーノートにまとめて情報の蓄積と振り返りに活用します。
（５）情報収集のために現地調査を実施することがあります。

授業の到達目標
韓国・韓国人を多角的に理解します（DP）。
批判的思考および国際社会で通用する物事の考え方や表現方法を身につけて、課題発表やレポート・卒業研究における独自性・創造性を涵養します（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
○準備学修：韓国関連ニュースを調べてください。文献や作品を読んでください。必要時間：約2時間
○事後学修：授業中に取り上げられたテーマやニュースについて疑問点をさらに調べてまとめてください。必要時間：約２時間
○大学での継続的な英語学習を維持するために、ESCにて主にTOEIC等の学修を行ってください。週に１回、60分間以上の学修とし、担当教員のサインをもらってください。

評価方法
①2年後期のSemester Learning Portfolio　15%
②Presentation on Semester Learning Portfolio　5%
③TOEIC受験　5%
④ESC学習　５%
⑤授業参加態度　10%
⑥韓国ニュースの発表　20%
⑦文学作品のまとめと発表　15%
⑧セミナーノート　15%
⑨CR　10%
○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。
○「授業参加態度」は、授業の参加姿勢や課題などの提出期限を守るかなどを考慮する。

教科書	参考図書
オリジナル資料	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①自分の視点を持って取り組みましょう。
②この授業は毎週の課題の取り組みと自分の視点を意識することが重要です。
オフィスアワー：水曜日2限　金曜日2限
連絡方法は、Moodleと大学のメールでお願いします。

01	ガイダンス、履修計画の確認、全体会
02	文学作品の選定（図書館）、選書ツアー
03	韓国を理解する①/SLPの初稿提出
04	SLPの返却
05	韓国ニュースの発表①/SLPの最終稿提出
06	SLPの発表
07	韓国を理解する②
08	韓国ニュースの発表②
09	韓国を理解する③
10	韓国ニュースの発表③
11	韓国を理解する④
12	韓国ニュースの発表④
13	韓国を理解する⑤
14	韓国の文学作品のまとめと発表
15	私の気になる「韓国」の発表、Course Reflection
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG31S8003　Seminar　I	担当者:Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the ability to use critical analysis based on the acquired knowledge mentioned in the SLADE diploma policy. This seminar covers women's domestic and global issues. In this course students will at first, learn about current issues that impact the lives of women in Japan and then will expand their studies to include issues that affect women all over the world. Students will also look at the NPO's/NGO's that help and support women. In class, current women's issues will be introduced and discussed. Students will also take turns researching and presenting about these women's issues and relevant NPO's/NGO's. Students MUST read regularly, participate and communicate IN ENGLISH during class discussions.[AL, EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to... 1. have an increased awareness of social equality and justice 2. develop a greater commitment to activism for women's causes 3. develop skills to analyze how current women's issues in the world affect the students' own lives [DP] 4. research a topic related to the course subject in detail and present their research [DP] 5. be able to speak their thoughts critically [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students need to come to class on time. As students cannot participate if they are absent or late, participation depends in part on attendance. Students need to do the homework and hand it in on time. Students are responsible for any work they miss due to an absence. Not doing homework or submitting it late will result in losing points. All materials must be brought to class each week in an organized manner. Students are required to bring their computers to class and keep a backup of their materials. They should be prepared to discuss the homework in English in class to pass the course. Students must be able to work with other students to participate in this class. Also, students need to actively express themselves. For the purpose of continuing English study, studying mainly TOEIC in the ESC is recommended. Once a week, 60 minutes or more study with teacher's signatures is required. Students are asked to study 2 hours per week outside of class. Students are required to take the TOEIC test in Jan./ Feb. when SLADE offers it. Not taking the TOEIC at that time is 5% off (-5%) your grade

評価方法
Participation is graded on 1. Attitude and active class participation 40% 2. Presentations 35% 3. Semester Learning Portfolio 15% 4. Semester Learning Portfolio Presentation 5% 5. ESC study 5%
Feedback: After each presentation, completed peer and teacher evaluation forms are given back to students. Students also receive an evaluation of their Seminar Learning Portfolio.

教科書	参考図書
None. The course materials will be supplied by the instructor and students should act independently in finding the resources for their presentations.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Be active and organized, prepare and finish tasks early. Bring ALL your materials in a file each week. Set your goals and make a plan to complete them. There are no prerequisites for this course. Shannon Kiyokawa's office is 7325; her office hours will be

01	Course Overview/ My Plan
02	My Plan finalized/Registration check
03	Japanese Women's Issues
04	Japanese Women's Issues/1st draft of Semester Learning Portfolio due
05	Japanese Women's Issues /Final draft of Semester Learning Portfolio due
06	Semester Learning Portfolio Presentation due
07	Presentations
08	Global Women's Issues
09	Global Women's Issues
10	Global Women's Issues
11	Presentations
12	NPO/NGO
13	NPO/NGO
14	NPO/NGO
15	Presentations
16	None

科目名:OG32S8004　Seminar Ⅱ	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to ability to use critical analysis on the acquired knowledge and to offer logical message to the globalized societies mentioned in SLADE diploma policy. In this seminar, students are asked to apply the skills of second language learning &teaching and positive psychology. Each student reads chapters in the textbook and reports the summary in class. They apply the skills outside of class & in their daily lives and report how skills of language learning and positive psychology affect them. They also research how second language learning and positive psychology are related to and applied in different fields such as education, communication, business, and media.

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to
1. understand the basic ideas of second language learning & positive psychology.
2. apply the skills in their lives (DP).
3. be able to think with their own minds and articulate their ideas(DP).

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1) Read the designated section of the textbook before class. (1 hour).
2) Apply the skills in their daily lives. (1 hour or more).
3) Write the summary and the report of skill practice (1 hour).
4) ESC study (1 hour)

評価方法
1. Active Participation in class (reading assignment, discussion, being on time to class) (20%)
2. Weekly Report (40%) 3. Course Reflection Portfolio (10%) 4. Semester Learning Portfolio of the previous semester (20%) 5. ESC study (5%) 6. Taking TOEIC (5%)
Feedback: students receive written comments on the reports or via Moodle.

教科書	参考図書
To be supplied by the instructor.	Language Hungry! (Tim Murphey) Helbling Languages

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Office hours and e-mail will be announced in class.

01	Course Overview; My Plan
02	My Plan finalized; Registration check, 1st draft of Semester Learning Portfolio due
03	Chapter 1 The Roller Coaster of Your Language Learning
04	Chapter 2 Need an Ideal Conversation Partner? Try a Non-native, Final draft of Semester Learning Portfolio due
05	Chapter 3 Appreshiating Mistakes, Semester Learning Portfolio Presentation due
06	Chapter 4 Shadowing, Summarizing, and Self-Talk: Letting Your Mind do the Talking
07	Chapter 11 Everybody's a Juggler!
08	Chapter 12 Brain Play I: On Second Thought
09	Chapter 13 Brain Play II: Fun with Junkthought
10	Chapter 14 Focusing on Attention: Where is Your Seven Plus or Minus Two?
11	Graduation Special Lecture
12	Chapter 15 Passion, Vision, Action
13	Research Paper (1) Making an outline
14	Research Paper (2) Searching for References
15	Presentation, Course Reflection
16	Oral Presentations of Graduates, CR submission

2024年度シラバス

科目名:OG32S8004　Seminar Ⅱ	担当者:Donovan Clarke	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the ability to use critical analysis based acquired knowledge and to express themselves logically and creatively in globalized society.
This seminar covers the broad area of international relations, current affairs, and business. Other topics of this seminar include - Current world and national issues and events; business issues, culture and events. Seminar students have a choice in looking at different aspects of international relations, current affairs and business. Students will have in-class discussions in pairs and groups to talk about current affairs, business and other international relations topics introduced by the teacher and students. This seminar is a research and discussion based seminar. In class, all students will actively take part and learn from each other. Students will be required to read or watch world and business news weekly and report on issues in class. Students are required give a final presentation on their researched opinion essay and turn in a CR. Students' learning portfolio (SLP) from 3rd year spring semester will be checked and graded. Student will give a presentation on their 3rd year spring semester learning portfolio. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of Course: Upon successful completion of this course, students will be able to….
1. understand how selected current affairs, international relations and global politics affects their lives
2. understand how some current affairs, international relations and global politics affects global society (DP)
3. develop critical thinking skills (DP)
4. present their research in a professional manner orally.
【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
Students need to do the homework and be prepared to discuss it in English in class to pass the course. Students should study 2 hours per week outside of class. Students will do Internet research for class, so students need to have access to the Internet and computer research skills. Students must be able to work with other students to participate in this class. Students are also required to use the ESC for 60 minutes each week for their study. The details of ESC usage will be explained in the 1st week's class. 5% will be deduced from the class score if the student does not take the TOEIC test

評価方法
Course Requirements (Major Assignments, Quizzes & Exams including Dates) In order to be successful in this course, students will need to complete the following:
1. Actively Participate in class - 30%
2. Homework - 25%
3. Researched opinion essay Presentation - 10%
4. Learning portfolio - 15%
5. Learning portfolio presentation - 5%
6. Class reflection - 10%
7. ESC usage - 5%
8. Failing to take the TOEIC in Jan. -5%

Feedback will be given on homework in class. In this seminar, a seminar trips may be held based on agreed on theme/destination.

教科書	参考図書
To be supplied by the instructor	To be supplied by the instructor

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites for this course.
Donovan Clarke's office is 7308, his office hours will be announced. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp
The Moodle site will be used to provide class schedules, collect homework assignments, and provide additional materials

01	Course introduction and syllabus - School festival prep
02	Current world and business Issues - SLP - first draft - School festival prep
03	Current world and business Issues - SLP - School festival prep
04	Current world and business Issues - Discrimination and Genocide - SLP - final draft
05	Semester learning portfolio presentation
06	Current world and business Issues - Discrimination and Genocide
07	Current world and business Issues - Discrimination and Genocide
08	Current world and business Issues - Discrimination and Genocide
09	Current world and business Issues - Student choice
10	Current world and business Issues - Student choice
11	Graduation Special Lecture
12	Planning 4th year seminar project - Student choice

13	Planning 4th year seminar project
14	Planning 4th year seminar project - CR
15	Research presentation - CR
16	Oral Presentation of graduates

2024年度シラバス

科目名:OG32S8004　Seminar Ⅱ	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
本授業は、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力を涵養するための授業です（AL）。
（１）韓国社会と文化について理解を深めます。
（２）興味ある韓国ニュースをピックアップして自分の気になるトピックを決めていきます。
（３）韓国関連の文献を1冊以上読んで「韓国」を理解します。
（４）日本との関係、日本との比較を意識しながら自分の視点を作り上げていきます。
（５）毎回の授業内容と活動内容をセミナーノートにまとめて情報の蓄積と振り返りに活用します。
（６）情報収集のために現地調査を実施することがあります。
（７）社会的な意識を高めるための活動を取り入れることがあります。

授業の到達目標
韓国・韓国人を多角的に理解します（DP）。
批判的思考および国際社会で通用する物事の考え方や表現方法を身につけて、課題発表やレポート・卒業研究における独自性・創造性を涵養します（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
○準備学修：韓国関連ニュースを調べてください。文献や作品を読んでください。必要時間：約2時間
○事後学修：授業中に取り上げられたテーマやニュースについて疑問点をさらに調べてまとめてください。必要時間：約２時間
○大学での継続的な英語学習を維持するために、ESCにて主にTOEIC等の学修を行ってください。週に１回、60分間以上の学修とし、担当教員のサインをもらってください。

評価方法
①3年前期のSemester Learning Portfolio　15%
②Presentation on Semester Learning Portfolio　5%
③TOEIC受験　5%
④ESC学習　５%
⑤授業参加態度　10%
⑥韓国ニュースの発表　20%
⑦韓国文献のまとめ　15%
⑧セミナーノート　15%
⑨CR　10%
○フィードバックは、Moodleまたは授業中に行う。
○「授業参加態度」は、授業の参加姿勢や課題などの提出期限を守るかなどを考慮する。

教科書	参考図書
オリジナル資料	授業中に提示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
①自分の視点を持って取り組みましょう。
②この授業は毎週の課題の取り組みと自分の視点を意識することが重要です。
オフィスアワー：水曜日2限　金曜日2限
連絡方法は、Moodleと大学のメールでお願いします。

01	ガイダンス、履修計画の確認
02	韓国文献の選定/ SLPの初稿提出
03	SLPの返却
04	韓国を理解する①/ SLPの最終稿提出
05	SLPの発表
06	韓国ニュースの発表①
07	韓国を理解する②
08	韓国ニュースの発表②
09	韓国を理解する③
10	韓国ニュースの発表③
11	4年生の卒業記念講演会に参加
12	韓国を理解する④
13	韓国ニュースの発表④
14	韓国文献のまとめと発表
15	マイ・トピックの発表, Course Reflection
16	卒論ポスタープレゼンテーションに参加する

科目名:OG32S8004 Seminar Ⅱ	担当者:Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the ability to use critical analysis based on the acquired knowledge mentioned in the SLADE diploma policy. This seminar is a continuation of Seminar I. It will continue to cover women's domestic and global issues. In this course students will view and discuss 2 movies that deal directly with various women's issues. Students are expected to participate and communicate IN ENGLISH during class discussions. After each movie, students will write a reflective essay. [AL, EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to…. 1. have an increased awareness of social equality and justice 2. develop a greater commitment to activism for women's causes 3. develop skills to analyze how current women's issues in the world affect the students' own lives [DP] 4. be able to speak their thoughts critically.[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students need to come to class on time. As students cannot participate if they are absent or late, participation depends in part on attendance. Students need to do the homework and hand it in on time. Students are responsible for any work they miss due to an absence. Not doing homework or submitting it late will result in losing points. All materials must be brought to class each week in an organized manner. Students are required to bring their computers to class and keep a back up of their materials. They should be prepared to discuss the homework in English in class to pass the course. Students must be able to work with other students to participate in this class. Also, students need to actively express themselves. For the purpose of continuing English study, studying mainly TOEIC in the ESC is recommended. Once a week, 60 minutes or more study with teacher's signatures is required. Students are asked to study 2 hours per week outside of class. Students are required to take the TOEIC test in Jan./ Feb. when SLADE offers it. Not taking the TOEIC at that time is 5% off (-5%) your grade.

評価方法
Participation is graded on 1. Attitude and active class participation 40% 2. Reflective Essays 25% 3. Semester Learning Portfolio 15% 4. Semester Learning Portfolio Presentation 5% 5. Course Reflection 10% 6. ESC Study 5% 7 Failing to take the TOEIC in Jan. -5% Feedback: After each essay, students receive a teacher evaluation

教科書	参考図書
None. The course materials will be supplied by the instructor.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites for this course. Shannon Kiyokawa's office is 7325; her office hours will be announced. Her e-mail is kiyokawa@ohkagakuen-u.ac.jp Any questions or concerns about the course should be discussed with Shannon.

01	Course Overview/ My Plan
02	My Plan finalized/ Registration check/Movie 1
03	Movie 1/1st draft of Semester Learning Portfolio due
04	Movie 1
05	Movie 1/Final draft of Semester Learning Portfolio due
06	Semester Learning Portfolio Presentation
07	Movie 1
08	Movie 1 (reflective essay)
09	Movie 2
10	Movie 2
11	Attendance at Graduation Special Lecture
12	Movie 2
13	Movie 2
14	Movie 2 (reflective essay)
15	Course Reflection
16	Attendance at Oral Presentations of Graduates

2024年度シラバス

科目名:OG31Z9005　教育方法・技術論	担当者:首藤 貴子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業では、教育方法をめぐる諸問題について歴史的なアプローチと諸外国との比較を交えて考察することで、現代日本の学校教育における教育方法をとらえなおし、自身の教育方法（情報通信技術＝ICTの活用を含む）の知識・技術を向上させる。あわせて、ICTを活用した校務のあり方について検討し、理解を深める。
前半の授業は、講義を中心とし、教育方法の基礎的概念や歴史について学ぶ。後半の授業は、グループディスカッションやプレゼンテーションを中心にすすめ、前半の授業での学びを広め深める。【AL】

授業の到達目標
① 教育方法の歴史・理論・実践を理解し、他者へ説明することができる。（DP）
② 授業実践のために必要となる基礎的な知識・技術を身に付ける。（DP）
③ ICTを効果的に活用した学習指導や校務のあり方について理解し、他者へ説明することができる。（DP）
④ 情報活用能力（情報モラルを含む）を育成するために必要な基礎的な知識・技術を身に付ける。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
毎回の授業の前に、テキストの該当箇所をよく読み、自分なりの意見や疑問点をまとめておくこと（必要時間：1.5時間）。授業後は、テキストやレジュメ等を見直したり、紹介した文献を参照したりする等、しっかりと復習をすること（必要時間：1.5時間）。授業によって、プレゼンテーションの準備等を宿題とする場合がある（必要時間：3時間）。

評価方法
確認テスト60%
授業中の取り組み（小レポート、グループディスカッション、プレゼンテーション等）40%
なお、毎回の授業の最後に、その授業のテーマに関する小レポート等を作成する。
次の授業の冒頭で、その内容をフィードバックし、授業内容の定着と深い理解をめざす。
また、最終授業での確認テストのフィードバックは、メール配信で行う。

教科書	参考図書
柴田義松・山﨑準二編（2019）『教育の方法と技術』【第3版】学文社	「中学校学習指導要領」及び「生徒指導提要」 その他、授業時に適宜紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
質問等は授業中、また、授業の前後に受け付ける。メールでの連絡方法は、最初の授業に説明する。

01	オリエンテーション
02	世界の教育方法史
03	カリキュラム編成の原理と諸類型
04	日本の教育方法史
05	教育方法と学習指導要領の関連：教育課程、教科書、評価 学習とは何か　　フィンランドとレッジョエミリア
06	授業論：構造と意義、教材研究、目標づくり、発問、対話
07	教育の技術：集団づくり、板書とノート指導、ICTの活用
08	情報活用能力（情報モラルを含む）の育成の指導法
09	授業づくりの実際：学習指導案の作成、デジタル教科書の利活用
10	模擬授業（ICTの活用を含む）と授業研究（1）：教材研究の実際
11	模擬授業（ICTの活用を含む）と授業研究（2）：学習指導案作成の実際
12	模擬授業（ICTの活用を含む）と授業研究（3）：授業の実践とふりかえり
13	ICTを活用した校務：統合型校務支援システム、スタディ・ログ、情報セキュリティ
14	諸外国の授業実践（ICTの活用を含む）
15	まとめと確認テスト
16	試験なし

2024年度シラバス

科目名:OG31Z9004　特別支援基礎論	担当者:長﨑 龍樹	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】特別支援学校教諭。特別支援学校における視覚障害児支援及び大学での障害児支援に関する講義経験を踏まえて本科目を担当する。特別支援教育の理念と歴史、障害特性、指導法の理解を深め、特別な教育的ニーズのある子に対応できる思考力と実践力を養う。講義や事例検討会を通して、より深く特別支援教育について学ぶ機会を設定する。本授業は学芸学部ディプロマポリシーの「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。

授業の到達目標
①特別な教育的ニーズのある子に対する支援を理解することができる。【DP】②特別支援教育の役割について理解することができる。【DP】③特別支援教育における個別の教育支援計画、地域連携等について理解することができる。【DP】④介護等体験の意義について理解することができる。評価方法はルーブリックに記載。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修では特別支援教育に関連する基本文献の予習、事後学修ではボランティア体験など障害児者に対し実践的にかかわる経験を持つこと。（必要時間２時間）。その他、特別支援教育及び障害児に関連する話題について、新聞、雑誌、テレビ、インターネットなどのメディアに積極的にアクセスすることにより、特別支援教育への関心や問題意識を高める。さらに、授業外での体験や学習成果を記録、発表することにより、学生自身の知識・技能を高めるだけでなく、情報共有に基づく受講生全体のブラッシュアップを目指す。（必要時間２時間）。

評価方法
授業内における意欲的態度及び発言内容（20%）、プレゼンテーション（20%）、学期末レポート（60%）で総合的に評価する。授業の最後に解答提示や助言などによるフィードバックを行う。

教科書	参考図書
授業中に使用するパワーポイントに基づくレジュメを配付する。	授業中に紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
受講するにあたり、特別支援教育への「問い」や「疑問」を主体的に用意していただき、その解決への道筋をみなさんとともに授業の中で追及していきたい。連絡先は授業で開示する。

01	特別支援教育の理念と歴史
02	特別支援教育及びインクルーシブ教育システムの概要
03	特別な教育的ニーズのある子どもたちの理解と支援
04	視覚や聴覚に障害のある子どもたちの理解と支援
05	知的障害や肢体障害、病弱（虚弱）のある子どもたちの理解と支援
06	発達障害のある子どもたちの理解と支援
07	個別の教育支援計画・自立活動・進路指導及びキャリア教育の実際
08	地域における社会資源との連携・介護等体験の目的と概要
09	なし
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OG32Z9006　特別活動・総合的な学習の時間の指導法	担当者:澤田 好江	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
「特別活動」「総合的な学習の時間」の意義や原理を理解させる。指導計画の立て方、参加、共同、協働、探究活動の方法、課題に対する情報収集、分析、整理の仕方およびまとめ方、体験活動の計画、準備、総括などのさせ方等の指導方法、指導技術を身につけさせる。そのために、活動事例や授業実践記録を分析、検討をし、単元計画を立てる。本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」(DP)と関連している。

授業の到達目標
「特別活動」「総合的な学習の時間」の果たす役割と、活動、授業計画の重要性を理解することができる。学習指導要領に基づきながら、その目標と内容を理解し、「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」「探求的な見方・考え方」を働かせ、横断的、総合的な学習や活動を通して、自己の生き方を考えさせていく指導のあり方を考えることができる。(DP)単元計画の作成、具体的な指導の方法、評価等に関する知識・技能を身につけることができる。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎批判的思考、論理・創造的発信力
○ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、次回の授業内容であるレジュメを読んでおく（30時間）
事後学修として、授業に示されたポイントや課題をノートにまとめたり、単元計画の作成を行ったりする（30時間）

評価方法
授業への参加・態度20%　小テスト80%

教科書 時に使用しない	参考図書 小学校学習指導要領　中学校学習指導要領　高等学校学習指導要領　生徒指導提要

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内容に関わるレポートや課題を作成した場合は、提出後、授業で紹介し授業に反映させた上で、添削して返却します。

01	「特別活動」及び「総合的な学習の時間」の役割と意義、歴史
02	学習指導要領における「特別活動」「総合的な学習の時間」の目標及び内容
03	教育課程における「特別活動」「総合的な学習の時間」の位置づけと各教科との関連
04	学級活動、ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、学校行事等の特質
05	「特別活動」「総合的な学習の時間」と、体験活動
06	実践事例分析、検討「子どもの参加と自治」
07	実践事例分析、検討「学校の『内』と『外』に足をかけて」
08	「特別活動」「総合的な学習の時間」の年間指導計画の作成の重要性とその具体例
09	授業実践検討「南北問題を考える」で、電子教材を使用した教材作りと実践の検討
10	授業実践検討「環境問題を教材にする」で、ICT技術を使用した授業作りと実践の検討
11	授業実践検討「地域を生かした総合的な学習」で、評価の方法と地域に開かれた教育課程の検討
12	「総合的な学習の時間」の単元計画の作成の重要性と、単元計画作り
13	「特別活動」「総合的な学習の時間」にふさわしい教育評価のあり方
14	模擬授業とその検討
15	まとめと確認テスト
16	

科目名:OG32Z9007　教育行政・制度論	担当者:小栁 雅子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業は中学・高校１種免許状（英語）を取得するために、教育者の実践を支える制度について講義形式で学んでいく科目です。現代学校教育システムを支える制度について知り、教育活動を円滑に実施していくための要件や地域との関係性づくり、危機管理の取組について学修します。本授業の履修を通し学科DP３「言語・異文化を理解する能力」DP4「批判的思考、論理・創造的発信力」を身に着けることを目指します。

授業の到達目標
①現代の学校教育システムとそれを支える制度について理解する。②学校の経営にかかわる事項（組織論・リーダーシップ論）等について理解する。③学校と地域との関係性づくりについて理解する。④学校教育現場での危機管理の在り方について知る。以上４点を本授業の到達目標とします。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力（DP1）
◎批判的思考、論理・創造的発信力（DP4）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
毎回の授業にかかわる準備学修は必要ありません。
ただし事後学修として、配布テキストに示されている課題に毎回取り組んでください（所要時間約30分程度）。また、学んだことを復習し、関連事項や教育・保育にかかわる最新情報に、新聞やインターネット、本などで触れるようにしましょう。また、それらについて「自分自身の意見を持つ」ことができるようにしてください（1時間以上の取組が望ましい）。

評価方法
①授業内課題（40点×3回＝120点）と②第15回で実施する確認試験（80点）の合計点（200点）を総合評価します。このうち60％（120点）を本科目の単位取得に要する最低点とします。なおMoodleに提出指示をした課題については、評価やメッセージ機能を用いてフィードバック、また優れた取り組みの課題については授業内で紹介します。

教科書	参考図書
初回の授業でテキストを配布しますので、毎回の講義に持参してください。	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、教育六法など

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業は講義形式で進みますが、単に教員の話を聞くだけではなく、学んだ事項について自分なりの疑問や意見を持つことが大切です。なお、連絡などの必要性がある場合は、担当教員の研究室までお越しください。

01	授業オリエンテーション＋教育にかかわる制度をどれくらい知っていますか
02	我が国における教育制度の体系と歴史的変遷
03	子どもの権利と教育制度をめぐる諸問題
04	我が国の教育行政システム①－中央教育行政
05	我が国の教育行政システム②－地方教育行政
06	諸外国の教育行政システムの特徴
07	近年の教育課題とそれに対応する教育政策
08	教育活動を充実させる方策①－学校を組織としてとらえよう
09	教育活動を充実させる方策②－リーダーの役割を知ろう
10	現代における学校の経営課題①－教育者の労働実態と協働の在り方
11	現代における学校の経営課題②－多様化する子どもと保護者への対応
12	現代における学校の経営課題③－保護者・地域との連携と関係構築
13	学校における危機管理①－安全教育と安全管理の基本的な考え
14	学校における危機管理②－事例・判例から学ぶ具体的な危機管理の在り方
15	確認試験＋最終講義－教育者に求められるリーガルマインド
16	なし

2024年度シラバス

科目名:　日本語学習	担当者:佐田 明美	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:交換留学生用		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法 日本語の会話表現をインタビュー、スピーチ、ディベートなどを通して、ペアワーク、グループワークで学習する。
授業の到達目標 場面表現を理解、習得し、日本語で会話できるようになる。
授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修 課題を提出する。
評価方法 授業への取り組み、課題、試験で評価する。

教科書	参考図書

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)

01	オリエンテーション
02	インタビュー
03	インタビュー（発表）
04	インタビュー（フィードバック）
05	スピーチ（作成）
06	スピーチ（発表）
07	スピーチ（フィードバック）
08	会話表現（依頼）
09	会話表現（許可）
10	会話表現（誘う・断る）
11	会話表現（謝る）
12	会話表現（電話）
13	会話表現（場面設定）
14	ディベート
15	ディベート（フィードバック）
16	試験

2024年度シラバス

科目名:　日本語Ａ	担当者:佐藤 有希子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:交換留学生用		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この授業では、日本語で授業を受講する際に必要になってくる日本語能力の向上を目指す。特に、漢字学習の支援と、レポートなどで必要となってくるアカデミック・ライティングの向上および相手に配慮した日本語会話能力の向上を目指す。ｊｙ

授業の到達目標
学習者の日本語レベルに合わせ、日本語中級レベルあるいは上級レベルの漢字力を身につけることを目標とする。
また、日本語でのレポート作成に必要なアカデミック・ライティングの基礎となる文体スタイルや表現方法、構成、引用方法などについて適切な表現を用いて書けるようになることを目指す。日本語会話は、学習者が日本での生活上頻繁に遭遇すると想定される場面や話題の会話を練習し、相手や場面に応じた表現を使えるようになることを目指す。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業では毎回、漢字学習を促す宿題を課す予定である。所要時間は3時間程度と予想される。受講生は宿題を次の授業までに準備をし、次の授業で小テスト等でその確認を行う。
　また、作文に関しては、授業内でアウトラインを構成し、授業後に各自作文を完成させる課題を課す場合がある。個々によると思われるが、所要時間は1時間から2時間程度と予想される。作文の課題を出した場合、次の授業で、受講生が書いた作文に関し、フォローを行う。
　会話に関しては、授業内で学習したことを授業後に復習をし、後日、類似した場面や話題で実際に行えるか、確認テストを実施する予定である。所要時間は2時間程度と予想される。

評価方法
授業への参加態度（30%）、課題・小テスト（40%）、筆記試験(30%)

教科書	参考図書
『留学生のための漢字の教科書　中級700』、『留学生のための漢字の教科書　上級1000』	『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』『ロールプレイで学ぶ中級から上級への日本語会話』

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で担当者のメールアドレスやその他の連絡方法を伝える。

01	オリエンテーション、ニーズ調査のアンケート、漢字のプレイスメントテスト、アカデミックライティングの説明
02	漢字の確認テスト、アカデミック・ライティングへの準備（第1課） 課題としていた中級漢字の確認、アカデミック・ライティングへの準備（第1課）
03	漢字の確認テスト、アカデミック・ライティング（第1課）まとめ、第2課「日本・日本人」導入 漢字の確認テスト、アカデミック・ライティングへの準備（第1課）のまとめ、日本語会話導入
04	漢字の確認テスト、日本語会話「友達との会話」
05	漢字の確認テスト、アカデミックライティング　第2課「日本・日本人」
06	漢字の確認テスト、日本語会話「アパート・マンションで」
07	漢字の確認テスト、アカデミックライティング　第3課「テクノロジー」
08	漢字の確認テスト、日本語会話「ハプニング」
09	漢字の確認テスト、アカデミックライティング　第4課「教育」
10	漢字の確認テスト、日本語会話「町のどこかで」
11	漢字の確認テスト、アカデミックライティング　第5課「ニュース」
12	漢字の確認テスト、日本語会話「学校で、職場で」
13	漢字の確認テスト、アカデミックライティング　第6課「働き方」
14	漢字の確認テスト、日本語会話「悩み事相談」
15	漢字の確認テスト、これまでの作文および会話の確認テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:　日本語Ｂ	担当者:佐藤 有希子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:交換留学生用		開講時期	前期
		配当学年	3
受講者制限:		単位数	2
		必須. 選択	選択必須

授業概要と方法
この授業では、日本語能力試験合格を目指して、その対策を行う。特に、日本語文法と日本語読解に焦点を当てて対策を行う。文法では、学生の日本語レベルに沿った文法項目（文型や接続表現）を、形や接続が似ている文型と一緒に学習する。読解では、様々なジャンルの文章に触れ、読解練習を行っていく。

授業の到達目標
学生の日本語レベルに合わせ、日本語中級レベルあるいは日本語上級レベルとされる日本語能力試験の級合格を目指し、文法力、読解力の向上を目指す。読解では、身近なお知らせや案内から身の回りの文書、通信文、新聞、日記や小説、意見文や説明文と徐々に難解な文章に慣れていく。文法では、日本語能力試験に出題される文法項目を1授業で10項目程度学習をする。形や使い方が似ている項目を同時に学習することでその使い分けもできるようにしていく。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業の事前準備として、次の授業で扱う予定の文法項目を学習すること、また読解の教材を読んでくることが必要である。学修にかかる時間は、４時間程度と予想される。
　また、授業最後には、復習となる確認テストを事後学修として行い、学習内容の定着を目指す。学修にかかる時間は10時間程度と予想される。

評価方法
授業への参加態度（30%）、課題・小テスト（40%）、筆記試験(30%)

教科書	参考図書
『日本語総まとめＮ３文法』、『日本語総まとめＮ３読解』	『中上級学習者のための日本語読解ワークブック』『くらべてわかる中級日本語表現文型ドリル』

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で担当教師のメールアドレスを伝達する。受講生の日本語レベルによって、授業で扱う教材や内容に変更が出る場合があります。

01	オリエンテーション、日本語能力試験Ｎ３模試
02	『Ｎ３文法』（・・せて、といて、らしい）、『Ｎ３読解』（案内文）
03	『Ｎ３文法』（ようになった、ように、・・うとしない）、『Ｎ３読解』（試験要項、募集文）
04	『Ｎ３文法』（ばっかり、による、・・こと）、『Ｎ３読解』（カタログ、お知らせの文章）
05	『Ｎ３文法』（というのは、というより、てごらん）、『Ｎ３読解』（説明書、保証書）
06	『Ｎ３文法』（いくらーても、にしては、つもりでした）、『Ｎ３読解』（通信文）
07	『Ｎ３文法』（・・たびに、・・っきり、てほしい）、『Ｎ３読解』（通信文）
08	『Ｎ３文法』（くせに、かわり、・・ば・・ほど）、『Ｎ３読解』（新聞）
09	『Ｎ３文法』（・・ことだ、しかない、つまり・・）、『Ｎ３読解』（新聞）
10	『Ｎ３文法』（・・ばかりか、・・たて、たらいいなあ）、『Ｎ３読解』（日記、家族）
11	日本語能力試験模試、フィードバック
12	『Ｎ３文法』（ーからーにかけて、たとえーても、ところで）、『Ｎ３読解』（家族、小説）
13	『Ｎ３文法』（もしーたら、ーことはーますが、ーところだった）、『Ｎ３読解』（意見文）
14	『Ｎ３文法』（わけがない、めったにーない、そのうえ）、『Ｎ３読解』（計算・医学・社会）
15	これまでの学習項目の確認テスト、まとめ
16	なし

科目名:OG21S3005　Listening and Speaking Ⅲ	担当者:Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the 'practical ability to communicate in English in globalized society' mentioned in SLADE diploma policy. This course has three main components: speaking, listening and vocabulary study with reading and writing incorporated when necessary. It teaches students to use various listening and communication strategies to help improve their overall skill to interact fluently and accurately in English. Students will be required to demonstrate their ability to think critically and interact with their teacher and classmates very naturally in English. Students will be expected to participate during class discussions, ask questions, and actively work on improving their communication skills. There will be a stand up speaking activity at the beginning of every class followed by listening and speaking skills work. In class focus will be on initial understanding of the listening topic, vocabulary, and topic connected appropriate questions. Students will be required to demonstrate their ability to think deeply-comparing, analyzing and reflecting personally on the topics. Students will also use an online vocabulary learning system and take weekly individualized vocabulary quizzes.[AL, EN]

授業の到達目標
This class focuses on strategies for better listening and speaking skills. Specific goals include: Students can understand information and ideas for different purposes while they listen to English from various genres on various topics. [DP] Students can speak (interact / present) about various topics depending on the purposes, occasions, and situations. [DP] Students can improve their vocabulary knowledge through the Online Vocabulary Learning System. [DP] Students will improve their pronunciation through in class targeted practice. [DP] Overall level of English proficiency goal is more than CEFR B2.

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
This is an important core course, which prepares students to succeed throughout their four years of study. Absences are not acceptable. Work needs to be done consistently week by week. Students need to focus on bettering their communication skills with their teachers and classmates in English. Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. Attendance is necessary. Students are asked to study 4 hours per week outside of class.

評価方法
1. Attitude and Class Participation = 30%: Active participation is expected from all the students. 2. Listening Online Activities= 15% 3. Final Listening Quiz = 10% 4. Speaking Quizzes= 15% 5. Course Reflection = 10% 6. Vocabulary homework and weekly quizzes = 20% Feedback: On each class day we will introduce explanations, model answers and language and correct misunderstandings. Teacher evaluations will be given after each speaking quiz.

教科書	参考図書
Top-Up Listening 2 (second edition) by Bill Holden, Terry Clooney & Chris Cleary, Abax, WordEngine (Online Vocabulary Learning System) Other course materials will be provided by the teacher.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Be active and organized, prepare and finish tasks early. Bring ALL your materials in a file each week. Set your goals and make a plan to complete them. Mac computer required. The instructors' office hours will be posted outside their offices at the beginning of the semester. Their offices and email address are as follows: Shannon Kiyokawa's office is 7325 and her email address is kiyokawa@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Class description and orientation /Stand up and talk
02	Stand up and talk review/ Golden Rule 1/Pronunciation practice
03	Stand-up and talk/ TUL Unit 1 How Have You Been/WE Individual Quiz
04	Stand up and talk review/ TUL Unit 1 How Have You Been /Pronunciation practice
05	Stand-up and talk/ TUL Unit 1 How Have You Been/WE Individual Quiz
06	Stand up and talk review/ TUL Unit 2 What Time Do We Arrive /Pronunciation practice
07	Stand-up and talk/ TUL Unit 2 What Time Do We Arrive/WE Individual Quiz
08	Stand up and talk review/ TUL Unit 2 What Time Do We Arrive/Pronunciation practice
09	Stand-up and talk/ TUL Unit 3 Can I Help You, Ma'am/WE Individual Quiz
10	Stand up and talk review/ TUL Unit 3 Can I Help You, Ma'am/Pronunciation practice
11	Stand-up and talk/ TUL Unit 3 Can I Help You, Ma'am/WE Individual Quiz
12	Stand up and talk review/ TUL Unit 4 What Can I Get You/Pronunciation practice
13	Stand-up and talk/ TUL Unit 4 What Can I Get You/ WE Individual Quiz
14	Stand-up and talk/ TUL Unit 4 What Can I Get You/Pronunciation practice
15	Stand up and talk review/Speaking Quiz Practice /Pronunciation practice
16	Speaking Quiz/WE Individual Quiz

17	Stand-up and talk review/ TUL Unit 5 Can I Speak to Bill, Please/ WE Individual Quiz
18	Stand up and talk / TUL Unit 5 Can I Speak to Bill, Please/Pronunciation practice
19	Stand-up and talk review / TUL Unit 5 Can I Speak to Bill, Please /WE Individual Quiz
20	Stand up and talk / TUL Unit 6 Where's the Toy Department /Pronunciation practice
21	Stand-up and talk review/ TUL Unit 6 Where's the Toy Department /WE Individual Quiz
22	Stand up and talk / TUL Unit 6 Where's the Toy Department /Pronunciation practice
23	Stand-up and talk review/ TUL Unit 7Two Tickets For Tonight's Show /WE Individual Quiz
24	Stand up and talk / TUL Unit 7 Two Tickets For Tonight's Show /Pronunciation practice
25	Stand-up and talk review /TUL Unit 7 Two Tickets For Tonight's Show /WE Individual Quiz
26	Stand up and talk / Pronunciation practice
27	Speaking Quiz practice/WE Individual Quiz/Course Refection Explanation
28	Speaking Quiz
29	Final Listening Quiz / Course Refection
30	Course Refection
31	None

科目名:OG22S3006 Listening and Speaking Ⅳ	担当者:Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the 'practical ability to communicate in English in globalized society' mentioned in SLADE diploma policy. This course has three main components: speaking, listening and vocabulary study with reading and writing incorporated when necessary. It teaches students to use various listening and communication strategies to help improve their overall skill to interact fluently and accurately in English. Students will be required to demonstrate their ability to think critically and interact with their teacher and classmates very naturally in English. Students will be expected to participate during class discussions, ask questions, and actively work on improving their communication skills. There will be a stand up speaking activity at the beginning of every class followed by listening and speaking skills work, which will incorporate reading and writing. Students will need to cooperate in order to create, write and complete various tasks. In class focus will be on initial understanding of the topic, vocabulary, and task. Students will be required to demonstrate their ability to think deeply-comparing, analyzing and reflecting personally on the topics. Students will also use an online vocabulary learning system and take weekly individualized vocabulary quizzes. [AL, EN]

授業の到達目標
This class focuses on strategies for better listening and speaking skills. Specific goals include: Students can understand information and ideas for different purposes while they listen to English from various genres on various topics. [DP] Students can speak (interact / present) about various topics depending on the purposes, occasions, and situations. [DP] Students can improve their vocabulary knowledge through the Online Vocabulary Learning System. [DP] Students will improve their pronunciation through in class targeted practice. [DP] The overall level of English proficiency goal is more than CEFR B2.

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
This is an important core course, which prepares students to succeed throughout their four years of study. Absences are not acceptable. Work needs to be done consistently week by week. Students need to focus on bettering their communication skills with their teachers and classmates in English. Students will be expected to participate during class discussions, ask questions during class, and actively work on improving their communication skills. Attendance is necessary. Students are asked to study 4 hours per week outside of class.

評価方法
1. Attitude and Class Participation = 30%: Active participation is expected from all the students. 2. Listening Online Activities= 15% 3. Final Listening Quiz = 10% 4. Speaking Quizzes= 15% 5. Course Reflection = 10% 6. Vocabulary homework and weekly quizzes = 20%
Feedback: On each class day we will introduce explanations, model answers and language and correct misunderstandings. Teacher evaluations will be given after each speaking quiz.

教科書	参考図書
Top-Up Listening 2 (second edition) by Bill Holden, Terry Clooney & Chris Cleary, Abax, WordEngine (Online Vocabulary Learning System. Other course materials will be provided by the teacher	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Be active and organized, prepare and finish tasks early. Bring ALL your materials in a file each week. Set your goals and make a plan to complete them. computer required. The instructors' office hours will be posted outside their offices at the beginning of the semester. Their offices and email address are as follows: Shannon Kiyokawa's office is 7325 and her email address is kiyokawa@ohkagakuen-u.ac.jp

01	Class description and orientation /Stand up and talk
02	Stand up and talk review/ TUL Unit 8 Now Here's the Sports News/ WE Individual Quiz
03	Stand-up and talk/ TUL Unit 8 Now Here's the Sports News// Pronunciation Practice
04	Stand up and talk review/ TUL Unit 8 Now Here's the Sports News/ WE Individual Quiz
05	Stand-up and talk/ TUL Unit 9 Final Call For Flight EA42 /Pronunciation Practice
06	Stand up and talk review/ TUL Unit 9 Final Call For Flight EA42/ WE Individual Quiz
07	Stand-up and talk/ TUL Unit 9 Final Call For Flight EA42/ Pronunciation Practice
08	Stand up and talk review/ TUL Unit 10 First Day on the Job/ WE Individual Quiz
09	Stand-up and talk/ TUL Unit 10 First Day on the Job/ Pronunciation Practice
10	Stand up and talk review/ TUL Unit 10 First Day on the Job/ WE Individual Quiz
11	Stand-up and talk/ TUL Unit 11 Great Party, Isn't It / Pronunciation Practice
12	Stand up and talk review/ TUL Unit 11 Great Party, Isn't It WE Individual Quiz
13	Stand-up and talk/ TUL Unit 11 Great Party, Isn't It / Pronunciation Practice
14	Stand up and talk review/ TUL Unit 12 I'm Interested In Taking a Course/ WE Individual Quiz
15	Stand-up and talk/ TUL Unit 12 I'm Interested In Taking a Course/ Pronunciation Practice
16	Stand up and talk review/ TUL Unit 12 I'm Interested In Taking a Course/ WE Individual

17	Speaking Quiz Practice/Pronunciation Practice
18	Speaking Quiz
19	Stand-up and talk/ TUL Unit 13 It's an Amazing Place/ WE Individual Quiz
20	Stand up and talk review/ TUL Unit 13 It's an Amazing Place/ Pronunciation Practice
21	Stand-up and talk/ TUL Unit 13 It's an Amazing Place/ WE Individual Quiz
22	Stand up and talk review/ TUL Unit 14 Going Away for the Summer?/ Pronunciation Practice
23	Stand-up and talk/ TUL Unit 14 Going Away for the Summer?/ WE Individual Quiz
24	Stand up and talk review/ TUL Unit 14 Going Away for the Summer?/ Pronunciation Practice
25	Stand-up and talk / WE Individual Quiz
26	Stand up and talk review/ Pronunciation Practice
27	Speaking Quiz practice/ WE Individual Quiz/ Course Refection explanation
28	Speaking Quiz
29	Final Listening Quiz/ Course Refection
30	Course Refection
31	None

科目名:OG21S3011 Reading and Writing Ⅲ	担当者:Donovan Clarke、Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	3
		必須.選択	必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to acquiring practical ability to communicate in English in globalized society as mentioned in SLADE's diploma policy.
Reading and Writing III is a required course for all 2nd year students and is a continuation of the R&W I & II. The aim of this course is to develop students' reading and writing speed and comprehension. Each class students will do a variety of exercises to improve their reading and writing skills. The readings will focus on exercises that will help develop reading strategies, so that students can read faster and understand more. Students will continue to learn basic writing terms, rules and the writing process into an essay. Numerous writing activities that give students the opportunity to practice and refine their spelling, grammar and writing knowledge and skills will also be done in class. [AL] [EN]

Those who have obtained TOEIC® R 385 or above will be accepted as credits for this course. For more information, please contact the Academic Affairs Division

授業の到達目標
Goals/Objective of class:
1. continue to build confidence and motivation in reading and writing (DP)
2. increase their level in reading and writing fluently and speed (DP)
3. understand more difficult academic texts (DP)
4. understand and use the elements of paragraph structure and essay structure. (DP)
5. reflect on their learning

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements:
Be organized - prepare and complete homework early. Bring your materials to class each week. Students need to read the reading text many times and do as much reading outside of class as they can. Students will be expected to work on the homework gradually day by day and not just the night before the next class. Students should study more than 4-6 hours a week for this class. Students are expected to do their own work and not copy from other students or outside sources. Students need to actively participate in class and do all their writing assignments.

評価方法
Evaluation Methods:
1. Active class participation 10%
2. Reading assignment 40%
3. Writing assignment 40%
4. Course Reflection (CR) 10%

Feedback: Reading assignments and answers will be checked in class and individual feedback will be given on writing assignments

教科書
Textbooks: Reading for Speed and Fluency 2 by Paul Nation and Casey Malarcher ISBN 978-1-64015-068-3 for Clarke and Jackson's classes
Reading and Vocabulary Development 1; Facts and Figures 4th ed. by Patricia Ackert ISBN 9789814896535 for Clarke's class
Reading and Vocabulary Development 2; Thoughts and Notions 4th ed. by Patricia Ackert ISBN 9789814896573 for Jackson's class
Other Course Materials: To be provided by the instructor.

参考図書
Reference Books: Mac computer required and access to the moodle site

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
It is best if students take R&W I and II before doing this course. Students will need a computer to do this course.
The coordinator for Reading and Writing III is Donovan Clarke. His office is 7308. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp The Moodle site will be used to provide class schedules, collect homework assignments, and provide additional materials

01	Course introduction and syllabus
02	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
03	Unit 1-1 Reading and scanning for dates
04	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts

05	Unit 1-2 reading and sentence stress
06	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
07	Unit 1-3 reading and Wh questions
08	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
09	Unit 2-1 reading and using before/after
10	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
11	Unit 2-2 reading skimming for topics
12	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
13	Unit 2-3 reading finding main ideas
14	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
15	Class reading review
16	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
17	Unit 3-1 reading and using passive voice
18	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
19	Unit 3-2 reading and word stress
20	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
21	Unit 3-3 reading and using adverbs
22	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
23	Unit 4-1 reading and skimming for main idea
24	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
25	Unit 4-2 reading and introducing opinions
26	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
27	Unit 4-3reading and so + adjective +
28	Topic Writing I - Funny Story essay- learning essay parts
29	Reading class review and CR
30	Writing class review and CR
31	none

科目名:OG22S3012　Reading and Writing Ⅳ	担当者:Donovan Clarke、Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	通年
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	3
		必須.選択	必須

授業概要と方法
Overview and Methods:
This course is related to acquiring practical ability to communicate in English in globalized society as mentioned in SLADE's diploma policy.
Reading and Writing III is a required course for all 2nd year students and is a continuation of the R&W I & II. The aim of this course is to develop students' reading and writing speed and comprehension. Each class students will do a variety of exercises to improve their reading and writing skills. The readings will focus on exercises that will help develop reading strategies, so that students can read faster and understand more. Students will continue to learn basic writing terms, rules and the writing process into an essay. Numerous writing activities that give students the opportunity to practice and refine their spelling, grammar and writing knowledge and skills will also be done in class. [AL] [EN]

授業の到達目標
Goals/Objective of class:
1. continue to build confidence and motivation in reading and writing (DP)
2. increase their level in reading and writing fluently and speed (DP)
3. understand more difficult academic texts (DP)
4. understand and use the elements of paragraph structure and essay structure. (DP)
5. reflect on their learning

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
Study Requirements:
Be organized - prepare and complete homework early. Bring your materials to class each week. Students need to read the reading text many times and do as much reading outside of class as they can. Students will be expected to work on the homework gradually day by day and not just the night before the next class. Students should study more than 4-6 hours a week for this class. Students are expected to do their own work and not copy from other students or outside sources. Students need to actively participate in class and do all their writing assignments.

評価方法
Evaluation Methods:
1. Active class participation 10%
2. Reading assignment 40%
3. Writing assignment 40%
4. Course Reflection (CR) 10%

Feedback: Reading assignments and answers will be checked in class and individual feedback will be given on writing assignments

教科書
Textbooks: Reading for Speed and Fluency 2 by Paul Nation and Casey Malarcher ISBN 978-1-64015-068-3 for Clarke and Jackson's classes
Reading and Vocabulary Development 1; Facts and Figures 4th ed. by Patricia Ackert ISBN 9789814896535 for Clarke's class
Reading and Vocabulary Development 2; Thoughts and Notions 4th ed. by Patricia Ackert ISBN 9789814896573 for Jackson's class
Other Course Materials: To be provided by the instructor.

参考図書
Reference Books other Course Materials: To be provided by the instructor

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Other: (Advice to students, Contact information)
It is best if students take R&W I, II and III before doing this course. Students will need a computer to do this course. The coordinator for Reading and Writing IV is Donovan Clarke. His office is 7308. His e-mail is clarke@ohkagakuen-u.ac.jp The Moodle site will be used to provide class schedules, collect homework assignments, and provide additional materials

01	Course introduction and syllabus
02	Topic Writing II - Opinion Essay
03	Unit 5-1 reading and adding information
04	Topic Writing II - Opinion Essay
05	Unit 5-2 reading and politely refusing and using at, the, in
06	Topic Writing II- Opinion Essay
07	Unit 5-3 reading and Phrasal verbs
08	Topic Writing II - Opinion Essay
09	Unit 6-1 reading and using present perfect tense

10	Topic Writing II - Opinion Essay
11	Unit 6-2 reading and gerunds
12	Topic Writing II - Research Essay
13	Unit 6-3 reading and using little or few
14	Topic Writing III - Research Essay
15	Class reading review
16	Topic Writing III - Research Essay
17	Unit 7-1 reading and using while
18	Topic Writing III - Research Essay
19	Unit 7-2 reading and scanning for information
20	Topic Writing III - Research Essay
21	Unit 7-3 reading and using relative pronouns
22	Topic Writing III - Research Essay
23	Unit 8-1 reading and adjective word order
24	Topic Writing III - Research Essay
25	Unit 8-2 reading and phrasal verbs 2
26	Topic Writing III - Research Essay
27	Unit 8-3 reading and past perfect tense
28	Topic Writing III - Research Essay
29	Class reading and writing review and CR
30	Class reading and writing review and CR
31	none

科目名:OG21S3017　English Presentation Ⅲ	担当者:Emma L. Servando、Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the 'practical ability to communicate in English in globalized society.' and 'ability to contribute to globalized society with the acquired information literacy necessary for present society' in SLADE diploma policy. The course provides students with the skills, experience, and confidence they need to give their own ideas clearly and effectively through presentations. Students will also learn speech-building strategies for describing people, places, and events, which help them generate details, find, evaluate, and organize information, and develop and support ideas. They will learn non-verbal communication skills as well as voice control skills. Students work in pairs or in groups to learn and practice skills and strategies. Students need to think independently and critically through frequent practice of asking and answering critical questions as they create presentations, and they evaluate each other's performances. Students are given more control over their own learning, and they gain valuable experience using English and negotiating among their peers. Feedback will be given through Moodle site to each student's assignment submission. [AL] [EN]

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to: 1. identify the features of good speeches and public speakers [DP]; 2. brainstorm and cluster ideas and descriptive details; 3. select the most relevant and important details 4. distinguish between statements of fact and opinion; 5. explain cause and effect relationships: 6. use eye contact and body language for maximum effect [DP]; 7. control voice in their presentations for maximum effect. 8. use PowerPoint to create slides to explain presentations [DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力
○ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements: Students need to express themselves to actively participate in class. This course combines the basic theory of presentation with practice and students will be asked to demonstrate their understanding of the content on their presentation performance as well as weekly assignments. Spending some time on required work and preparation is necessary. Students can post questions to the class Moodle site any time to get help with the material. Students are asked to study 2 hours per week outside of class.

評価方法
If you cannot attend class, please inform your teacher in advance. Three late arrivals will count as one absence. Students are responsible for information they miss through absences or lateness. Work that is turned in late will drop one letter grade. At the end of each class time, students will spend 5 to 10 minutes writing reflection/journal of the day on the class Moodle. At the end of the semester, students will be asked to write a semester reflection. Grades will be based on: 1. make presentations (80%) 2. submit weekly reflection (10 %) 3. submit semester course reflection (CR) (10 %) Feedback will be given through class Moodle site to each student's reflection submission. Peer and teacher evaluations will also be given to student after each presentation.

教科書	参考図書
Ready To Present: A Guide to Better Presentations by Herman Bartelen & Malcolm Kostiuk, National Geographic Learning The course site on Ohka Moodle contains information about the course, an up-to-date schedule, handouts, weekly questionnaires, weekly reflections and this syllabus.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Mac computer required. The coordinator of this course is Shannon Kiyokawa. Her office is 7325; her office hours will be announced. Her e-mail is kiyokawa@ohkagakuen-u.ac.jp Any questions or concerns about the course should be discussed with Shannon. The other instructors' contact information will be provided in the first class.

01	Course introduction / One-min. self-intro
02	How to make a presentation review/ An Important Person or Thing (Unit 2)
03	An Important Person or Thing (Unit 2)
04	An Important Person or Thing (Unit 2)
05	An Important Person or Thing (Unit 2): rehearsal and revision
06	Presentations of An Important Person or Thing (Unit 2)/ Places (Unit 3)
07	Places (Unit 3)
08	Mid-term Questionnaire/ Places (Unit 3)
09	Places (Unit 3): rehearsal and revision
10	Presentation of Places (Unit 3) /Opinions (Unit 4)
11	Opinions (Unit 4)
12	Opinions (Unit 4)
13	Semester CR/ Opinions (Unit 4): rehearsal and revision

14	Opinions (Unit 4) Presentation
15	End of Sem. Questionnaire/Semester Course Reflection
16	None

科目名:OG22S3018　English Presentation Ⅳ	担当者:Emma L. Servando、Shannon Kiyokawa	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	必須

授業概要と方法
This course is related to the 'practical ability to communicate in English in globalized society' and 'ability to contribute to globalized society with the acquired information literacy necessary for present society' in SLADE diploma policy. It is a continuation of English Presentation III. It provides students with the skills, experience, and confidence they need to give their own ideas clearly and effectively through presentations. Students will also learn speech-building strategies for describing people, places, and events, which help them generate details, find, evaluate, and organize information, and develop and support ideas. They will learn non-verbal communication skills as well as voice control skills. Students work in pairs or in groups to learn and practice skills and strategies. Students need to think independently and critically through frequent practice of asking and answering critical questions as they create presentations, and they evaluate each other's performances. Students are given more control over their own learning, and they gain valuable experience using English and negotiating among their peers. [AL, EN]

授業の到達目標
By the end of this course, students will be able to: 1. identify the features of good speeches and public speakers [DP]; 2. brainstorm and cluster ideas and descriptive details; 3. select the most relevant and important details 4. distinguish between statements of fact and opinion; 5. explain cause and effect relationships: 6. use eye contact and body language for maximum effect [DP]; 7. control voice in their presentations for maximum effect. 8. use PowerPoint to create slides to explain presentations [DP]
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力
○ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Study Requirements: Students need to express themselves to actively participate in class. This course combines the basic theory of presentation with practice and students will be asked to demonstrate their understanding of the content on their presentation performance as well as weekly assignments. Spending some time on required work and preparation is necessary. Students can post questions to the class Moodle site any time to get help with the material. Students are asked to study 2 hours per week outside of class.

評価方法
If you cannot attend class, please inform your teacher in advance. Three late arrivals will count as one absence. Students are responsible for information they miss through absences or lateness. Work that is turned in late will drop one letter grade. At the end of each class time, students will spend 5 to 10 minutes writing reflection/journal of the day on the Class Moodle. At the end of the semester, students will be asked to write a semester reflection. Grades will be based on: 1. make presentations (80%) 2. submit weekly reflection (10%) 3. submit semester course reflection (CR) (10%). Feedback will be given through class Moodle site to each student's reflection submission. Peer and teacher evaluations will also be given to student after each presentation.

教科書
Ready To Present: A Guide to Better Presentations by Herman Bartelen & Malcolm Kostiuk, National Geographic Learning. The course site on Ohka Moodle contains information about the course, an up-to-date schedule, handouts, weekly questionnaires, weekly reflections and this syllabus.

参考図書
None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Mac computer required. The coordinator of this course is Shannon Kiyokawa. Her office is 7325; her office hours will be announced. Her e-mail is kiyokawa@ohkagakuen-u.ac.jp Any questions or concerns about the course should be discussed with Shannon. The other instructors' contact information will be provided in the first class.

01	Course orientation/ Unit 5 Biography
02	Unit 5 Biography
03	Unit 5 Biography
04	Unit 5 Biography: practice and revision
05	PRESENTATIONS on Unit 5 Biography/ Unit 7 Solving Problems
06	Unit 7 Solving Problems
07	Unit 7 Solving Problems
08	Unit 7 Solving Problems:practice and revision
09	PRESENTATIONS on Unit 7 Solving Problems
10	Unit 8 Final Presentation
11	Unit 8 Final Presentation
12	Unit 8 Final Presentation
13	Semester CR/ Unit 8 Final Presentation: practice and revision
14	PRESENTATIONS on 8 Final Presentation

15	End of Sem. Questionnaire /Semester Course Reflection
16	None

科目名:OG21S3019　English Phonetics　I	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、日本人学習者が誤りやすい個別の英単語の発音・アクセント・リズム・イントネーションについて明示的に指導を行う。また、学習者の高等学校までの文法と音声に関する既習知識の復習を行う。各種の理論が習得できているかどうかを、録音課題と実技課題を通して個別に指導を行う。

This course is related to the “practical English communication ability” mentioned in SLADE diploma policy. English Phonetics I is a required course. This course introduces the basic training for mastering English sound system, particularly putting emphasis on American English. Students will learn intonation, liaison, pronunciation of phrases and sentences as well as articulation mechanism of English vowels. They will also learn International Phonetic Alphabets. Although English Phonetics I is a lecture course, much practice time will be provided. Students will listen to audio on the Class Moodle site at home and submit reading assignments. In class, they will be asked to demonstrate the production of English sounds they have learned.

授業の到達目標
1. understand the English vowel and consonant system.　(DP)
2. understand the English rhythm and intonation system.　(DP)
3. understand reduction, linking, assimilation system.　(DP)
4. pronounce words and phrases with correct stress pattern. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
To understand English pronunciation system and reproduce them will help students to have better listening abilities and to have better communication with native speakers. Therefore, students must spend at least 4 hours practicing for their work.

評価方法
1. quizzes (25%) 2. IPA test (10%) 3. submit assignments and do performance in class (55%)
4. submit weekly reflections and submit a semester reflection (10%)
Feedback: Students receive test scores and descriptive comments and advice.

教科書	参考図書
Sounds Make Perfect 英語音声学への扉　～発音とリスニングを中心に～　【改訂版】今井由美子他　英宝社	To be supplied by the instructor or they will be available on Moodle.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students are required to bring their computers to class. The instructor’s email address and office hours will be notified in the first class.

01	Introduction to Course, explanation of the syllabus, computer and the Class Moodle
02	Pitch & intonation
03	Syllable & word stress, sentence stress
04	Pause
05	Performance Test 1
06	Stops
07	Fricatives
08	Fricatives & affricates
09	Lateral & semivowels
10	Performance Test 2
11	Nasals
12	Linking
13	Elision
14	Assimilation + IPA Test
15	Performance Test 3, explanation about Summer homework
16	None

科目名:OG22S3020　English Phonetics Ⅱ	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】高等学校教諭
この授業科目では、元高等学校教諭としての経験を踏まえ、日本人学習者が誤りやすい個別の英単語の発音・アクセント・リズム・イントネーションについて明示的に指導を行う。また、学習者の高等学校までの文法と音声に関する既習知識の復習を行う。学習者の音声に対する興味・関心を高めるために各種映像・音楽・映画も活用する。音声学的理論が習得できているかどうかを、録音課題と実技課題を通して個別に指導を行う。

This course is related to the “practical English communication ability” mentioned in SLADE diploma policy. English Phonetics I is a required course. This course introduces the basic training for mastering English sound system, particularly putting emphasis on American English. Students will learn intonation, liaison, pronunciation of phrases and sentences as well as articulation mechanism of English consonants. They will also learn International Phonetic Alphabets. Although English Phonetics II is a lecture course, much practice time will be provided. Students will listen to audio on the Class Moodle site at home and submit reading assignments. In class, they will be asked to demonstrate the production of English sounds they have learned.

授業の到達目標
1. understand the English vowel and consonant system.　(DP)
2. understand the English rhythm and intonation system.　(DP)
3. understand reduction, linking, assimilation system.　(DP)
4. pronounce words and phrases with correct stress pattern. (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
To understand English pronunciation system and reproduce them will help students to have better listening abilities and to have better communication with native speakers. Therefore, students must spend at least 4 hours practicing for their work.

評価方法
1. summer homework (10%) 2. Quizzes (15%) 3. Recording assignments (25%) 3. Performance Tests & IPA test (40%)　5. Course reflection (10%)
Feedback: Students receive test scores and descriptive comments and advice.

教科書	参考図書
Sounds Make Perfect 英語音声学への扉　～発音とリスニングを中心に～【改訂版】　今井由美子他　英宝社	To be supplied by the instructor or they will be available on Moodle.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Students are required to bring their computers to class. The instructor’s email address and office hours will be notified in the first class.

01	Introduction to Course, explanation of the syllabus and the Class Moodle
02	Stress and intonation
03	English syllabic structures and Japanese syllabic structures
04	Intonation and meaning
05	Performance Test 1
06	Front vowels
07	Mid vowels
08	Back vowels
09	Diphthongs 1
10	Performance Test 2
11	Diphthongs 2
12	Learn pronunciation in a movie 1
13	Learn pronunciation in a movie 2
14	Intonation pattern (speaker’s intention)
15	Performance Test 3, Review of the course and semester reflection
16	None

科目名:OG12S4002　Overseas Studies Ⅱ	担当者:井川 恵理	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	4
		必須.選択	選択

授業概要と方法
Overview: This course is related to the 'practical English communication ability' and 'contribution to the global society' mentioned in SLADE diploma policy.　It will give students
1. more chances to use English language in the native speaking environment.　2. more real-life experience with another culture of their own choice and to get deeper understanding
of the culture.　3. to have an opportunity to be independent learners and members of society to let them prepare works before the departure and after the experience.
In preparatory class, students are to present their goals and plan to achieve them to the instructor, exchange ideas with other students in discussion.　After the overseas studies, students are to prepare their presentations to make the instructor and other students understand their experience with critical thinking.【AL, EN】

授業の到達目標
Each student will be able to
1. set her own clear goals depending on English language levels (TOEIC, STEP, IELTS, etc.) 【DP】
2. understand the importance of cultural understanding of the area.　【DP】
3. make clear reflection on her experience and make a presentation.　【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力
○ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
1. Each student is to choose a country and an institution with English-speaking environment based on the discussion with the instructor.
2. Study goals and plan are to be made to reported them to the instructor.
3. The journal needs to be kept and the prepared for the presentation.
4. Students are to work on assignments and preparation for 8 hours outside the class.

評価方法
1. Preparatory document submission 20%,　2. Journal　30%,　3. Open presentation (plan, experience, achievement of goals and other items) 30%,　4. Reflection essay (Set one theme to summarize the experience with critical thinking) 20%
5. Feedback is given to each work as a comment.

教科書	参考図書
SLADE Overseas Studies explanation booklet and original handouts will be given.	日本外務省および、研修国政府のHP、大学安全指導関連資料

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Once the destination is finalized, each student needs to be registered on 'Tabi-Reji　(たびレジ)' prepared by Ministry of Foreign Affairs, Japan.　SLADE instructors and the office need to be informed the details of the stay, change of location or conditions.

01	Basic instruction: how to prepare for the program, passport check
02	Plan your own overseas studies: What are the purposes and goals?
03	Make your destination and the length of stay clear
04	Make your institution clear
05	Check the details of the institution and its courses
06	Contact the institution and ask for accommodation
07	Check your English level and set the goal of English level 'before' the departure
08	Contact travel agency, Prepare for the VISA status, etc.
09	Find out more about the country and the area (1) location, weather
10	Find out more about the country and the area (2) people, culture
11	Find out more about the country and the area (3) language
12	Find out more about the country and the area (4) politics
13	Prepare for the emergency (Explanation to the guarantors included)
14	Check what needs to be done during the overseas studies: items for presentation, etc.
15	Journal and reflection essay preparation, final check before departure
16	None

2024年度シラバス

科目名:OG53S4003　Study Abroad Preparation A	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
This course is related to the 'practical English communication ability' and 'contribution to the global society' mentioned in SLADE diploma policy. It will give students:
1. chances to use English language in an academic setting in a native English environment
2. real-life experience with discussions about academic topics (including cultural comparisons, societal issues and historical viewpoints) and situations students may encounter while studying abroad
3. to gain a deeper understanding of such topics through independent research
4. the opportunity to be independent learners [AL][EN]

授業の到達目標
On completion of this course students should be able to:
1. discuss academic topics, topical English newspaper articles and YouTube videos confidently and competently using practical English communication skills [DP]
2. critically think about and recognize the international importance of cultural, societal and historical understanding of the topic areas [DP]
3. reflect on all discussions in each class
4. use ICT to research and access the materials to be discussed [DP]
5. give a logical and creative presentation using critical thinking and displaying knowledge of the topic using ICT [DP]

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be expected to spend 1.5 to 2 hours a week on completing the homework assignments which are directly connected to the discussion activities to be conducted in each subsequent week's class. The homework will consist of students watching and reading topic appropriate materials. Students should be prepared to discuss the materials using critical thinking. Students will be expected to contribute to all discussions in class.

評価方法
1. Class preparation (homework) - 12 times (25%): The instructor will inspect the students' video sheets and vocabulary journals each week to ensure completion and give any necessary feedback at that time.
2. Review Quizzes - 3 times (30%): Quizzes will be completed on Moodle in class and feedback will be provided via Moodle after completing the quizzes.
3. Class participation (group discussions) - 13 times (25%): The instructor will observe the students' group discussions each week and give any necessary feedback at that time.
4. Presentation - 1 time (10%): Feedback will be provided straight after the task completion in class.
5. Course Reflection - 1 time (10%): Feedback will be provided in class.

教科書	参考図書
Materials to be provided on Moodle for students to download or access.	None.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attending classes weekly is imperative to the successful completion of this course. Students need to contact the teacher if they will miss a particular class. Contact information is available on the Moodle course page.

01	Course introduction and grading explanation; learn 5 note taking methods. [DP]
02	Cultural comparisons - What are perspectives? Watch videos & discuss in groups. [DP]
03	Cultural comparisons - What are high and low context cultures? Watch videos & discuss in groups. [DP]
04	Cultural comparisons - High and low context communication style differences. Watch videos & discuss in groups. [DP]
05	Cultural comparisons - How cultural differences can affect business. Watch videos & discuss in groups. [DP]
06	Quiz 1 (Culture Review); Social issues - Ten social issues in Japan. Watch videos & discuss in groups. [DP]
07	Social issues - Overwork & 'Karoshi' in Japan. Watch videos & discuss in groups. [DP]
08	Social issues - 'Hikikomori' & mental health in Japan. Watch videos & discuss in groups. [DP]
09	Social issues - Foreign workers in Japan. Watch videos & discuss in groups. [DP]
10	Historical viewpoints - What is history? Watch videos & discuss in groups. [DP]
11	Quiz 2 (Social Issues Review); Historical viewpoints - The History of Travel & Tourism. Watch videos & discuss in groups. [DP]
12	Historical viewpoints - The History of Dating. Watch videos & discuss in groups. [DP]
13	Historical viewpoints - The History of Chocolate. Watch videos & discuss in groups. [DP]
14	Presentation preparation; Course Reflection work. [DP]
15	Quiz 3 (Historical Viewpoints Review); Presentations; Course Reflection (CR) due. [DP]
16	None

科目名:OG53S4004 Study Abroad Preparation B	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
This course is related to the 'practical English communication ability' and 'contribution to the global society' mentioned in SLADE diploma policy. It will give students:
1. chances to use English language in an academic setting in a native English environment
2. real-life experience with discussions about academic topics (including cultural comparisons, societal issues and historical viewpoints) and situations students may encounter while studying abroad
3. to gain a deeper understanding of such topics through independent research
4. the opportunity to be independent learners [AL][EN]

授業の到達目標
On completion of this course students should be able to:
1. discuss academic topics, topical English newspaper articles and YouTube videos confidently and competently using practical English communication skills [DP]
2. critically think about and recognize the international importance of cultural, societal and historical understanding of the topic areas [DP]
3. reflect on all discussions in each class
4. use ICT to research and access the materials to be discussed [DP]
5. give a logical and creative presentation using critical thinking and displaying knowledge of the topic using ICT [DP]

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students will be expected to spend 1.5 to 2 hours a week on completing the homework assignments which are directly connected to the discussion activities to be conducted in each subsequent week's class. The homework will consist of students watching and reading topic appropriate materials. Students should be prepared to discuss the materials using critical thinking. Students will be expected to contribute to all discussions in class.

評価方法
1. Class preparation (homework) - 12 times (25%): The instructor will inspect the students' video sheets and vocabulary journals each week to ensure completion and give any necessary feedback at that time.
2. Review Quizzes - 3 times (30%): Quizzes will be completed on Moodle in class and feedback will be provided via Moodle after completing the quizzes.
3. Class participation (group discussions) - 13 times (25%): The instructor will observe the students' group discussions each week and give any necessary feedback at that time.
4. Presentation - 1 time (10%): Feedback will be provided straight after the task completion in class.
5. Course Reflection - 1 time (10%): Feedback will be provided in class.

教科書	参考図書
Materials to be provided on Moodle for students to download or access.	None.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
Attending classes weekly is imperative to the successful completion of this course. Students need to contact the teacher if they will miss a particular class. Contact information is available on the Moodle course page.

01	Course introduction and assessment explanation; learn a note-taking method [DP]
02	Cultural comparisons - Cultural similarities & differences. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
03	Cultural comparisons - Cultural perceptions of time. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
04	Cultural comparisons - Cultural misunderstandings. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
05	Cultural comparisons - How cultural differences can affect business. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
06	Quiz 1 (Culture Review); Social issues - Top ten global issues. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
07	Social issues - Modern day slavery: Human trafficking. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
08	Social issues - Social media. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
09	Social issues - What are the solutions to global social issues? Watch the videos & discuss in groups. [DP]
10	Quiz 2 (Social Issues Review); Historical viewpoints - Global historical timeline. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
11	Historical viewpoints - Brief history of slavery. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
12	Historical viewpoints - The history of computing. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
13	Historical viewpoints - The history of tea. Watch the videos & discuss in groups. [DP]
14	Presentation preparation; Course Reflection (CR) work. [DP]
15	Quiz 3 (History Review); Presentations; class discussion; Course Reflection (CR) due [DP]
16	None.

2024年度シラバス

科目名:OG21S4005　日本研究	担当者:朴 弘	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
　この授業では、小説・漫画・映画などの作品を通して＜日本＞が世界でいかに理解されているのかを把握する。それを把握してく際に他者の視点に触れ合い、学芸学部のディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」を培う。
授業はセミナール式。教員による解説をしながら、受講生によるプレゼンテーションを実施する。その後ディスカッションを行う。【AL】

授業の到達目標
①文化研究を学ぶことにより、日本社会のあり方や他国との文化交流の特徴などを理解することができる。（DP）
②関連資料を調べた上に作品の分析を行うため、作品に含まれるメッセージを読み解くことができる。（DP）
③プレゼンテーションやディスカッションで、自分の考えを言葉にして述べることができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
【準備学修】※約2時間
授業にて指示された課題に取り組むこと。授業の関連する話題を積極的にリサーチすること。
【事後学修】※約2時間
授業で学んだことをノート等にまとめること。プレゼンテーションに参加する人は、その準備をおこなうこと。

評価方法
○授業態度
　プレゼンテーション（25%）+ 課題（25%）+ CRP（10%）
　プレゼンテーションと課題に対するフィードバックは授業中、ディスカッションの際に行う。
○レポート：40%

教科書	参考図書
適宜紹介します。	特になし

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
○授業で扱う作品について詳しくなくても受講に差し支えありません。ただし、受講するためには事前に作品を読んでおいてください。
○無断欠席、授業中の私語は禁止です。
○授業に関する連絡はメールで行います。連絡先は授業で開示します。

01	イントロダクション
02	東アジアの中の日本①：八木義徳『劉広福』
03	東アジアの中の日本②：八木義徳『劉広福』
04	東アジアの中の日本③：金達寿『孫令監』
05	東アジアの中の日本④：金達寿『孫令監』
06	翻訳される日本の推理小説①：東野圭吾『容疑者Xの献身』
07	翻訳される日本の推理小説①：東野圭吾『容疑者Xの献身』
08	翻訳される日本の推理小説②：東野圭吾『容疑者Xの献身』
09	翻訳される日本の推理小説③：東野圭吾『容疑者Xの献身』
10	映像化される日本の少女漫画①：神尾葉子『花より男子』
11	映像化される日本の少女漫画②：神尾葉子『花より男子』
12	映像化される日本の少女漫画③：神尾葉子『花より男子』
13	女性作家が書く日本社会①：今村夏子『むらさきのスカートの女』
14	女性作家が書く日本社会②：今村夏子『むらさきのスカートの女』
15	女性作家が書く日本社会②：今村夏子『むらさきのスカートの女』
16	まとめ

2024年度シラバス

科目名:OG22S4006　異文化研究	担当者:小林 愛明	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	必須

授業概要と方法
この科目は学部のディプロマポリシーに謳われている「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」と関連して展開される。A. 授業内容 イギリス、アメリカ、日本の代表的な文学作品を読み、歴史・文化・地理的背景について学ぶ。 B. 授業方法 講義を基本としつつ、各作品の暗記や朗読、分析とレポート、議論と発表などを行う。 C. グループワーク、演技・朗読、プレゼンテーションなどの活動を行う。【ＡＬ】、【ＩＣＴ】

授業の到達目標
①イギリス、アメリカ、日本の文学の基礎的な知識を身につける。（DP）
②イギリス、アメリカの文学作品を原文で読み、解釈することができる。（DP）
③イギリス、アメリカ、日本の文学作品を通して、批判的思考能力を身につける。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
１.毎週、予習範囲を指定するので、そこを読んで内容をまとめてくること。２．授業後は1.と同じ用紙に授業のまとめと感想を書いて提出すること。なお、１回の授業に対して４時間程度の予習復習をすること。

評価方法
A. 評価の方針　授業中の議論、文章作成への参加とリフレクションの提出を基本に評価する。B. リフレクションとフィードバック　C. 評価に関する要件　①毎回の小レポートの作成（40%）、②講義や議論への参加意欲（20%）、③期末レポート（30%）、④CR（10%）。フィードバックはMoodleにてコメント・評価する。

教科書 Moodle上にてプリントを配布する。	参考図書 授業中に案内する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料提示はMoodle等を用いて行う。毎回、指示された資料を各自でプリントアウトして持参すること。作品の一部を英語で読むので、毎回辞書を持参すること。なお、辞書はリーダーズ・プラス程度のものが望ましい。レポート作成時には関連図書を図書館で借りる、または自分で買うようにすること。オフィスアワーに関しては講義内で告知する。連絡手段に関してはMoodleとメールを使用する（LINEなどのSNSは用いない）。公共交通機関等で遅延等が発生した場合は、原則的に駅で発行される証明書を持参すること。その他、1回目のオリエンテーションを休んだ場合は、各自2回目の講義にてその内容を確認すること。

01	英詩と米詩のロマンティシズム①（オリエンテーション）
02	英詩と米詩のロマンティシズム②
03	日系アメリカ人の文学①
04	日系アメリカ人の文学②
05	日本とアメリカにおける第二次世界大戦の文学①
06	日本とアメリカにおける第二次世界大戦の文学②
07	日本とアメリカにおけるベトナム反戦運動の文学①
08	日本とアメリカにおけるベトナム反戦運動の文学②
09	日本とアメリカにおけるビート世代①
10	日本とアメリカにおけるビート世代②
11	日本と英米の音楽①
12	日本と英米の音楽②
13	村上春樹とアメリカの小説①
14	村上春樹とアメリカの小説②
15	2000年代以降のアメリカ詩（まとめ）
16	なし

科目名:OG22S4007　Asian Studies	担当者:布 和	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限: 特になし		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　この授業は、学芸学部ディプロマ・ポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」という能力の養成に関連している。この授業は、アジアに関する知識を学ぶ。授業では、アジア全体の状況を紹介し、関連する各国の歴史・文化・宗教などの事相を紙媒体資料並びに視聴覚資料によって具体的に学ぶ。授業過程では、グループ学習を取り入れ、また、プレゼンテーションを行う形で授業に対する理解を深めるつもりである。

授業の到達目標
　15回の講義を通じて、学生たちは、アジアに関する基本的な知識(DP)を身に付くようになり、アジアの国々の特徴と実情（DP）について十分な理解を得られた上、国際交流や国際貢献の意義（DP）を認識できるようになることです。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力 ◎ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　アジアの多様性や直面する課題についての予習と復習を少なくともそれぞれ２時間程度行うこと。

評価方法
　欠席数が6回になれば、単位を不認定する。成績は、授業参加意欲（30%）、CRP（10%）、プレゼンテーション（20%）及びレポート（４0%）で総合評価する。また、なお、プレゼン後の質疑応答時間を以ってフィードバックとしている。

教科書	参考図書
教科書は使わないが、講義ごとにプリントを配布する。	「中学校学習指導要領」・「高等学校学習指導要領」

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　授業内容は進度によって多少の変化が生じる。教員の連絡先及びオフィスアワーは授業中に知らせる。

01	講義紹介（アジアの現状）
02	アジアの歴史
03	アジアの政治
04	アジアの経済
05	アジアの宗教
06	アジアの文化
07	アジアの課題
08	第一回目の学生によるプレゼンテーション
09	東アジアの国々の現状と課題
10	東南アジアの国々の現状と課題
11	南アジアの国々の現状と課題
12	西アジアの国々の現状と課題
13	中央アジアの国々の現状と課題
14	これからのアジア
15	第二回目のプレゼンテーション
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG21S4009　American Studies	担当者:小林 愛明	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この授業では、先住民をはじめとするアメリカに住む多様なルーツを持つ人びとの歴史的経験を通して、アメリカ合衆国の文化と社会における諸問題を考察する。アメリカの歴史において「周縁化」されてきた「他者」の経験に注目し、現代のニュースに取り上げられる問題と関連づけて捉えることで、学芸学部ディプロマポリシーの中の「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を身につける。

授業の到達目標
アメリカの歴史において周縁化されてきた「他者」の多様な歴史的経験について理解し、歴史記述に対する批判的な視点を身に着けることができる。他国の歴史や社会の諸問題を知ることを通して、問題意識をもって現代の日本を生きる私たちの在り方を考えることができる(DP)。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
１．毎週、予習範囲を指定するので、それを読んで内容をまとめてくること。２．授業後は授業のまとめと感想を書いて提出すること。なお、１回の授業に対して４時間程度の予習復習をすること。

評価方法
A. 評価の方針　授業中の議論A. 評価の方針　授業中の議論、文章作成への参加とリフレクションの提出を基本に評価する。B. リフレクションとフィードバック　C. 評価に関する要件　①毎回の小レポートの作成（40%）、②講義や議論への参加意欲（20%）、③期末レポート（30%）、④CR（10%）

教科書
適宜資料を配布する。

参考図書
講義中に案内する。
阿部珠理編著『アメリカ先住民を知るための62章』（2016年、明石書店）
阿部珠理編著『アメリカ先住民を知るための62章』（2016年、明石書店）
佐々木隆監修　和泉真澄・趙無名編著「アメリカ研究の理論と実践－多民族社会における文化のポリティクス」（世界思想社、2007年）
阿部珠理著「メイキング・オブ・アメリカー格差社会アメリカの成り立ち」（彩流社、2016年）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料提示はMoodle等を用いて行う。毎回、指示された資料を各自でプリントアウトして持参すること。作品の一部を英語で読むので、毎回辞書を持参すること。なお、辞書はリーダーズ・プラス程度のものが望ましい。レポート作成時には関連図書を図書館で借りる、または自分で買うようにすること。オフィスアワーに関しては講義内で告知する。連絡手段に関してはMoodleとメールを使用する（LINEなどのSNSは用いない）。公共交通機関等で遅延等が発生した場合は、原則的に駅で発行される証明書を持参すること。その他、1回目のオリエンテーションを休んだ場合は、各自2回目の講義にてその内容を確認すること。

01	アメリカの讃美歌（オリエンテーション）
02	アメリカのバラッド①
03	アメリカのバラッド②
04	黒人のブルース①
05	黒人のブルース②
06	アメリカのフォークソング①
07	アメリカのフォークソング②
08	ネイティブ・アメリカンの文学①
09	ネイティブ・アメリカンの文学②
10	ユダヤ系アメリカ人の文学①
11	ユダヤ系アメリカ人の文学②
12	ヒスパニック系アメリカ人の文学①
13	ヒスパニック系アメリカ人の文学②
14	アメリカの児童文学①（CR）
15	アメリカの児童文学②（CR）（まとめ）
16	なし

科目名:OG21S4012　イギリス文学入門	担当者:井川 恵理	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は学部のディプロマポリシーに謳われている「幅広い教養と論理的・創造的な思考力」と関連しており、履修系統図では「文学の世界」に直結させている。A. 授業内容 イギリスの代表的な文学作品のさわりを読み、歴史的地理的背景についても学ぶ。 B. 授業方法 講義を基本としつつ、有名な文章の暗記や朗読、分析とレポート、議論と発表などを行う。C. グループワーク、演技、プレゼンテーションなどのアクティヴ・ラーニングを行う。提出された課題にはMoodle サイトを通じてフィードバックを行います。【AL】

授業の到達目標
１．イギリス文学における名場面、名台詞の暗唱ができるようになる【DP】２．イギリス文学における代表的作家を知り、説明ができるようになる　【DP】３．イギリス文学における代表的作品の歴史的、地理的、文化的背景を説明できるようになる　【DP】

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
１．毎週、予習範囲を指定するので、そこを読んでまとめてくること。 ２．授業後はMoodle のWeekly Reflectionに授業のまとめと感想を書く。 なお、１回の授業に対して４時間程度の予習復習をして下さい。

評価方法
A. 評価の方針　授業中の議論、文章作成への参加とリフレクションの提出を基本に評価する。B. リフレクションとフィードバック　リフレクションへの返信で、フィードバックする。 C. 評価に関する要件　①演技の録音・録画 20点　②小テスト 30点　③リフレクション 40点　④コース・リフレクション・ポートフォリオ 10点

教科書 自作テキスト配布	参考図書 中学校・高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料提示、リフレクションにはMoodleを使用します。連絡先は授業で開示します。質問等はオフィスアワーや教員のESC担当時間をご利用下さい。

01	授業オリエンテーション。欽定訳聖書
02	欽定訳聖書（英語）と『ハリー・ポッター』
03	英語の音とリズム：ナーサリー・ライム　韻を理解する
04	英語の音とリズム：ナーサリー・ライム　リズムを理解する
05	英語の音とリズム：ナーサリー・ライムと『クマのプーさん』
06	暗唱大会　（Mid-term Feedback実施予定）イングランドの詩
07	スコットランドの詩
08	アイルランドの詩
09	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』(1)
10	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』(2)
11	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』(3)
12	ディケンズ『オリバー・トゥイスト』(1)
13	ディケンズ『オリバー・トゥイスト』(2)
14	ワイルド『幸福な王子』(1)　（授業評価実施予定）
15	ワイルド『幸福な王子』(2)　　コース・リフレクション
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG22S4013　アメリカ文学入門	担当者:小林 愛明	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
この科目は学部のディプロマポリシーに謳われている「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」と関連して展開される。A. 授業内容 アメリカの代表的な文学作品を読み、歴史・文化・地理的背景について学ぶ。 B. 授業方法 講義を基本としつつ、各作品の暗記や朗読、分析とレポート、議論と発表などを行う。 C. グループワーク、演技・朗読、プレゼンテーションなどの活動を行う。【ＡＬ】、【ＩＣＴ】

授業の到達目標
１．アメリカ文学における名詩、名場面、名台詞の暗唱ができるようになる、２．アメリカ文学における代表的作家を知り、説明ができるようになる、３．アメリカ文学における代表的作品の歴史・文化・地理的背景を説明できるようになる（DP）。

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
１．毎週、予習範囲を指定するので、そこを読んで内容をまとめてくること。２．授業後は1.と同じ用紙に授業のまとめと感想を書いて提出すること。なお、１回の授業に対して４時間程度の予習復習をすること。

評価方法
A. 評価の方針　授業中の議論、文章作成への参加とリフレクションの提出を基本に評価する。B. リフレクションとフィードバック　C. 評価に関する要件　①毎回の小レポートの作成（40%）、②講義や議論への参加意欲（20%）、③期末レポート（30%）、④CR（10%）

教科書	参考図書
自作テキスト配布	講義中に案内する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
資料提示はMoodle等を用いて行う。毎回、指示された資料を各自でプリントアウトして持参すること。作品の一部を英語で読むので、毎回辞書を持参すること。なお、辞書はリーダーズ・プラス程度のものが望ましい。レポート作成時には関連図書を図書館で借りる、または自分で買うようにすること。オフィスアワーに関しては講義内で告知する。連絡手段に関してはMoodleとメールを使用する（LINEなどのSNSは用いない）。公共交通機関等で遅延等が発生した場合は、原則的に駅で発行される証明書を持参すること。その他、1回目のオリエンテーションを休んだ場合は、各自2回目の講義にてその内容を確認すること。

01	オリエンテーション＋ナーサリーライムとバラッド（英詩の基本）（オリエンテーション）
02	アン・ブラッドストリート（アメリカ最初の女性詩人）
03	ラルフ・ウォルド・エマソン（アメリカの知的独立宣言）
04	ウォルト・ホイットマン（アメリカ・ルネッサンスの文学）
05	エミリー・ディキンソン（アメリカ・ルネッサンスの文学）
06	エズラ・パウンド（モダニズムの文学）
07	T・S・エリオット（モダニズムの文学）
08	アーネスト・ヘミングウェイ（失われた世代の文学）
09	F・スコット・フィッツジェラルド（失われた世代の文学）
10	ラングストン・ヒューズ（ハーレム・ルネッサンスの文学）
11	カール・サンドバーグ（シカゴ・ルネッサンスの文学）
12	シルヴィア・プラス（告白派の文学）
13	アレン・ギンズバーグ（ビート・ジェネレーションの文学）
14	フランク・オハラ（ニューヨーク派の文学）（CR）
15	ボブ・ディラン（歌と詩の融合）（CR）（まとめ）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG53S4024　フィールドワーク	担当者:根尾 文彦	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	実習
免許・資格:		開講時期	前期・後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部のディプロマポリシーにある現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけることが望まれる。 実社会では営利を目的とした活動から非営利活動に至るまで、様々な機能を持った組織体が社会を構成している。それぞれの組織体（企業、自治体、ＮＧＯ、ＮＰＯなど）がどの様な活動を通して社会に貢献しているかを、事前調査、現地フィールドワーク、事後調査の分析を通して理解する。

授業の到達目標
①テーマに沿って文献、インターネットなどで必要な知識を身につけている。②フィールドワーク先で成果が出る十分な調査活動をする。 (DP)③発表報告会に向けて効果的な資料を作成する。 (DP)④発表報告会において効果的なプレゼンテーションを行う。 (DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○批判的思考、論理・創造的発信力
◎ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各テーマに沿った各自で資料等を使って事前・事後調査を行う。予習復習併せて週4時間程度の学習が望まれる。

評価方法
全体を通しての参加態度（30%）、レポート内容及び発表内容（60%）、CRP（10%）　課題に対して乃フィードバックはその都度口頭にて行います。

教科書	参考図書
特になし	その都度指示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　neo @ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7307号室

01	この実習はあくまでも学生自身が主体となり、テーマを選定して現地学修を行い、総括してレポート発表するものある。よって特定のテーマが決められている訳ではなく、各自が関心があることから特定のテーマを選定します。そのテーマに添って文献などで事前学習し、必ず現地にてフィールドワークを数回実施することにより、文献だけでは得ることの出来ない生きた情報を習得します。そこでは必ず担当者との関わりが発生し、社会との関わりの中で、人との交流の重要性、ものごとを深く考え抜く力を養います。 授業は基本的に15回実施します。14週目にCRPを作成し、15週目に調査した内容を発表します。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OG53S4030　韓国インターンシップＡ	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この科目は、学芸学部のディプロマ ポリシーにある、グローバルな視点から言語とさまざまな文化を理解する能力に関連している。原則として夏季・春季休み期間を利用して韓国現地の一般企業、外資系企業、旅行会社等が提供する海外インターンシッププログラムに参加し、グローバルな経験を積むことを目標とする。例）韓国語教育・日本語教育実習、ホテルインターンシップ、旅行会社インターンシップ、幼稚園・保育園実習、NGOの一員として環境保護活動に参加。高度な語学力（韓国語）を必要とする。基本実習期間は1週間または30時間以上とする。［AL］

授業の到達目標
①韓国語力の向上。②韓国社会において大切なコミュニケーション能力を実体験において修得。（DP）③韓国の企業文化、職場の仕組みなどを実体験において学修する。（DP）④卒業後のキャリアプランを見据えた韓国の実社会情報を修得する。（DP）⑤インターンシップ後の発表会において成果を報告する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
韓国インターンシッププログラムでは、少なくとも 1週間以上、または30 時間以上 のインターンシップが必要です。
学生は、韓国の機関/組織からの入学許可書と研修計画書（インターンシップ・プログラム概要、渡航の情報などを含む）を提出します。
インターンシッププログラムに参加している間、担当教員と連絡を取り合い、電子メールで最新情報を報告します。
インターンシップ プログラムの終了の際は、韓国のインターンシップ機関/組織からのポートフォリオ、ジャーナル、およびインターンシップの証明を提出します。
インターンシップの経験についてプレゼンテーションを行います。
事前学習及び発表後にその都度口頭にてフィードバックする。

事前学修、事後学修として週に2時間程度が望まれる。

評価方法
インターンシッププログラム全体を通した取り組み姿勢（30%）
受入れ機関の個人評価（20%）
研修日誌・ポートフォリオ、ジャーナルの内容及びプレゼンテーションの内容（50%）

教科書 特になし	参考図書 適宜提示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中に示す。
オフィスアワー　水曜２限、金曜日2限
インターンシップ参加に辺り、参加費用・渡航費用が発生します（個人負担）。

01	インターンシップ説明会 インターンシップ申込み手続き（エントリシート） 韓国事情の学習 渡航の準備 インターンシップ受入れ機関に関する事前研修 インターンシップ受入れ機関への事前挨拶指導 インターンシップ実施 研修中の中間報告及びフィードバック 研修終了後の事後のまとめとフィードバック インターンシップ体験発表、 ジャーナルの提出
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

16	

2024年度シラバス

科目名:OG53S4031　韓国インターンシップＢ	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	実習
免許･資格:		開講時期	前期･後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
この科目は、学芸学部のディプロマ ポリシーにある、グローバルな視点から言語とさまざまな文化を理解する能力に関連している。原則として夏季・春季休み期間を利用して韓国現地の一般企業、外資系企業、旅行会社等が提供する海外インターンシッププログラムに参加し、グローバルな経験を積むことを目標とする。例）韓国語教育・日本語教育実習、ホテルインターンシップ、旅行会社インターンシップ、幼稚園・保育園実習、NGOの一員として環境保護活動に参加。高度な語学力（韓国語）を必要とする。基本実習期間は2週間または60時間以上とする。［AL］

授業の到達目標
①韓国語力の向上。②韓国社会において大切なコミュニケーション能力を実体験において修得。（DP）③韓国の企業文化、職場の仕組みなどを実体験において学修する。（DP）④卒業後のキャリアプランを見据えた韓国の実社会情報を修得する。（DP）⑤インターンシップ後の発表会において成果を報告する。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○課題発見・分析・解決・発信等の汎用的技能
◎価値観・態度・志向性

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
韓国インターンシッププログラムでは、少なくとも 2週間以上、または60 時間以上 のインターンシップが必要です。
学生は、韓国の機関/組織からの入学許可書と研修計画書（インターンシップ・プログラム概要、渡航の情報などを含む）を提出します。
インターンシッププログラムに参加している間、担当教員と連絡を取り合い、電子メールで最新情報を報告します。
インターンシップ プログラムの終了の際は、韓国のインターンシップ機関/組織からのポートフォリオ、ジャーナル、およびインターンシップの証明を提出します。
インターンシップの経験についてプレゼンテーションを行います。
事前学習及び発表後にその都度口頭にてフィードバックする。

事前学修、事後学修ともに、週に2時間程度が望まれる。

評価方法
インターンシッププログラム全体を通した取り組み姿勢（30%）
受入れ機関の個人評価（20%）
研修日誌・ポートフォリオ、ジャーナルの内容及びプレゼンテーションの内容（50%）

教科書 特になし	参考図書 適宜提示する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業中に示す。
オフィスアワー：月曜２限、金曜3限
インターンシップ参加に辺り、参加費用・渡航費用が発生します（個人負担）。

01	インターンシップ説明会 インターンシップ申込み手続き（エントリシート） 韓国事情の学習 渡航の準備 インターンシップ受入れ機関に関する事前研修 インターンシップ受入れ機関への事前挨拶指導 インターンシップ実施 研修中の中間報告及びフィードバック 研修終了後の事後のまとめとフィードバック インターンシップ体験発表、 ジャーナルの提出
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OG21S5009　English Linguistics	担当者:村木 恭子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
This course is related to the "Ability to understand languages and other cultures from the global perspective" in SLADE diploma policy. English Linguistics is aimed to scientifically build the images of what language is, especially on "English Linguistics". 【EN】

授業の到達目標
Students who pass this course will be able to understand basic ideas of; 1) Linguistics and English Linguistics [DP] , 2) Language acquisition [DP] 3) Morphology [DP] 4) Phonology 5) Semantics [DP] 6) Syntax [DP] 7) Pragmatics [DP] . Students also understand the basic theoretical frame of English Linguistics.

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
This course is one of the "specialized courses", so self-study and self-research, including a lot of material readings are highly required. Students are asked to study 4 hours a week for this class.

評価方法
In order to pass this class, students must complete the following assignments:Weekly reflection journal & Mini-quizzes: Mini-quizzes will be given after each chapter. … 50 %Final report: Details will be explained in class. …　50% (Including 10 % course reflection). All the assignment will be commented either during the class, moodle, or individual comment sheet.

教科書	参考図書
中島平三 (2011)『ファンダメンタル英語学改訂版』ひつじ書房	中学校学学習指導要領・高等学校学習指導要領, Other materials will be introduced or provided in class or on the SLADE's Moodle.

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites for taking this course. However, students who wish to receive Teaching Certification are required to take this course. Instructor's contact information will be announced in the first class.

01	Orientation, including rules of the classes, how to manage the textbook, homework, Introduction of Linguistics and History of English Linguistics
02	What is Linguistics, English Linguistics (chapter 1)
03	Language Acquisition
04	Morphology (chapter 4)
05	Morphology (chapter 4), Phonology
06	Morphology (chapter 4), Phonology
07	Semantics (chapter 6)
08	Semantics (chapter 6)
09	Semantics (chapter 6)
10	Syntax (1) (chapter 2)
11	Syntax (1) (chapter 2)
12	Syntax (2) (chapter 3)
13	Syntax (2) (chapter 3)
14	Pragmatics, explanation about course reflection
15	Wrap-up of the course
16	None

2024年度シラバス

科目名:OG21S6002　英語学習と学習指導要領	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
（概要）本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」を教育分野で発揮することを大きな目標として運用されるものである。　本授業においては、小学校における外国語活動や英語教育について、学習指導要領を中心に分析し、①導入の経緯②望ましい教員の質③授業案作成時の注意事項④中学校英語との関わり⑤国際理解教育の質等を学んでいく。（方法）学習指導要領分析を行う講義が中心となるが、受講者に参加してもらうディスカッションも適宜実施する。

授業の到達目標
A. 小学校の教育課程に外国語活動や英語の授業が入っている／くる意味を理解することができる。B. 英語を通した国際理解教育とは何か？という問題について理解することができる。C. ４技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）の指導方法を理解することができる。D. 小学校英語教育のための学習指導案や評価規準を作成することができる。E.　小学校-中学校-高等学校のそれぞれの英語教育のつながりを理解することができる。F. 授業で学習者に求める実践的な英語コミュニケーション能力とは何か？という問いに答えることができる。（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
準備学修として、小学校学習指導要領をよく読みこなすことが重要である。事後学修については、本授業は夏に開講される「海外英語資格実習」につながるため、その授業において、本授業で学んだ内容を実践できることが望ましい。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要である。

評価方法
①授業中に実施する模擬授業　40%　②学習指導案作成を含む学期末のレポート　　５0%　③CRP　１０%
模擬授業のフィードバック・指導案作成課題のフィードバックは授業時間内に一定時間をとって行う予定である

教科書	参考図書
開講時までに指示する。	文部科学省　小学校／中学校／高等校学習指導要領小学校学習指導要領解説（外国語科・外国語活動）

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
小学校における英語教育の重要性を理解し、こども英語指導者資格など、主に英語教育系の資格を教育現場でどのようにいかすのか？ということを常に考える姿勢が求められる。研究室：７３１１

01	オリエンテーション（授業進行説明）
02	学習指導要領とは何か？またその歴史とは？
03	小学校学習指導要領分析①（外国語活動）
04	小学校学習指導要領分析②（外国語科）
05	小学校学習指導要領、関連答申分析①（２０１５年）
06	小学校学習指導要領、関連答申分析②（２０１６年）　（※中間アンケート実施）
07	学習指導要領における外国語活動と英語の違いについて
08	小学校における英語教育と総合的な学習の時間との関係
09	小学校における英語教育と道徳の時間との関係
10	英語をいかした他社理解の授業実践
11	コミュニケーション能力とは何か？
12	外国語・英語模擬授業比較①（小学校-中学校比較）
13	英語模擬授業比較②（中学校-高校比較）
14	J-shine、TECSOLとは何か？またこの資格を教育現場でどのように活用すべきなのか？
15	授業総括（日本における初等教育と外国語学習）（※学期末授業アンケート実施）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG51S6004　English for Children Ⅰ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to practical ability to communicate in English as mentioned in the SLADE diploma policy. The aim of this course is to introduce students to various techniques and activities used when teaching English to pre-school children. [AL] [EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to:
1. understand the principles of teaching English to preschool children at a basic level
2. use practical English communication skills to teach games, flashcards, puppets, books and songs in English [DP]
3. exercise critical thinking and recognize what topics and activities are suitable for preschool children, and how to logically fit activities together to make a class [DP]
4. use logical and creative skills to plan, design and use suitable class materials and activities & deliver classes in a professional manner [DP]
5. work alongside others in order to produce a group assignment
6. use ICT to create materials and to submit coursework

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
The class will be taught in English and students are expected to use English in class [EN]. The course uses an active learning approach [AL]. Full class participation in class activities is required to demonstrate understanding and ability on a weekly basis. Since this is a 2 credit course, students are expected to do 3.5 to 4 hours of homework each week.

評価方法
1. Weekly homework - 10 submissions (30%): All homework is to be submitted on Moodle and feedback will be provided via Moodle.
2. Individual project (teach a 15-minute class) - 1 time (20%): Individual feedback will be provided straight after the completion of this assignment.
3. Group project (make a children's book) - 1 time (20%): Feedback will be provided to each group straight after the completion of this assignment.
4. Review quizzes - 3 times (20%): All quizzes are on Moodle and feedback is provided with correct answers and explanations after completing the quiz.
5. Course Reflection - 1 time (10%): Individual feedback will be provided straight after the completion of this assignment.

教科書	参考図書
All textbook materials will be provided by the instructor in a booklet.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites to this course. This course is related to the Teacher License Course. Missed coursework components may be re-scheduled with the instructor's permission. If students have any questions about the course, please contact the teacher. Contact information is available on the Moodle course page.

01	Course overview & explanation
02	Overview of suitable pre-school topics and vocabulary [DP]
03	Introduction to teaching aids; Teaching aids part one - flashcards and gestures [DP]
04	Teaching aids part two - games and classroom English [DP]
05	Review & practice using flashcards and gestures [DP]
06	Practice using games and classroom English [DP]
07	Teaching aids part three- puppets, songs and books [DP]
08	Practice using puppets, songs and books [DP]
09	Review [DP]
10	Individual micro-teaching preparation [DP]
11	Individual micro-teaching [DP]
12	Individual micro-teaching [DP]
13	Group micro-teaching preparation [DP]
14	Review; Group micro-teaching preparation [DP]
15	Group micro-teaching & course reflection [DP]
16	None

科目名:OG52S6005　English for Children Ⅱ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
This course is related to practical ability to communicate in English, to think critically, and apply logical and creative communication skills as mentioned in the SLADE diploma policy. This course introduces students to various techniques, activities and methods used when teaching English to elementary school children, and uses an active learning approach. [AL][EN]

授業の到達目標
Upon successful completion of this course, students will be able to:
1. plan and use activities related to the four language skill areas (listening, speaking, reading and writing) to teach English to elementary school children using practical English communication skills [DP]
2. critical analyse and recognise what topics and activities are suitable for each grade level at elementary school [DP]
3. logically and creatively plan & deliver classes in a professional manner [DP]
4. objectively evaluate oneself through reflection journaling and assignment feedback

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
Students are expected to use only English in class [EN]. Full class participation in class activities is required to demonstrate understanding and ability [AL]. Students will periodically write a class reflection journal. Timely completion of homework is necessary. Since this is a 2 credit course students are expected to do 3.5 to 4 hours of homework each week.

評価方法
1. Weekly homework - 6 submissions (30%): All homework is to either be submitted on Moodle or to the instructor in class and feedback will be provided via Moodle, or provided in class straight after completing the tasks.
2. Individual micro-class teaching (40%): Feedback will be provided straight after completing the task in class individually.
3. Review Quizzes - 2 times (10%): All quizzes are on Moodle and feedback is provided with correct answers and explanations after completing the quiz.
4. Reflection journals - 5 times (10%): All journals are on Moodle and feedback will be provided a week after submission via Moodle.
5. Course reflection report (10%): Feedback will be provided in class individually

教科書	参考図書
All textbook materials will be provided by the instructor in a booklet.	None

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
There are no prerequisites to this course. This course is related to the Teacher License Course. Missed coursework components may be re-scheduled with the instructor's permission. If students have any questions about the course please contact the teacher. Contact information is available on the Moodle course page.

01	Course overview and explanation
02	Overview of suitable elementary school English topics and child-centred teaching [DP]
03	Introduction of the four language skills; Introduction to listening activities & techniques [DP]
04	Practice listening activities [DP]
05	Introduction of speaking activities & techniques [DP]
06	Practice speaking activities & techniques [DP]
07	Review & MEXT guidelines for the elementary English program [DP]
08	Introduction of reading activities & techniques [DP]
09	Practice reading activities [DP]
10	Introduction of writing activities & techniques [DP]
11	Practice writing activities [DP]
12	Review [DP]
13	Individual micro-class teaching preparation [DP]
14	Individual micro-class teaching [DP]
15	Individual micro-class teaching; Course Reflection [DP]
16	None

科目名:OG21S6010　英語科教育法　Ⅰ	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭
この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、英語教育を行う場として小学校、中学校・高等学校における指導・実践方法について具体的な検討を行う。また、英語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。【ＡＬ】
【概要】
この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても、教育現場の最新情報を確認しながら体験的に学ぶことができるようにする。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。

授業の到達目標
a. 学習指導要領を理解し、主として中学校における教育課程編成のあり方を理解することができる。また学習指導要領における中学校での外国語教育の位置づけを理解することができる。b.４技能（リスニング・スピーキング・リーディング・ライティング）の指導方法を理解することができる。c.英語教育諸理論、ならびに関連分野の諸理論を理解することができる。d.主として中学校における授業を想定した指導案を作成することができる。f. 実践的な英語コミュニケーション能力の意味を理解し、教師が持つべき論理・創造的発信力を身につけることができる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○実践的な英語コミュニケーション能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教育は大変時間が必要とされる分野である。しっかりとした理論を書籍や研究論文を通して学び、それをどのように授業実践にいかしていくべきなのか？ということを常に考えることが必要である。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要であることに加え、英語教育に関するニュース等は常に意識して、見たり聞いたりすることが望ましい。

評価方法
①授業中の小テスト　10%　②原書購読課題　30%　③学期末のレポート　５0%　④CRP　１０%
模擬授業のフィードバック・指導案作成課題のフィードバックは授業時間内に一定時間をとって行う予定である

教科書	参考図書
石田雅近・小泉仁・古家貴雄（著）新しい英語科授業の実践（金星堂）笠島準一（他　代表）NEW HORIZON 1/2/3（東京書籍）	文部科学省　小学校／中学校／高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
１年次の教職科目をすべて履修していること、および学習指導案の作り方を理解していることを原則とする。その他、学科教職課程委員会の定める履修規定が適用される 研究室：７３１１

01	オリエンテーション（授業進行説明）
02	中学校教育課程編成のあり方について
03	試験–英語教育と語用論中学校教育課程編成のあり方について
04	英語教育に求められているもの
05	中学校授業実施のための学習指導案作成方法、および授業分析方法
06	中学校英語授業の現状　（※中間アンケート実施）
07	学習指導要領における外国語活動（小学校）の位置づけについて
08	小学校における外国語活動と英語教育
09	英語教授法解説
10	コミュニケーション能力の育成について
11	リスニング指導のあり方（選択的リスニング・包括的リスニング・相互作用的リスニング）
12	スピーキング指導のあり方（発音指導・ゲームの有用性・インフォメーションギャップをいかした指導法）
13	リーディング指導のあり方（スキーマ理論・音読/黙読の有効性）
14	ライティング指導のあり方（フリーライティングアプローチ・パラグラフパタンアプローチ・文法/統語・構成アプローチ）
15	授業総括／英語模擬授業について（※学期末授業アンケート実施）
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG22S6011　英語科教育法 Ⅱ	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭
この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、英語教育を行う場として小学校、中学校・高等学校における指導・実践方法について具体的な検討を行う。また、英語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。【ＡＬ】
【概要】
この授業科目では、中学校及び高等学校教諭としての経験を踏まえ、教育現場における英語指導方法について必要な理論の検討を行う。また、中学校、高等学校での英語授業を実施するための指導計画の作成・活用についても行い、それらに基づく模擬授業を多く実践し、体験的な学びを多く取り入れることとする。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。

授業の到達目標
a. 前期に学んだ英語教育理論を実践に応用することができる。b. 学校文法の正しい知識を、コミュニケーション活動を中心とした活動で学習者に伝えるような授業を考えることができる。c. 教科書をもとに、適切な学習指導案を作成することができる。d. 教師／学習者それぞれの立場で積極的に模擬授業に参加することができる。f.実践的な英語コミュニケーション能力の意味を理解し、教師が持つべき論理・創造的発信力を身につけることができる。 (DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
教育は、その実践を行う前に大変準備時間が必要とされる分野である。模擬授業指導案は、様々な実践方法をDVDなどを通してイメージし、時間をかけて作成しなければならない。また、毎週4時間程度の授業外学修が必要であるが、その際に前期に学んだ各種英語教育理論をどのように実践にいかしていくべきなのか？ということを常にイメージしておくことが要求される。

評価方法
①CRP　10%　②担当授業に対しての学習指導案の作成　20%　③模擬授業において、教師として 授業をマネジメントする姿勢　20%　④学期末のレポート　50%
模擬授業のフィードバック・指導案作成課題のフィードバックは授業時間内に一定時間をとって行う予定である

教科書	参考図書
石田雅近・小泉仁・古家貴雄（著）新しい英語科授業の実践（金星堂）笠島準一（他　代表）NEW HORIZON 1/2/3（東京書籍）	文部科学省　小学校／中学校／高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
前期の英語科教育法Ｉ受講に際し、適用される要件、並びに英語科教育法Ｉを履修済みであることを、原則として受講条件とする。研究室：７３１１

01	オリエンテーション（授業概要説明）
02	模擬授業１、およびその分析（テーマ：be動詞の指導方法）
03	模擬授業２、およびその分析（テーマ：一般動詞の指導方法）
04	模擬授業３、およびその分析（テーマ：疑問詞の指導方法）
05	模擬授業４、およびその分析（テーマ：助動詞の指導方法）
06	模擬授業５、およびその分析（テーマ：過去形の指導方法）
07	模擬授業６、およびその分析（テーマ：進行形の指導方法）
08	模擬授業７、およびその分析（テーマ：不定詞の指導方法）
09	模擬授業８、およびその分析（テーマ：比較構文の指導方法）
10	模擬授業９、およびその分析（テーマ：There構文の指導方法）
11	模擬授業10、およびその分析（テーマ：受動態の指導方法）
12	模擬授業11、およびその分析（テーマ：現在完了の指導方法）
13	模擬授業12、およびその分析（テーマ：関係代名詞の指導方法）
14	講義-新学習指導要領に基づく望ましい中学校英語授業のあり方について
15	授業、模擬授業総括　※学期末授業アンケート実施
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG21S7001　Tourism English　I	担当者:樋田 禎美	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
観光英語の学習を通じて、実践的な英語コミュニケーション能力を身につけます。観光英語検定試験3級出題される問題を練習しながら、観光や旅行に必要となる初歩的な英語を学びます。テキストで紹介される場所を検索し、各地の魅力を見つけ、学び合います。学芸学部ディプロマポリシーに掲げられる実践的な英語コミュニケーション能力と現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけることを重視しています。

授業の到達目標
１．楽しく安全な海外旅行をするために必要な英語コミュニケーション能力を身につけ、観光英検3級に必要なスキルを獲得する。(DP)
２．世界の観光地に興味を持ち、資料（チラシ、料金表、メール、メニューなど）から必要な情報を取り出すことができるようになる。(DP)
３．観光業界における慣用表現に親しみ、主体的に使用して英語で表現できるようになる。(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修（2時間）
TEAMSに配信される課題１～12に取り組み、締切を守って提出してください。第8回、第14回で実施する確認テストはリスニングと筆記問題です。課題と授業ノートを復習して準備してください。第8回、第15回では第１回、第9回に配布するフレーズリストを表現するパフォーマンステストを行います。毎回繰り返し練習しますが、授業外でも定着を図ってください。

事後学修（2時間）
毎回授業の最初に、前時の復習クイズを実施します。間違いが多かった問題を確認テストに出題しますので、定着を図ってください。

評価方法
授業への参加態度26％(授業内で複数回発言する機会をつくります。自分で選んで発言してください)　提出物24％(特徴的な間違いについては授業内で解説します。)　確認テスト40％（リスニング、筆記、パフォーマンステスト）CRP10％

課題のフィードバックはTEAMSのコメント欄に記入します。授業ノートは回収して点検し、翌週復習クイズのために返却します。パフォーマンステストの結果、注意点はその場で伝えます。

教科書	参考図書
English For Tourism Basic（三修社）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で紹介するサイトやアプリで英語に触れる時間を増やしてください。練習量は決して裏切りません。
連絡先はオリエンテーションで開示します。

01	オリエンテーション
02	Unit 1: Travel　Additional Unit 1
03	Unit 2: Jobs and People　Additional Unit 2
04	Unit 3: Getting on the Plane　Additional Unit 3
05	Unit 4: At the Immigration and Customs　Additional Unit 4
06	Unit 5: At the Airport　Additional Unit 5
07	Unit 6: Hotel(Accommodations)　Additional Unit 6
08	Unit 1-6 復習　確認テスト①
09	Unit 7: Restaurant(Breakfast and Fast Food)　Additional Unit 7
10	Unit 8: Sightseeing　Additional Unit 8
11	Unit 9: Shopping　Additional Unit 9
12	Unit 10: Transportation　Additional Unit 10
13	Unit 11: Problems and Complaints　Additional Unit 11,12
14	まとめと復習　確認テスト②
15	パフォーマンステスト　CRP作成
16	なし

科目名:OG22S7002　Tourism English Ⅱ	担当者:樋田 禎美	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
観光英語の学習を通じて、実践的な英語コミュニケーション能力を身につけます。観光英語検定試験2級の問題を練習し、ホテル業務や出入国に関する手続きなどの旅行業に必要となる基本的な英語を学びます。テキストで紹介される名所旧跡を検索し、各地の魅力をまとめます。学芸学部ディプロマポリシーに掲げられる実践的な英語コミュニケーション能力と現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力を身につけることを重視しています。

授業の到達目標
１．楽しく安全な海外旅行を支えるために必要な英語コミュニケーション能力を身につけ、観光英検2級に必要なスキルを獲得する。(DP)
２．世界の観光地に興味を持ち、検索して知識を深め、各地の魅力を伝えることができるようになる。(DP)
３．観光業界における慣用表現に親しみ、主体的に使用して英語で表現できるようになる。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
○グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力
◎ 現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
準備学修（2時間）
TEAMSに配信される課題１～12に取り組み、締切を守って提出してください。第8回、第14回で実施する確認テストはリスニングと筆記問題です。課題と授業ノートを復習して準備してください。第8回、第15回では第１回、第9回に配布するフレーズを表現するパフォーマンステストを行います。毎回繰り返し練習しますが、授業外でも定着を図ってください。

事後学修（2時間）
毎回授業の最初に、前時の復習クイズを実施します。間違いが多かった問題を確認テストに出題しますので、理解を深めてください。

評価方法
授業への参加態度26%(授業内で複数回発言する機会をつくります。自分で選んで発言してください)　提出物24%（特徴的な間違い、誤解については授業内で解説します）　確認テスト40%（リスニング　筆記）CRP10%

課題のフィードバックはTEAMSのコメント欄に記入します。授業ノートは回収して点検し、翌週復習クイズのために返却します。パフォーマンステストの結果、注意点はその場で伝えます。

教科書	参考図書
English For Tourism: Intermediate （三修社）	授業内で紹介します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
授業内で紹介するサイトやアプリで英語に触れる時間を増やしてください。練習量は決して裏切りません。
連絡先はオリエンテーションで開示します。

01	オリエンテーション
02	Unit 1 Travel Information
03	Unit 2 At the Airport
04	Unit 3 Hotel
05	Unit 4 Dining
06	Unit 5 Asking and Giving Directions
07	Unit 6 Buses and Trains
08	Unit 1-6,12 復習　確認テスト①
09	Unit 7 Mailing and Money Exchange
10	Unit 8 Sightseeing(1)
11	Unit 9 Sightseeing(2)
12	Unit 10 Problems and Complaints
13	Unit 11 Tour Conductor Duties
14	Unit7-12 復習　確認テスト②
15	パフォーマンステスト　CRP作成
16	なし

科目名:0G51S7005　観光ホスピタリティ	担当者:笹生 友広	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】旅行会社勤務
　旅行会社での勤務経験を踏まえて、我が国の観光業におけるホスピタリティの現状を具体的事例を参照しながら検討を行う。
　本授業においては学芸学部のディプロマポリシーである「現代社会において必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」の習得が望まれる。ホスピタリティ産業の代表である宿泊業、交通運輸業、旅行業、テーマパークなどの観光産業でホスピタリティ（おもてなしの心）が発揮され、人に喜びや感動を与えている取り組みを学修する。経験、体験を通した実践的な内容の講義スタイル。課題によってはグループでディスカッションを行う。【AL】

授業の到達目標
観光産業に限らず、人にしかできない分野・部門が大切であることが理解でき、働くことの意味及び自分のキャリアを育むことができるようになる。（ＤＰ）
また、社会生活のあらゆる場面で必要な「思いやり、気づき、取り組み姿勢」などの社会人の基礎力が増し、社会生活への意識を高めることが出来るようになる。（ＤＰ）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○批判的思考、論理・創造的発信力
◎ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
各種メディア（新聞、書籍、ＴＶ等）や、関連のホームページ、ＳＮＳ等からホスピタリティ産業の情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。

評価方法
授業への参加態度（30%）、期末レポート（40%）、毎回のレポート（20%）、CRP（10%）などを総合して評価する。
毎回のレポートについては、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた答案、論文等の紹介をする。

教科書	参考図書
プリントなどを配布します	授業にて指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室
毎回のレポートで質問などは随時受け付けます。個別質問はオフィスアワー等を活用してください。

01	4/08 ホスピタリティとは（語源、概念、日本語での言葉）
02	4/15 ホスピタリティとサービスの違い（サービスの語源、概念、定義、ビジネス上の違い）
03	4/22 求められる背景① 消費行動の変化（モノからコト消費へ、サービスの質的変化が加速）
04	5/06 求められる背景② 産業構造の変化（サービス経済社会へ、ホスピタリティ産業の必要性）
05	5/13 観光産業について（観光とは、とりまく業種・業界、役割）
06	5/20 宿泊業（ホテル）のホスピタリティ①宿泊産業の仕組み、業務内容
07	5/27 宿泊業（ホテル）のホスピタリティ②語源との関係、ホスピタリティの実践事例
08	6/03 航空会社のホスピタリテイ（業務内容、ホスピタリティの実践事例）
09	6/10 テーマパークのホスピタリティ（ディズニーのホスピタリティ、実践事例）
10	6/17 旅行業のホスピタリティ①仕組み、役割、業務内容
11	6/24 旅行業のホスピタリティ②ホスピタリティの実践事例
12	7/01 観光地におけるホスピタリティ①（観光客を受け入れる立場から）　(CRP作成)
13	7/08 観光地におけるホスピタリティ②（観光客を受け入れる立場から）　(CRP作成)
14	7/15 ホスピタリティの現場をみる（観光産業で活躍している人達に学ぶ）　(CRP提出)
15	7/22 ホスピタリティを社会生活で活かす（活かし方、コミュニケーション力の大切さ、働き方）
16	なし

科目名:OG21S7008　観光マーケティング	担当者:笹生 友広	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】旅行会社勤務
　旅行会社での勤務経験を踏まえて、マーケティングの観点から観光産業における具体的事例を参照しながら学習する。
　本授業においては学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」の習得が望まれる。現代企業において最も重要な活動のひとつであるマーケティングの基本を学びながら、観光産業におけるマーケティングを具体的に学習し、グループディスカッションを行い、その内容を発表する。授業ごとにレポートを提出し理解度を把握する。【AL】

授業の到達目標
①一般的なマーケティングの基礎知識を習得する（ＤＰ）
②幅広い裾野を持つ観光産業の具体的な事例を参照に現状を分析する力を養う（ＤＰ）
③各分野の課題などを学修することにより自分なりの意見をまとめる力を養う（ＤＰ）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○批判的思考、論理・創造的発信力
◎ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
各種メディア（新聞、書籍、ＴＶ等）や、関連のホームページ、ＳＮＳ等からマーケティング、観光産業の情報を入手し、社会情勢に対して強い関心を持つ。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。

評価方法
授業への参加態度（30%）、期末レポート（40%）、毎回レポート（20%）、CRP（10%）などを総合して評価する。
毎回レポートについては、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた答案、論文等の紹介をする。

教科書	参考図書
プリントを配布します。	授業にて指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室
毎回のレポートで質問などは随時受け付けます。個別質問はオフィスアワー等を活用してください。

01	10/03 一般的マーケティングの基本
02	10/10 観光産業のマーケティング・ミックス（4Ｐ）
03	10/17 人の購入行動（ニーズ・ウォンツ・需要の違い）
04	10/24 顧客は誰？（セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、ドメイン）
05	10/31 購買意思決定プロセス
06	11/07 旅行商品の流通
07	11/14 競争戦略（価格戦略）①
08	11/21 競争戦略（価格戦略）②
09	11/28 マーケティングの環境分析（SWOT分析） ① グループディスカッション
10	12/05 マーケティングの環境分析（SWOT分析）発表 ② グループディスカッション
11	12/12 商品のライフサイクル
12	12/19 プロモーション（販売促進）　（CRP作成）
13	12/26 競争戦略（ブランド戦略）　（CRP作成）
14	01/09 顧客管理　（CRP提出）
15	01/16 マーケティング・リサーチ
16	なし

科目名:OG21Z9002　道徳教育の指導法	担当者:柴田 康正	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。
　授業では、教科や総合学習・特別活動と道徳教育との関係、生徒指導の場における道徳教育、道徳の時間の運営の各領域にわたってわが国の教育実践例を知り、欧米における道徳教育改革の動向をも踏まえて、道徳教育実践の基礎的能力を身につける。また、現代は人格破壊の危機・道徳的危機というべき様相を呈している。このような状況の中で、学校教育の中の道徳教育はどうあるべきかを考察する。戦前・戦後の道徳教育の変遷をたどり、さらにこれまでの道徳教育実践に学び、今、求められる「道徳の授業」とは何かを検討する。また、実際に「道徳の時間」の指導案を書き、模擬授業をすることも視野に入れ講義をすすめる。
　前半は主として講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。グループディスカッションをする中で、道徳教育についての理解を深める。後半では、道徳授業の資料の選択と分析、学習指導案の作成、模擬授業の実践など、演習形式によって受講生各人の具体的な活動の場を提供する。

授業の到達目標
①道徳教育の制度的な位置づけと、学校教育におけるその意味と役割について基礎的な事項を理解する。（DP）
②道徳教育を支える思想や理念についての基礎的理解にもとづき、道徳の授業がいかにあるべきかを理解する。（DP）
③道徳の授業が成立するための具体的な知識や技法を習得する。（DP）
④道徳の授業における資料の分析方法、学習指導案作成の手順、発問や話し合いの方法ついて理解を深める。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
「模擬授業」の事前準備、振り返りで30時間程度の予習復習を要します。また、毎時間ごとの文献購読や事前課題、グループワークの振り返りで30時間程度の学習を考えています。
課題意識を持って、意欲的に授業に臨んでほしい。道徳教育に対して常に関心を持ち、参考文献なども読み進めておくことが求められます。

評価方法
①話し合ったことなど自分の意見を明確に整理してまとめ、毎授業ごと小レポートを提出する。これも評価をする。
②課題の提出期限を厳守すること。
③学習指導案を作成し、模擬授業をする。
④授業の妨げとなるため、やむを得ない事情のない限り、遅刻は認めない。
⑤評価に関する主な観点は以下のとおりである。
・授業の議論の内容、及び参加状況　10%、学習指導案　10%、模擬授業　20%、定期試験　60%

教科書	参考図書
特に使用しない	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、生徒指導提要

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・連絡手段　月曜昼休み講師控室

01	今日における道徳教育の課題
02	学校教育における道徳教育の構成
03	道徳教育と家庭の問題状況
04	道徳教育と地域の問題状況
05	子どもの発達と道徳性の形成
06	道徳教育の倫理学的・哲学的・心理学的基礎
07	日本における道徳教育の歴史
08	学習指導要領と道徳教育
09	道徳性の発達と道徳の授業
10	道徳教育の教材と指導過程　（授業記録の検討とグループディスカッション）【AL】
11	道徳教育の指導案をつくる①（道徳内容「自分自身に関すること」を題材とする）
12	道徳教育の指導案をつくる②（道徳内容「他の人とのかかわりに関すること」
13	道徳教育の指導案をつくる③（道徳内容「自然や崇高なものとのかかわりに関すること」　（教材の検討とグループディスカッション）【AL】
14	道徳教育の指導案をつくる④（道徳内容「集団や社会とのかかわりに関すること」
15	道徳の授業の実際（模擬授業）
16	定期試験

2024年度シラバス

科目名:OG22Z9003　生徒・進路指導論	担当者:柴田 康正	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許・資格:中学校・高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	後期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択必須

授業概要と方法
　授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「修得した知識に基づいて、批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。
　授業では、学校教育の全領域における生徒指導（教育相談、進路指導を含む）の原則と指導方法を検討し、学校教育における生徒指導のあり方を探求する。生徒指導について深く理解できるよう、時事的な話題を盛り込みながら、様々な問題と課題および実践的方法を紹介する。
　講義形式をとるが、随時、受講生の意見や感想を求めるので、自らの問いを立てて授業にのぞむことを求める。双方向型の授業を重視し、グループディスカッションも多く取り入れていきたい。【AL】

授業の到達目標
①学校教育における生徒指導の目的と原則について理解する。（DP）
②生徒指導の意義と課題、並びに具体的な指導のあり方について理解する。（DP）
③生徒指導の各場面における「子ども理解」の重要性が意識でき、子どもの人権尊重の視点に立った子ども理解ができるようになる。（DP）
④現代の生徒指導にかかわる諸課題と、指導の内容と方法について、学校現場での事例を通して理解できる。
⑤近年進路指導の中核となりつつあるキャリア教育の意義と課題を理解する。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修・事後学修
　文献の購読や事前課題を30時間、グループワークの振り返り、復習、期末テスト対策等でおおよそ30時間の学習を要します。
課題意識を持って、意欲的に授業に臨んでほしい。教育問題に対して常に関心を持ち、参考文献なども読み進めておくことが求められます。

評価方法
①毎授業ごと小レポートを提出する。これらは評価の対象となる。
②課題の提出期限を厳守すること。
③授業の妨げとなるため、やむを得ない事情のない限り、遅刻は認めない。
④評価に関する主な観点は以下のとおりである。
・授業の議論の内容、及び参加状況　10%、課題（小レポート等）20%、定期試験　70%

○次回の授業日で、課題の中の特徴的な見解についての解説や学生の優れた意見の紹介をする。最終授業時に全体に向けてのフィードバックを行う。

教科書 特に使用しない	参考図書 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領、生徒指導提要

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
・連絡手段　月曜昼休み講師控室

01	生徒指導の意義と課題
02	生徒理解と生徒指導
03	不登校と生徒指導
04	今日におけるいじめ問題と生徒指導　（ネットいじめをめぐるグループディスカッション）【AL】
05	校則と生徒指導
06	生徒に対する懲戒と体罰禁止
07	学級経営における生徒指導　（発達障害への対応をめぐるグループディスカッション）【AL】
08	生徒指導と教育課程
09	教科指導や道徳・特別活動における生徒指導
10	進路指導と生徒指導
11	進路指導の意義と実際
12	生徒指導と生活指導
13	生活指導の歴史的系譜
14	「総合的な学習の時間」における生徒指導
15	まとめ　今日における生徒指導の課題
16	定期試験

科目名:OG22Z9013　学校教育インターンシップ	担当者:石渡 雅之	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	実習
免許･資格:中学校･高等学校教諭1種免許状（英語）		開講時期	前期
		配当学年	2
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】中学校・高等学校教諭
この授業科目では、元中学校・高等学校教諭での経験を踏まえ、言語教育を体験的に学ぶ場としてアメリカの小学校や中学校における指導・実践方法について具体的な教員としてのインターンシップ活動を支援していく。また、言語教育を実施するための学習指導案の作成・活用について体験的に学ぶことができるようにする。
【概要】
大学において、インターンシップ先の実習校について理解し、必要な業務内容を理解し、実際に業務に耐えうる知識をつけて、アメリカにおける公立学校で小学生、または中学生を対象とした日本語、英語の授業実践補助を行う。キャンパス内での授業における事前指導、ESCを活用した事前学習、現地での事前指導、教員補助実習、帰国後の事後指導の各内容が本授業に含まれる。尚、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信ができる能力」と関連している。

授業の到達目標
①児童又は生徒との関わりを通して、その実態や課題を把握することができる。
②学級担任や教科担任等の補助的な役割を担うことができる。
③学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解することができる。
④教科指導以外の様々な活動の場面で適切に児童又は生徒と関わることができる。
⑤批判的思考で学校を見つめることができ、かつ外国における日本語教授・授業に携わる中で、国際社会貢献力を磨くことができる。

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
（事前）語学教育が海外においてどのように実施されているか（使用されている教授法や教材研究方法）調べること。
（事後）語学教育で扱われていた各種教授法、教材作成方法がどのように日本の英語教育現場で活用できるか、研究すること。
（事前・事後）教師の実際の役割を様々な角度から見つめ、理解すること。

評価方法
ESCを活用した事前学習（１０％）、オリエンテーションへの参加態度（１０％）、インターンシップへの参加態度（３０％）、インターンシップ受入れ校の評価（２０％）、事後プレゼンテーション（２０％）、CRP（１０％）

教科書	参考図書
行き先の学校・業務に応じたテキストを授業時までに指示する。	文部科学省：中学校学習指導要領　文部科学省：高等学校学習指導要領

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
インターンシップ実施までに、学科が指定した教職課程に関する授業を履修済みであること。履修希望者は語学教育実践に必要な教授法や教材作成方法などをしっかりと身につけることが望ましい。実習中は、常に担当教員と連絡がとれるようにしておく（緊急時の携帯電話や通常コミュニケーションとしてムードルサイトの利用など予定である。　研究室　７３１１

01	１月下旬～２月初旬：キャンパスにおけるオリエンテーション（３日間実施予定） ２月初旬～３月中旬：アメリカ・ポートランドの公立小学校におけるインターンシップ（１４日間実施予定） ※本授業は講義・演習・実習が組み合わさっている授業である。講義９時間、演習７時間、実習６．５時間の合計２２．５時間をもって２単位を履修することが可能になるプログラムである。
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

科目名:OG51S3023　英語資格講座ＩＡ	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:受講時にTOEIC180点以上の成績を証明できる者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」と「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」と関連している(DP)。毎回TOEIC受験に必要な単語の小テストを行う。その他、TOEICのリーディングパートの点数を上げるのに必要な文法解説を行う。

授業の到達目標
本授業の次のレベルはTOEIC２５０点レベルクラスとなっており、この点数到達を目標とする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力(DP)
◎実践的な英語コミュニケーション能力(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に必要な 2時間以上の事前・事後学修に加え、TOEICの点数を上げる為に必要な、リスニングも含めた総合自己学修を本授業では要求する。具体的な自己学修方法については、授業内で指示する。

評価方法
この授業の評価は基本的に英語資格試験の伸び幅で決定される。（英語資格試験：100%)。５月以降、TOEICを最低１回は受験する事を評価の最低条件とする。 出席が開講時数の2/3以上であり、授業内での小テストや試験等に合格した場合の成績は「可」とする。それ以上の成績はTOEIC受験の結果で判断する。受講時の点数と比較して、15回目の授業までに0-19点伸びた者はC、20-29点伸びた者はB、30-39点伸びた者はA、40点以上伸びた者はAAとする。TOEIC等の点数を元に判断するが、欠席数が６回以上の学生はFとする。尚、英検の合格級や、CASECの取得点数によっても単位取得が可能であるが、その詳細については第１回のオリエンテーションにて説明する。また、課題に対するフィードバックは、授業内やMoodle等を活用して行う。

教科書	参考図書
川端淳司　他. (2021). PRACTICAL EXERCISES FOR THE TOEIC L&R TEST.　松柏社.	授業中に随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業（同名授業A～D）の履修方法、並びに評価方法については、詳細に第１回目の合同オリエンターションにて詳細に説明する。受講希望者は必ずこのオリエンテーションに参加すること。

01	全体オリエンテーション
02	Unit 1　リスニングPart 1 & 2 / リーディング Part 5 & 6
03	Unit 2　リスニングPart 3 / リーディング Part 7（シングル・ダブルパッセージ)
04	Unit 3　リスニングPart 4 / リーディング Part 7（トリプルパッセージ)
05	Unit 4　オフィス①勤務・書類・メール・職場環境など
06	Unit 5　健康・医療・環境
07	Unit 6　休暇・旅行関連 Unit 6
08	Unit 7　 オフィス②会議・プレゼンなど
09	Unit 8　イベント（美術展・パーティなど)
10	Unit 9　 買い物 Unit 9　買い物
11	Unit 10　不動産・広告・経済など
12	Unit 11　レストラン・食事
13	Unit 12　オフィス③雇用関係・給与関係など
14	Unit 13　エンターテイメント
15	Unit 14　 事業・契約・交渉・キャンペーンなど
16	なし

2024年度シラバス

科目名:OG51S3024　英語資格講座ＩＢ	担当者:新谷 敦子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」と関連しているTOEIC受験に必要な単語のペアワーク小テストを毎回行う。その他、主としてTOEICのリーディングパートの点数を上げるのに必要な文法解説を毎時間行い、リスニングパートの点数を上げるためにスキットのペアワークを行う。【AL】

授業の到達目標
本授業の次のレベルはTOEIC３５０点レベルクラスとなっており、この点数到達を目標とすることができるようになる。（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力（DP）
◎実践的な英語コミュニケーション能力（DP）

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に必要な事前１時間／事後１時間学修に加え、TOEICの点数を上げる為に必要な、リスニングも含めた総合自己学修を毎授業2時間程度要求する。具体的な自己学修方法は、授業内で指示する。

評価方法
5月以降、TOEICを最低1回は受験する事を評価の条件とする。受講時の点数と比して、15回目の授業までの伸びが、0-19点C、20-29点B、30-39点A、40点以上はAAとする。点数の伸びが見られない場合は、授業内の小テスト及び課題の取り組みの基準を満たせばCとなる。評価内容の割合はTOEICの得点を10割とする。詳細はオリエンテーションにて説明する。机間指導または文書指導により、なぜ間違えたのかを聞き、問題の背景を含め、問題点を正確に把握しフィードバックし学修方法を助言する。

教科書	参考図書
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST	授業時に随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業（同名授業A～D）の履修方法、並びに評価方法については、第１回目の合同オリエンテーションにて詳細に説明する。受講希望者は必ずオリエンテーションに参加すること。教員への連絡手段は、授業時に説明する。

01	全体オリエンテーション
02	TOEIC(R) Practice
03	Unit 1Travel TOEIC Vocabularies & Phrases:「旅行」に関する語句・表現を覚えるPART1.2.3.4
04	Unit 1 PART5.品詞①名詞　PART.6語彙問題①やさしめの語彙 PART.7概要に関する問題①
05	Unit 2 Dining Out TOEIC Vocabularies & Phrases:「食事」に関する語句・表現を覚える
06	Unit 2 PART5.品詞②形容詞　PART.6語彙問題②難しめの語彙 PART.7詳細情報に関する問題①
07	Unit 3 Daily Life TOEIC Vocabularies & Phrases:「日常生活」に関する語句・表現を覚える
08	Unit 3 Media　Part5.短文穴埋め問題　6.長文穴埋め問題 7.読解問題　Challenge
09	Unit 4 Entertainment TOEIC Vocabularies & Phrases:「娯楽」に関する語句・表現を覚える
10	Unit 4 PART5.代名詞　PART.6代名詞①主格 PART.7 NOT問題
11	Unit 5 Purchasing TOEIC Vocabularies & Phrases:「買い物」に関する語句・表現を覚える
12	Unit 5 PART5.時制（現在・過去・未来）　PART.6代名詞②所有格 PART.7　意図問題①
13	Unit 6 Offices TOEIC Vocabularies & Phrases:「オフィス」に関する語句・表現を覚える
14	Unit 6 PART5.主語と動詞の一致 PART.6代名詞③まとめPART.7　文挿入問題①
15	Unit 7 RecUnit 7 Clients TOEIC Vocabularies & Phrases:「顧客」に関する語句・表現を覚える
16	No test

科目名:OG51S3025　英語資格講座ＩＣ	担当者:小林 愛明	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」と「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」と関連している(DP)。主として、毎回TOEICのリーディングパートの点数を上げるのに必要な文法解説を行い、合わせてTOEIC受験に必要な単語や表現の小テストを行うことで語彙・文法の両面からより高い得点の獲得を目指す。

授業の到達目標
本授業の次のレベルは、TOEIC500点レベルのクラスとなっており、この点数の到達を目標とする（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎実践的な英語コミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本授業では、TOEICの点数を上げる為に、事前・事後学修として単語の振り返りや、理解を深めるべき文法項目に対する学習や、問題点の整理などの総合自己学修を求める。具体的な自己学習方法については授業内で指示する。自己学修として必要な時間数については、毎週2時間程度である。

評価方法
５月以降、TOEICを最低１回は受験する事を評価の最低条件とする。 出席が開講時数の2/3以上であり、授業内での小テストや試験等に合格した場合の成績は「可」とする。それ以上の成績はTOEIC受験の結果で判断する（100%）。受講時の点数と比較して、15回目の授業までに0-19点伸びた者はC、20-29点伸びた者はB、30-39点伸びた者はA、40点以上伸びた者はAAとする。TOEIC等の点数を元に判断するが、欠席数が６回以上の学生はFとする。尚、英検の合格級や、CASECの取得点数によっても単位取得が可能であるが、その詳細については第１回のオリエンテーションにて説明する。また、課題に対するフィードバックは、授業内や桜花Moodle等を活用して行う。

教科書	参考図書
アリソン・キツマン他. 『TOEICテスト：チャレンジ500-600』. 南雲堂, 2018.	授業中に紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業（同名授業A～D）の履修方法、並びに評価方法については、第1回目合同オリエンテーションにて詳細に説明する。受講希望者は、必ずこのオリエンテーションに参加すること。また、教員への連絡手段については、授業時に説明します。

01	全体オリエンテーション
02	Unit 1 前半
03	Unit 1 後半
04	Unit 2 前半
05	Unit 2 後半
06	Unit 3 前半
07	Unit 3 後半
08	Unit 4 前半
09	Unit 4 後半
10	Unit 5 前半
11	Unit 5 後半
12	Unit 6 前半
13	Unit 6 後半
14	Unit 7 前半
15	Unit 7 後半
16	None

科目名:OG51S3026　英語資格講座ＩＤ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:受講時にTOEIC500点以上を証明できる者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」と関連している。TOEIC500点以上をすでに取得している学生向けに、より高いレベルの得点獲得を目指し学習することを目的としている。模擬テスト形式での実践型授業により、短時間で問題の意図を把握する力、自分の苦手分野を克服し語彙を充実させ、文章を正確に読む力をつける。

授業の到達目標
５００点レベルの学習者は、基礎英文法をある程度理解しているものの、苦手な分野の克服、語彙の充実、読解力の強化が必要である。模擬テスト実施とその解説を理解して上記の力をつけ、５０点アップを目指す。（DP） また、自分の英語力を振り返り長所と弱点を把握し、長所を伸ばし弱点を伸ばす。(DP)

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に必要な事前／事後学修に加え、TOEICの点数を上げる為に必要な、リスニングも含めた総合自己学修を本授業では要求する。具体的な自己学修方法や、自己学修として必要な時間数については最低２時間と考えるが、詳細は授業内で指示する。

評価方法
この授業の評価は基本的に英語資格試験の伸び幅で決定される。（英語資格試験: 100%)。授業開始以降、TOEICを最低１回は受験する事を評価の最低条件とする。受講時の点数と比較して、１５回目の授業までに点数の伸びが０～１９点の者はC、２０～２９点の者はB、３０～３９点の者はA、４０点以上伸びた者はAAとする。TOEIC未受験の者は本授業の評価をFとする。尚、英検の合格級や、CASECの取得点数によっても成績を出す事が可能であるが、その詳細については第１回目の合同オリエンテーションにて説明する。評価のフィードバックは毎回の小テストと提出物、試験結果により行う。

教科書	参考図書
1. Tactics for TOEIC® Listening and Reading Test Student's Book (Oxford University Press) 2. TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック (IiBC)	授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業（同名授業A～D）の履修方法、並びに評価方法については、詳細に第１回目の合同オリエンテーションにて説明する。受講希望者は必ずこのオリエンテーションに参加すること。また、授業時にオフィスアワーを含む、必要な連絡手段等の情報を伝える。

01	Orientation
02	TOEIC explanation
03	TOEIC pre-test
04	Individual orientation based on the test results
05	Basic tactics: Part 1
06	Basic tactics: Part 2
07	Basic tactics: Part 3
08	Basic tactics: Part 4, Mid-term Quiz
09	Summary of Listening Part, Mid-Term Feedback
10	Mid-term review, focusing on English sentence constructions
11	Reading English newspapers
12	Vocabulary study for TOEIC
13	Reading English company e-mails: Expanding vocabulary knowledge
14	Reading travel information: End of Semester Questionnaires
15	Review and wrap-up of the class, summary quiz
16	None

科目名:OG52S3027　英語資格講座ⅡA	担当者:柳田 綾	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 受講時にTOEIC180点以上の成績を証明できる者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」と「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」と関連している(DP)。毎回TOEIC受験に必要な単語の小テストを行う。その他、TOEICのリーディングパートの点数を上げるのに必要な文法解説も行う。

授業の到達目標
本授業の次のレベルはTOEIC300点レベルクラスとなっており、この点数到達を目標とする。

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力 (DP)
◎実践的な英語コミュニケーション能力 (DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に必要な 2時間以上の事前・事後学修に加え、TOEICの点数を上げる為に必要な、リスニングも含めた総合自己学修を本授業では要求する。具体的な自己学修方法については、授業内で指示する。

評価方法
この授業の評価は基本的に英語資格試験の伸び幅で決定される。（英語資格試験：100%)。10月以降、TOEICを最低１回は受験する事を評価の最低条件とする。 出席が開講時数の2/3以上であり、授業内での小テストや試験等に合格した場合の成績は「可」とする。それ以上の成績はTOEIC受験の結果で判断する。受講時の点数と比較して、15回目の授業までに0-19点伸びた者はC、20-29点伸びた者はB、30-39点伸びた者はA、40点以上伸びた者はAAとする。TOEIC等の点数を元に判断するが、欠席数が６回以上の学生はFとする。尚、英検の合格級や、CASECの取得点数によっても単位取得が可能であるが、その詳細については第１回のオリエンテーションにて説明する。また、課題に対するフィードバックは、授業内やMoodle等を活用して行う。

教科書	参考図書
STEP-UP SKILLS FOR THE TOEIC LISTENING AND READING TEST: Level 1 -Basic-	授業中に随時紹介する

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業（同名授業A～D）の履修方法、並びに評価方法については、詳細に第１回目の合同オリエンターションにて詳細に説明する。受講希望者は必ずこのオリエンテーションに参加すること。

01	全体オリエンテーション
02	Unit 1 旅行①
03	Unit 2 オフィス①
04	Unit 3 レストラン Unit 3 レストラン
05	Unit 4 メディア
06	Unit 5 健康
07	Unit 6 旅行②
08	Unit 7 オフィス②
09	Unit 8 不動産・住宅
10	Unit 9 ショッピング
11	Unit 10 就職活動
12	Unit 11 旅行③
13	Unit 12 天気・環境
14	Unit 13 娯楽・スポーツ
15	Unit 14 会議
16	なし

科目名:OG52S3028　英語資格講座ⅡＢ	担当者:新谷 敦子	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」と関連しているTOEIC受験に必要な単語のペアワーク小テストを毎回行う。その他、主としてTOEICのリーディングパートの点数を上げるのに必要な文法解説を毎時間行い、リスニングパートの点数を上げるためにスキットのペアワークを行う。【AL】

授業の到達目標
本授業の次のレベルはTOEIC400点レベルクラスとなっており、この点数到達を目標とすることができるようになる。
(DP)
【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力(DP)
◎実践的な英語コミュニケーション能力(DP)

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に必要な事前1時間／事後1時間学修に加え、TOEICの点数を上げる為に必要な、リスニングも含めた総合自己学修を毎授業2時間程度要求する。具体的な自己学修方法は授業内で指示する。

評価方法
9月以降、TOEICを最低1回は受験する事を評価の条件とする。受講時の点数と比して、15回目の授業までの伸びが、0-19点C、20-29点B、30-39点A、40点以上はAAとする。点数の伸びが見られない場合は、授業内の小テスト及び課題の取り組みの基準を満たせばCとなる。評価内容の割合はTOEICの点数を10割とする。詳細はオリエンテーションにて説明する。机間指導または文書指導により、なぜ間違えたのかを聞き、問題の背景を含め、問題点を正確に把握しフィードバックし学修方法を助言する。

教科書	参考図書
GIGA BOOSTER FOR THE TOEIC® L&R TEST	授業時に随時紹介する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業（同名授業A～D）の履修方法、並びに評価方法は、第１回目の合同オリエンテーションにて詳細に説明する。受講希望者は必ずこのオリエンテーションに参加すること。教員への連絡手段は、授業時に説明する。

01	全体オリエンテーション
02	Unit 8 Recruiting TOEIC Vocabularies & Phrases:「採用・求人」に関する語句・表現を覚えるPART1.2.3.4
03	Unit 8 PART5.動名詞・不定詞　PART.6時制② PART.7概要に関する問題②
04	Unit 9 Personnel TOEIC Vocabularies & Phrases:　「人事」に関する語句・表現を覚えるPART1.2.3.4
05	Unit 9 PART5.比較　PART.6時制③まとめ PART.7詳細情報に関する問題②
06	Unit 10 Advertising TOEIC Vocabularies & Phrases:「広告・宣伝」に関する語句・表現を覚えるPART1.2.3.4
07	Unit 10 PART5.前置詞　PART.6接続表現① PART.7推測させる問題②
08	Unit 11 Media TOEIC Vocabularies & Phrases:「メディア」に関する語句・表現を覚えるPART1.2.3.4
09	Unit 11 PART5.接続詞　PART.6接続表現② PART.7 同義語問題
10	Unit 12 Finance TOEIC Vocabularies & Phrases:「財務」に関する語句・表現を覚える PART1.2.3.4
11	Unit 12 PART5.接続詞・前置詞 PART.6接続表現③ PART.7　NOT問②
12	Unit 13 Meetings TOEIC Vocabularies & Phrases:「会議」に関する語句・表現を覚える PART1.2.3.4
13	Unit 13 PART5.関係代名詞 PART.6 文選択問題① PART.7　意図問題②
14	Unit 14 Sales & Marketing TOEIC Vocabularies & Phrases:「売上」に関する語句・表現を覚える PART1-7
15	Unit 15 Seminar & Workshop TOEIC Vocabularies & Phrases:「セミナー」に関する語句・表現 PART1-7
16	No test

科目名:OG52S3029　英語資格講座ⅡC	担当者:小林 愛明	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」と「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」と関連している(DP)。主として、毎回TOEICのリーディングパートの点数を上げるのに必要な文法解説を行い、合わせてTOEIC受験に必要な単語や表現の小テストを行うことで語彙・文法の両面からより高い得点の獲得を目指す。

授業の到達目標
本授業の次のレベルは、TOEIC500点レベルのクラスとなっており、この点数の到達を目標とする（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎実践的な英語コミュニケーション能力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本授業では、TOEICの点数を上げる為に、事前・事後学修として単語の振り返りや、理解を深めるべき文法項目に対する学習や、問題点の整理などの総合自己学修を求める。具体的な自己学習方法については授業内で指示する。自己学修として必要な時間数については、毎週2時間程度である。

評価方法
５月以降、TOEICを最低１回は受験する事を評価の最低条件とする。 出席が開講時数の2/3以上であり、授業内での小テストや試験等に合格した場合の成績は「可」とする。それ以上の成績はTOEIC受験の結果で判断する（100%）。受講時の点数と比較して、15回目の授業までに0-19点伸びた者はC、20-29点伸びた者はB、30-39点伸びた者はA、40点以上伸びた者はAAとする。TOEIC等の点数を元に判断するが、欠席数が６回以上の学生はFとする。尚、英検の合格級や、CASECの取得点数によっても単位取得が可能であるが、その詳細については第１回のオリエンテーションにて説明する。また、課題に対するフィードバックは、授業内や桜花Moodle等を活用して行う。

教科書	参考図書
アリソン・キツマン他. 『TOEICテスト：チャレンジ500-600』. 南雲堂, 2018.	授業中に紹介します

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業（同名授業A～D）の履修方法、並びに評価方法については、第1回目合同オリエンテーションにて詳細に説明する。受講希望者は、必ずこのオリエンテーションに参加すること。また、教員への連絡手段については、授業時に説明します。

01	全体オリエンテーション
02	Unit 8 前半
03	Unit 8 後半
04	Unit 9 前半
05	Unit 9 後半
06	Unit 10 前半
07	Unit 10 後半
08	Unit 11 前半
09	Unit 11 後半
10	Unit 12 前半
11	Unit 12 後半
12	Unit 13 前半
13	Unit 13 後半
14	Unit 14 前半
15	Unit 14 後半
16	None

科目名:OG52S3030　英語資格講座ⅡＤ	担当者:Rebecca Jackson	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:受講時にTOEIC550点以上を証明できる者		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバル化した社会における実践的な英語コミュニケーション能力」と関連している。[DP] TOEIC５５０点以上をすでに取得している学生向けに６００点以上を目標に、より高いレベルの得点獲得を目指し学習することを目的としている。模擬テスト形式での実践型授業により、短時間で問題の意図を把握する力、自分の苦手分野を克服し語彙を充実させ、文章を正確に読む力をつける。

授業の到達目標
５５０点レベルの学習者は、基礎英文法をある程度理解しているものの、苦手な分野の克服、語彙の充実、読解力の強化が必要である。模擬テスト実施とその解説を理解して上記の力をつけ、５０点アップを目指す。[DP]　また、自分の英語力を振り返り長所と弱点を把握し、長所を伸ばし弱点を伸ばす。[DP]

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎実践的な英語コミュニケーション能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
授業に必要な事前／事後学修に加え、TOEICの点数を上げる為に必要な、リスニングも含めた総合自己学修を本授業では要求する。具体的な自己学修方法や、自己学修として必要な時間数については最低２時間と考えるが、詳細は授業内で指示する。

評価方法
この授業の評価は基本的に英語資格試験の伸び幅で決定される。（英語資格試験: 100%)。１０月以降、TOEICを最低１回は受験する事を評価の最低条件とする。受講時の点数と比較して、１５回目の授業までに点数の伸びが０～１９点の者はC、２０～２９点の者はB、３０～３９点の者はA、４０点以上伸びた者はAAとする。TOEIC未受験の者は本授業の評価をFとする。尚、英検の合格級や、CASECの取得点数によっても成績を出す事が可能であるが、その詳細については第１回目の合同オリエンテーションにて説明する。評価のフィードバックは毎回の小テストと提出物、試験結果により行う。

教科書	参考図書
1. Tactics for TOEIC® Listening and Reading Test Student's Book (Oxford University Press) 2. TOEIC Listening & Reading 公式ボキャブラリーブック (IiBC)	授業内で指示する。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
本授業（同名授業A～D）の履修方法、並びに評価方法については、詳細に第１回目の合同オリエンテーションにて説明する。受講希望者は必ずこのオリエンテーションに参加すること。また、授業時にオフィスアワーを含む、必要な連絡手段等の情報を伝える。

01	Orientation
02	TOEIC explanation
03	TOEIC pre-test
04	Individual orientation based on the test results
05	Interrogative sentences
06	Verb tense
07	Vocabulary study for TOEIC
08	Conjunctions, prepositions
09	Mid-term Quiz, Mid-Term Feedback
10	Mid-term review, focusing on double passages
11	Higher level listening
12	Conjunctive adverb
13	“Not” style questions
14	Higher level reading exercise, summary quiz
15	Review and wrap-up of the class
16	None

2024年度シラバス

科目名:0G51S4025　中国語検定対策Ａ	担当者:布 和	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限: 中国語初級を学んだ学生、基本は2年生以上を対象にしている。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　中国語検定（4級程度）に向けて試験対策を行う授業である。授業では、タイプ別の問題対策を解説した上、問題練習を行う。特に聴力練習や文法的な難点の解説については繰り返し行うつもりである。本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」という能力の養成に関連している。

授業の到達目標
　中国語検定の４級(平易な中国語を聞き，話すことができる。学習時間120～200時間。発音（ピンイン表記）及び単語の意味，常用語500～1,000による単文の日本語訳・中国語訳)の合格を目指す(DP)。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力　○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業の予習・復習に少なくとも４時間以上を使うことが求められる。

評価方法
　授業での問題解答及び模擬試験の点数によって評価する。なお、テストの解説時間を以ってフィードバックとしている。

教科書	参考図書
プリント資料を配布する予定	市販されている問題集

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　教員の連絡先やオフィスアワーなどは授業で開示する。

01	プレースメントテスト
02	過去問題の分析
03	語彙のまとめ
04	表現のまとめ
05	文型のまとめ
06	慣用句のまとめ
07	聞き取りの練習１
08	聞き取りの練習２
09	小結
10	読解の練習１
11	読解の練習２
12	単文の練習
13	複文の練習
14	作文の練習
15	まとめと模擬テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:0G52S4026　中国語検定対策Ｂ	担当者:布 和	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限: 中国語初級を学んだ学生、基本は2年生以上を対象にしている。		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法
　本授業は中国語検定（３級程度）に向けて試験対策を行う授業である。授業では、タイプ別の問題対策を解説したうえで、問題練習を行う。特に聴力練習や文法的な難点の解説については繰り返し行うつもりである。なお、本授業は、学芸学部ディプロマポリシーにある「グローバルな視点から言語および異文化を理解する能力」という能力の養成に関連している。

授業の到達目標
　中国語検定の３級（基本的な文章を読み，書くことができる。簡単な日常会話ができる。学習時間200～300時間。発音（ピンイン表記）及び単語の意味，常用語1,000～2,000による複文の日本語訳・中国語訳。）の合格を目指す（DP）。
【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力　○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
　授業の予習・復習に最低４時間を使うことが求められる。

評価方法
　授業での問題解答及び模擬試験の点数によって評価する。なお、テストの解説時間を以ってフィードバックとしている。

教科書	参考図書
プリント資料を配布する予定	市販されている問題集

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
　教員の連絡先やオフィスアワーは授業で開示する。

01	プレースメントテスト
02	過去問題の分析
03	語彙のまとめ
04	表現のまとめ
05	文型のまとめ
06	慣用句のまとめ
07	聞き取りの練習１
08	聞き取りの練習２
09	小結
10	読解の練習１
11	読解の練習２
12	単文の練習
13	複文の練習
14	作文の練習
15	まとめとテ模擬テスト
16	なし

2024年度シラバス

科目名:0G51S4027　韓国語検定対策Ａ	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本授業は、国際学部国際学科の「検定韓国語初級A「　、「検定韓国語中級A」、　「検定韓国語上級A」で代替実施します（単位の読み替えができます）。受講希望者は、国際学部のシラバスを参考にしてください。	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:0G52S4028　韓国語検定対策Ｂ	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	1
		必須.選択	選択

授業概要と方法 本授業は、国際学部国際学科の「検定韓国語初級B「　、「検定韓国語中級B」、　「検定韓国語上級B」で代替実施します（単位の読み替えができます）。受講希望者は、国際学部のシラバスを参考にしてください。	
授業の到達目標	
授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修	
評価方法	
教科書	参考図書
その他(学生へのアドバイス、連絡手段)	

01	
02	
03	
04	
05	
06	
07	
08	
09	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:OG53S4029　韓国留学	担当者:都 恩珍	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	演習
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
本授業は、グローバルな視点から言語及び異文化を理解する能力、修得した知識に基づいて批判的思考ができ、グローバル化した社会に向けて論理的で創造的な発信力を身につけるための授業です。３週間以上の韓国現地研修を原則とし、韓国語環境で生活する中で社会や文化への理解を深め、語学力を伸ばすことを目的とします。
（1）担当者と各自相談の上、適切なプログラム、語学研修を含め、文化・社会理解のための韓国研修を行う。３週間以上、毎週20時間以上の語学研修を含む内容を原則とします。
（2）説明会の後、研修を希望する学生は、担当者と面談の日程を決め、研修希望内容に合致したプログラムの検討を始めます。担当者が推薦する旅行業者等を活用することが望ましいでしょう。各自が選んだプログラムの場合、その内容や担当旅行業者について確認が必要となります。
C. 関連科目（韓国語と文化、韓国語検定対策など）を合わせて受講することをお勧めします。
D. オンライン留学を検討する場合は事前に相談してください。

授業の到達目標
本研修を実施する者は、各自、次の項目に基づき目標を定めること。
１．語学能力の向上（DP）
２．韓国の社会、生活、文化理解（DP）
３．研修の準備を自分で行い、外国での実践による、自律した学修者としての自覚を持つ（DP）

【到達目標と深く関連する学科DP】
◎言語・異文化を理解する能力
○批判的思考、論理・創造的発信力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
本研修にあたっては、次の手順で準備、実践、事後課題提出・発表を行う。
１．大学が参加者を募る研修、信頼できる旅行会社等が提供するプログラムからの選択、韓国の教育機関等に直接申し込むことも可能である。いずれの場合も安全性について事前に外務省HP等で確認した上で決定する。＜実施２ヶ月前までに＞
２．各自研修の目標を事前にたて、日誌、発表や報告書内にて、その達成度について確認する。

評価方法
日誌　30%
ポートフォリオ（計画書、研修後報告書　日本語または韓国語1200字程度）30%
学内プレゼンテーション30%
Course Reflection　10%
○フィードバックは、研修終了後とプレゼンテーション時に行う。

教科書	参考図書
授業中に資料を配布する。	授業中に適宜示す。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
説明会への出席、担当者との打ち合せを欠かさず行い、事前の準備、渡航先の安全確認を怠らないこと。
連絡方法は個別に提示する。
オフィスアワー：水曜日2限、金曜日２限

01	留学説明会・申込み手続き（エントリシート）
02	韓国事情の学習
03	渡航の準備・受入れ機関に関する事前研修
04	留学の実施①
05	留学の実施②
06	留学の実施③
07	留学終了後の事後のまとめとフィードバック
08	留学体験発表
09	ジャーナルの提出
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	

2024年度シラバス

科目名:0G11S7006　旅行地誌Ａ（国内）	担当者:笹生 友広	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	前期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】旅行会社勤務
　旅行会社での勤務経験を踏まえて、我が国の地理、歴史、文化、生活等を具体的な地域を参照しながら検討を行う。
　本授業においては学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」の習得が望まれる。松尾芭蕉が「奥の細道」で辿った1都13県、ならびに生誕地、終焉地2県の主要都市・観光地の地理、歴史、文化およびその風土などを学ぶことができる。基本的には講義スタイルであるが各観光地の動画や画像を活用することにより分かり易い内容となっている。

授業の到達目標
① 奥の細道に登場する関東、東北、北陸、東海の各地方の1都13県、生誕終焉地2県の主要観光地の
　地理、歴史、文化、生活などの一般的な観光知識を習得する（ＤＰ）
②「奥の細道」の文献内容及びその背景を理解する（ＤＰ）
③ 該当地域の世界遺産、国宝等についての基礎的な知識を習得する（ＤＰ）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学習対象地域の文献、資料等を事前事後に学習することを勧める。またテレビ、新聞、雑誌、ＳＮＳなどの情報にも関心を持ち、より多くの情報を習得する。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。

評価方法
授業への参加態度（30%）、定期試験（40%）、毎回のレポート（20%）、CRP（10%）などを総合して評価する。
毎回のレポートについては、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた答案、論文等の紹介をする。

教科書	参考図書
プリントを配布します。	奥の細道に関する文献

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室
毎回のレポートで質問などは随時受け付けます。個別質問はオフィスアワー等を活用してください。

01	4/12 授業オリエンテーション　松尾芭蕉・俳諧について　「奥の細道」概要
02	4/19 深川～室の八島
03	4/26 日光～黒羽
04	5/10 芦野～白河
05	5/17 白河～須賀川～飯坂
06	5/24 白石～仙台～鹽竈
07	5/31 松島～登米
08	6/07 平泉
09	6/14 尾花沢～立石寺
10	6/21 新庄～出羽三山～鶴岡
11	6/28 酒田～新潟
12	7/05 親不知～金沢　（CRP作成）
13	7/12 山中温泉～福井～大垣　（CRP作成）
14	7/19 芭蕉誕生・終焉地　三重県伊賀上野市／滋賀県大津市（CRP提出）
15	7/26 まとめ（松尾芭蕉について・旅行地誌の考え方）＆期末試験
16	なし

2024年度シラバス

科目名:0G12S7007　旅行地誌Ｂ（海外）	担当者:笹生 友広	開講学科等	学芸学部 英語学科
		授業形態	講義
免許･資格:		開講時期	後期
		配当学年	1
受講者制限:		単位数	2
		必須.選択	選択

授業概要と方法
【担当者の実務経験】旅行会社勤務
　旅行会社での勤務経験を踏まえて、該当国の地理、歴史、文化、生活等を具体的な地域を参照しながら検討を行う。
　本授業においては学芸学部のディプロマポリシーにある「現代社会に必要とされる情報リテラシーを身につけ、国際社会に貢献できる能力」の習得が望まれる。
　授業の前半はフランス（主に北フランス）、後半はイタリアの各地の歴史、文化、風土、生活習慣などを学ぶ。主に講義スタイルであるが、各都市毎のパワーポイントによる資料や、各観光地の動画や画像を活用することにより分かりやすい授業展開となっている。

授業の到達目標
日本人観光客に人気のフランスとイタリアの2カ国について、地理、歴史、文化、風土などの全般的な知識を習得することにより、各国の地誌に関心を持つ。（ＤＰ）
また、世界遺産について学修することで、世界地誌に関する知識を習得する。（ＤＰ）

【到達目標と深く関連する学科DP】
○言語・異文化を理解する能力
◎ ICTリテラシー・国際社会貢献力

授業外に行うべき学修活動(準備学修･事後学修
学習対象地域の文献、資料等を事前事後に学習することを勧める。またテレビ、新聞、雑誌、ＳＮＳなどの情報にも関心を持ち、より多くの情報を習得する。予習復習併せて毎週4時間程度の学習が望まれる。

評価方法
授業への参加態度（30%）、定期試験（40%）、毎回のレポート（20%）、CRP（10%）などを総合的に評価する。
毎回のレポートについては、次回の授業日で学生の特徴的な見解や誤解についての解説、特によくできた答案、論文等の紹介をする。

教科書	参考図書
プリントを配布します。	授業にて指示します。

その他(学生へのアドバイス、連絡手段)
連絡先　sasao@ohkagakuen-u.ac.jp
研究室　7301号室
毎回のレポートで質問などは随時受け付けます。個別質問はオフィスアワー等を活用してください。

01	09/27 授業オリエンテーション　フランスの地理、歴史、文化、経済など
02	10/04 フランスの世界遺産
03	10/11 フランスの建築・絵画の歴史と変遷
04	10/18 ロワール地方
05	10/25 ノルマンディ、ブルターニュ地方
06	11/01 イルドフランス
07	11/15 パリ①
08	11/22 パリ②
09	11/29 イタリアの地理、歴史、文化、経済など
10	12/06 イタリアの世界遺産
11	12/13 ミラノとその周辺
12	12/20 ヴェネチアとその周辺　(CRP作成)
13	12/27 フィレンツェとその周辺　(CRP作成)
14	01/10 ローマとその周辺　(CRP提出)
15	01/17 まとめ（海外に行く意味・旅行地誌について）＆期末試験
16	なし